

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【提出先】	関東財務局長殿
【提出日】	2023年8月22日提出
【計算期間】	みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー（通貨選択型）円コース 第20期 みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー（通貨選択型）米ドル コース 第20期 みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー（通貨選択型）豪ドル コース 第20特定期間 みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー（通貨選択型）メキシコ ペソコース 第20特定期間 みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー（通貨選択型）トルコリ ラコース 第20特定期間 みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー（通貨選択型）ブラジル リアルコース 第20特定期間 （自 2022年11月22日 至 2023年5月22日）
【ファンド名】	みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー（通貨選択型）円コース みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー（通貨選択型）米ドル コース みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー（通貨選択型）豪ドル コース みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー（通貨選択型）メキシコ ペソコース みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー（通貨選択型）トルコリ ラコース みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー（通貨選択型）ブラジル リアルコース
【発行者名】	アセットマネジメントOne株式会社
【代表者の役職氏名】	取締役社長 杉原 規之
【本店の所在の場所】	東京都千代田区丸の内一丁目8番2号
【事務連絡者氏名】	酒井 隆
【連絡場所】	東京都千代田区丸の内一丁目8番2号
【電話番号】	03-6774-5100
【縦覧に供する場所】	該当事項はありません。

第一部【ファンド情報】

第1【ファンドの状況】

1【ファンドの性格】

(1)【ファンドの目的及び基本的性格】

各ファンドは、信託財産の成長を図ることを目的として運用を行います。

各ファンドは、それぞれ以下の外国投資信託と「DIAMマネーマザーファンド」を投資対象とする「ファンド・オブ・ファンズ方式」で運用します。

各ファンドの名称	投資対象となる外国投資信託
円コース	DIAMケイマン・ファンド - ジャパニーズ・エクイティ・ファンド・カレンシー・セレクション 円クラス
米ドルコース	DIAMケイマン・ファンド - ジャパニーズ・エクイティ・ファンド・カレンシー・セレクション 米ドルクラス
豪ドルコース	DIAMケイマン・ファンド - ジャパニーズ・エクイティ・ファンド・カレンシー・セレクション 豪ドルクラス
メキシコペソコース	DIAMケイマン・ファンド - ジャパニーズ・エクイティ・ファンド・カレンシー・セレクション メキシコペソクラス
トルコリラコース	DIAMケイマン・ファンド - ジャパニーズ・エクイティ・ファンド・カレンシー・セレクション トルコリラクラス
ブラジルリアルコース	DIAMケイマン・ファンド - ジャパニーズ・エクイティ・ファンド・カレンシー・セレクション ブラジルリアルクラス

各ファンドの信託金限度額は、各々1,000億円とします。ただし、委託会社は、受託会社と合意のうえ、限度額を変更することができます。

<ファンドの特色>

「みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー(通貨選択型)」には、以下6つの通貨コースがあります。



1 主としてわが国の株式に実質的に投資し、中長期的な信託財産の成長をめざして、積極的な運用を行います。

- 景気動向、金融情勢等の調査に基づいたトップダウンアプローチにより、相場局面の判断を重視した運用を行います。
- 株式相場を回復期、楽観期、調整期、悲観期の4つの局面として捉え、それぞれの局面に応じた銘柄を選定することで、収益の獲得をめざします。
- わが国の株式への投資は、ケイマン籍円建て外国投資信託「DIAMケイマン・ファンドー・ジャパニーズ・エクイティ・ファンド・カレンシー・セレクション」(以下、「外国投資信託」という場合があります。)への投資を通じて行います。外国投資信託の組入比率は、原則として高位を維持することを基本とします。
- 各通貨コースは、外国投資信託の他に、DIAMマネーマザーファンドにも投資します。なお、短期金融資産等に直接投資する場合があります。

2 株式の実質組入比率は50～100%の範囲で弾力的に調整します。

- 外国投資信託において、実質的な株式組入比率は基本的に高位に保ちますが、株式市場の下落リスクが高いと考えられる場合等には、株式の実質組入比率を50～100%の範囲で弾力的に引き下げることができます。
- 株式の実質組入比率の調整は、株価指数先物取引等のデリバティブ取引を活用することや、保有株式を売却して短期金融資産等を保有することで行います。

3 お客さまのご投資ニーズに合わせて、6つの通貨コースから選択することができます。

- 円コース、米ドルコース、豪ドルコース、メキシコペソコース、トルコリラコース、ブラジルレアルコースからお選びいただけます。
- 各通貨コースが投資する外国投資信託においては、原則として円売り各通貨コースの取引対象通貨買いの為替取引^(*)を行います(円コースを除きます。)。この結果、各通貨コース(円コースを除きます。)の基準価額は、取引対象通貨の対円為替変動の影響を受けます。
- 各通貨コース間でスイッチングが可能です。

(*)ここでの為替取引とは、円を売り予約し、取引対象通貨を買い予約する契約を結ぶことです。為替取引を行うと実質的に取引対象通貨を保有することと同様の効果があります。

※販売会社によっては、スイッチングの取扱いを行わない場合があります。

スイッチング時には、ご換金時の費用(信託財産留保額)がかかるほか、税金および各販売会社が定める購入時手数料がかかる場合があります。くわしくは、販売会社にお問い合わせください。

4 決算日に分配を行うことをめざします。

<豪ドルコース、メキシコペソコース、トルコリラコース、ブラジルレアルコース>

- 毎月21日(休業日の場合は翌営業日。)に決算を行い、収益分配方針に基づいて収益の分配を行います。



<円コース、米ドルコース>

- 毎年5月21日および11月21日(休業日の場合は翌営業日。)に決算を行い、収益分配方針に基づいて収益の分配を行います。



※上記はイメージ図であり、将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆、保証するものではありません。

※分配金額は、分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

収益分配金に関する留意事項

◆投資信託の分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。なお、分配金の有無や金額は確定したものではありません。

投資信託から分配金が支払われるイメージ



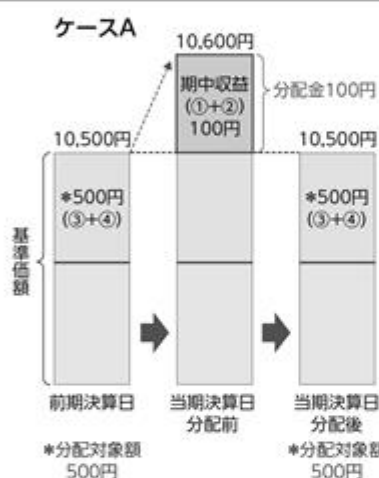
◆分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

分配金額と基準価額の関係（イメージ）

分配金は、分配方針に基づき、以下の分配対象額から支払われます。

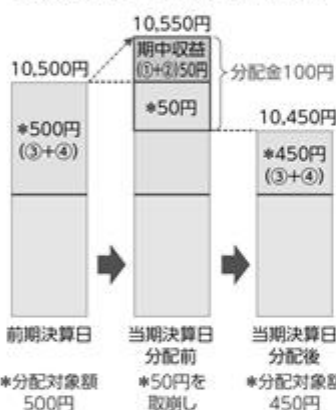
①配当等収益（経費控除後）、②有価証券売買益・評価益（経費控除後）、③分配準備積立金、④収益調整金

計算期間中に発生した収益の中から支払われる場合

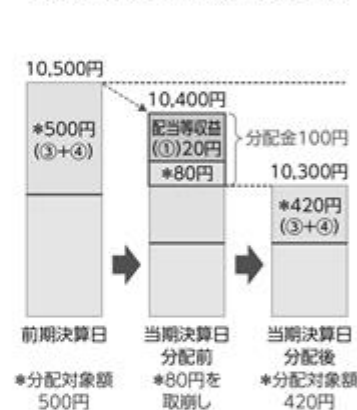


計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

ケースB
<前期決算日から基準価額が上昇した場合>



ケースC
<前期決算日から基準価額が下落した場合>



上図のそれぞれのケースにおいて、前期決算日から当期決算日まで保有した場合の損益を見ると、次の通りとなります。

ケースA：分配金受取額100円+当期決算日と前期決算日との基準価額の差0円=100円

ケースB：分配金受取額100円+当期決算日と前期決算日との基準価額の差▲50円=50円

ケースC：分配金受取額100円+当期決算日と前期決算日との基準価額の差▲200円=▲100円

★A、B、Cのケースにおいては、分配金受取額はすべて同額ですが、基準価額の増減により、投資信託の損益状況はそれぞれ異なった結果となっています。このように、投資信託の収益については、分配金だけに注目するのではなく、「分配金の受取額」と「投資信託の基準価額の増減額」の合計額でご判断ください。

※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではないのでご注意ください。

◆投資者（受益者）のファンドの購入価額によっては、分配金の一部ないし全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



※元本払戻金（特別分配金）は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金（特別分配金）部分は、非課税扱いとなります。

分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合

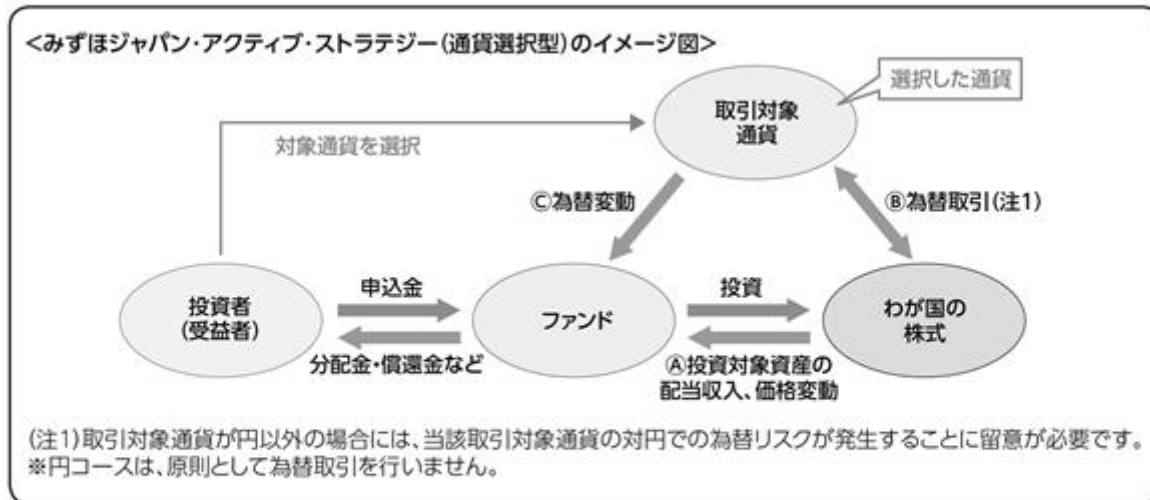


普通分配金：個別元本（投資者（受益者）のファンドの購入価額）を上回る部分からの分配金です。

元本払戻金（特別分配金）：個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者（受益者）の個別元本は、元本払戻金（特別分配金）の額だけ減少します。

通貨選択型投資信託の収益／損失に関するご説明

- 通貨選択型の投資信託は、株式や債券などといった投資対象資産に加えて、為替取引の対象となる通貨も選択することができるように設計された投資信託です。



- みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー(通貨選択型)の収益源としては、以下の3つの要素があげられます。これらの収益源に相応してリスクが内在していることに注意が必要です。

①投資対象資産による収益(上図④部分)

- ・わが国の株式が値上がりした場合や配当が支払われた場合は、基準価額の上昇要因となります。
- ・逆に、わが国の株式が値下がりした場合には、基準価額の下落要因となります。

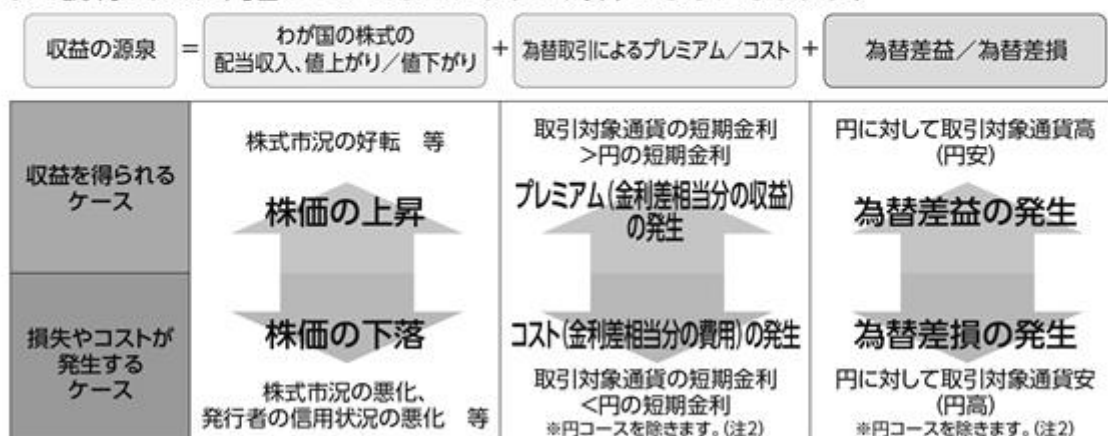
②為替取引によるプレミアム(金利差相当分の収益)(上図⑥部分、円コースを除く)

- ・「選択した通貨」の短期金利が、「わが国の株式の通貨」(円)の短期金利よりも高い場合は、その金利差による「為替取引によるプレミアム(金利差相当分の収益)」が期待できます。
- ・逆に、「選択した通貨」の短期金利のほうが低い場合には、「為替取引によるコスト(金利差相当分の費用)」が生じます。
- ※「選択した通貨」が新興国通貨の場合などは、金利差がそのまま反映されない場合があります。

③為替変動による収益(上図③部分、円コースを除く)

- ・上図⑥部分とは異なり、上図③部分については対円での為替取引を行っていないため、「選択した通貨」の円に対する為替変動の影響を受けることとなります。
- ・「選択した通貨」の対円レートが上昇(円安)した場合は、為替差益を得ることができます。
- ・逆に、「選択した通貨」の対円レートが下落(円高)した場合は、為替差損が発生します。

- これまで説明しました内容についてまとめますと、以下のようになります。



(注2)円コースは、為替取引を行わないため、為替取引によるプレミアム/コストおよび為替差益/為替差損は発生しません。

※市況動向によっては、上記の通りにならない場合があります。

商品分類表

各ファンド

単位型投信 追加型投信	投資対象地域	投資対象資産 (収益の源泉)
単位型投信	国内	株式 債券
追加型投信	海外	不動産投信
	内外	その他資産 () 資産複合

(注) 各ファンドが該当する商品分類を網掛け表示しています。

商品分類定義

追加型投信	一度設定されたファンドであってもその後追加設定が行われ従来の信託財産とともに運用されるファンドをいいます。
国内	目論見書または投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に国内の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
株式	目論見書または投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に株式を源泉とする旨の記載があるものをいいます。

属性区分表

豪ドルコース、メキシコペソコース、トルコリラコース、ブラジルリアルコース

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態
株式 一般	年1回	グローバル ()	ファミリー ファンド
大型株 中小型株	年2回	日本	
債券 一般	年4回	北米	
公債	年6回 (隔月)	欧州	
社債	年12回	アジア	
その他債券 クレジット属性 ()	(毎月)	オセアニア	
不動産投信	日々	中南米	
その他資産 (投資信託証券 (株式))	その他 ()	アフリカ	
資産複合 ()		中近東 (中東)	
資産配分固定型 資産配分変更型		エマージング	

円コース、米ドルコース

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態
株式 一般	年1回	グローバル ()	
大型株	年2回		
中小型株		日本	
債券	年4回	北米	ファミリー ファンド
一般	年6回		
公債	(隔月)	欧州	
社債			
その他債券	年12回	アジア	
クレジット属性 ()	(毎月)	オセアニア	
	日々		
不動産投信		中南米	ファンド・オブ・ ファンズ
その他資産 (投資信託証券 (株式))	その他 ()	アフリカ	
		中近東 (中東)	
資産複合 ()		エマージング	
資産配分固定型			
資産配分変更型			

(注) 各ファンドが該当する属性区分を網掛け表示しています。

属性区分定義

その他資産 （投資信託証券 （株式））	目論見書または投資信託約款において、投資信託証券への投資を通じて、主として株式へ実質的に投資する旨の記載があるものをいいます。 （注）商品分類表の投資対象資産は株式に分類され、属性区分表の投資対象資産はその他資産（投資信託証券（株式））に分類されます。
年12回（毎月）	目論見書または投資信託約款において、年12回（毎月）決算する旨の記載があるものをいいます。
年2回	目論見書または投資信託約款において、年2回決算する旨の記載があるものをいいます。
日本	目論見書または投資信託約款において、組入資産による投資収益が日本の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
ファンド・オブ・ファンズ	「投資信託等の運用に関する規則」第2条に規定するファンド・オブ・ファンズをいいます。

上記の分類は、一般社団法人投資信託協会の商品分類に関する指針に基づき記載しております。
 上記以外の商品分類および属性区分の定義については、一般社団法人投資信託協会ホームページ
 (<https://www.toushin.or.jp/>)でご覧いただけます。

（２）【ファンドの沿革】

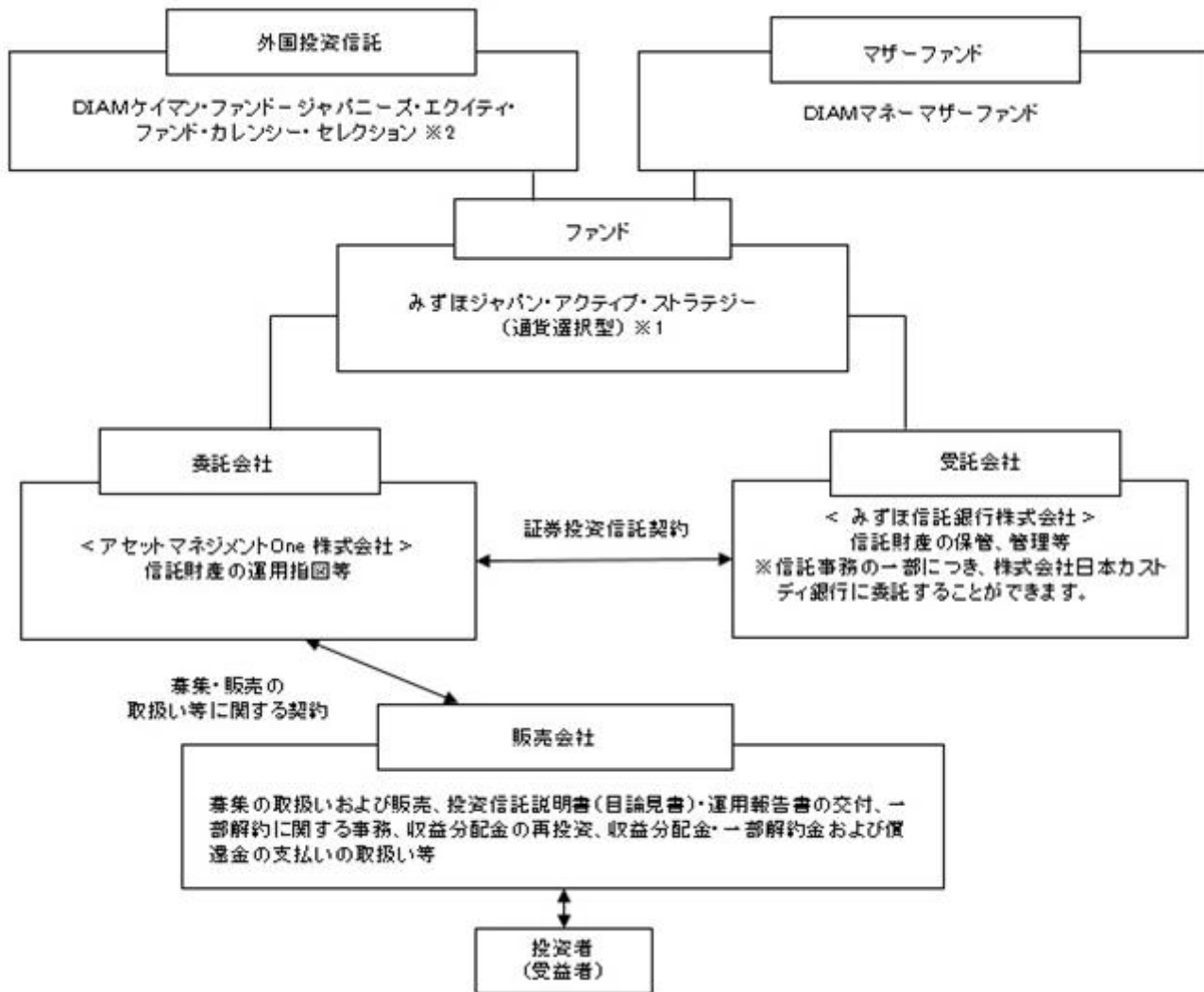
2013年7月31日 信託契約締結、ファンドの設定、ファンドの運用開始
 2023年7月14日 満期償還（信託終了）

(3) 【ファンドの仕組み】

各ファンド

(注)以下の図表中 1、 2については下記の表より各々あてはめてご覧ください。

1	円コース	米ドルコース	豪ドルコース	メキシコペソ コース	トルコリラ コース	ブラジル レアルコース
2	円クラス	米ドルクラス	豪ドルクラス	メキシコペソ クラス	トルコリラ クラス	ブラジル レアルクラス



・「証券投資信託契約」の概要

委託会社と受託会社との間においては、各ファンドにかかる証券投資信託契約を締結しております。当該契約の内容は、各ファンドの運用の基本方針、投資対象、投資制限、受益者の権利等を規定したものです。

・「募集・販売の取扱い等に関する契約」の概要

委託会社と販売会社との間においては、募集・販売の取扱い等に関する契約を締結しております。当該契約の内容は、証券投資信託の募集・販売の取扱い、一部解約に関する事務、収益分配金の再投資、収益分配金・一部解約金および償還金の受益者への支払い等に関する包括的な規則を定めたものです。

「ファンド・オブ・ファンズ方式」の仕組み

各ファンドは「ファンド・オブ・ファンズ方式」で運用します。



(*) 株価指数先物取引等のデリバティブ取引を活用する場合や、短期金融資産等に投資する場合があります。

※各通貨コースは、外国投資信託の他に、DIAMマネーマザーファンドにも投資します。なお、短期金融資産等に直接投資する場合があります。

委託会社の概況

名称：アセットマネジメントOne株式会社

本店の所在の場所：東京都千代田区丸の内一丁目8番2号

資本金の額

20億円（2023年5月31日現在）

委託会社の沿革

- | | |
|------------|---|
| 1985年7月1日 | 会社設立 |
| 1998年3月31日 | 「証券投資信託法」に基づく証券投資信託の委託会社の免許取得 |
| 1998年12月1日 | 証券投資信託法の改正に伴う証券投資信託委託業のみなし認可 |
| 1999年10月1日 | 第一ライフ投信投資顧問株式会社を存続会社として興銀エヌダブリュ・アセットマネジメント株式会社および日本興業投信株式会社と合併し、社名を興銀第一ライフ・アセットマネジメント株式会社とする。 |
| 2008年1月1日 | 「興銀第一ライフ・アセットマネジメント株式会社」から「DIAMアセットマネジメント株式会社」に商号変更 |
| 2016年10月1日 | DIAMアセットマネジメント株式会社、みずほ投信投資顧問株式会社、新光投信株式会社、みずほ信託銀行株式会社（資産運用部門）が統合し、商号をアセットマネジメントOne株式会社に変更 |

大株主の状況

(2023年5月31日現在)

株主名	住所	所有株数	所有比率
株式会社みずほフィナンシャルグループ	東京都千代田区大手町一丁目5番5号	28,000株 ¹	70.0% ²
第一生命ホールディングス株式会社	東京都千代田区有楽町一丁目13番1号	12,000株	30.0% ²

1：A種種類株式（15,510株）を含みます。

2：普通株式のみの場合の所有比率は、株式会社みずほフィナンシャルグループ51.0%、第一生命ホールディングス株式会社49.0%

2【投資方針】

(1)【投資方針】

<基本方針>

この投資信託は、信託財産の成長を図ることを目的として、運用を行います。

<投資対象>

円建て外国投資信託である「()」の投資信託証券を主要投資対象とします。また、証券投資信託である「DIAMマネーマザーファンド」受益証券への投資も行います。なお、短期金融資産等に直接投資する場合があります。

<投資態度>

円建て外国投資信託「()」（以下、「外国投資信託」といいます。）の投資信託証券への投資を通じて、実質的にわが国の株式に投資します。

外国投資信託の組入比率は、原則として高位を維持することを基本とします。

資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

上記()は、下記の表より各々あてはめてご覧ください。

円コース	DIAMケイマン・ファンド - ジャパニーズ・エクイティ・ファンド・カレンシー・セレクション(円クラス)
米ドルコース	DIAMケイマン・ファンド - ジャパニーズ・エクイティ・ファンド・カレンシー・セレクション(米ドルクラス)
豪ドルコース	DIAMケイマン・ファンド - ジャパニーズ・エクイティ・ファンド・カレンシー・セレクション(豪ドルクラス)
メキシコペソコース	DIAMケイマン・ファンド - ジャパニーズ・エクイティ・ファンド・カレンシー・セレクション(メキシコペソクラス)
トルコリラコース	DIAMケイマン・ファンド - ジャパニーズ・エクイティ・ファンド・カレンシー・セレクション(トルコリラクラス)
ブラジルリアルコース	DIAMケイマン・ファンド - ジャパニーズ・エクイティ・ファンド・カレンシー・セレクション(ブラジルリアルクラス)

(2) 【投資対象】

投資の対象とする資産の種類(約款第15条)

この信託において投資の対象とする資産の種類は次に掲げるものとします。

1.次に掲げる特定資産(「特定資産」とは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第1項に定めるものをいいます。以下同じ。)

イ.有価証券

ロ.金銭債権

ハ.約束手形(金融商品取引法第2条第1項第15号に掲げるものを除く。)

2.次に掲げる特定資産以外の資産

イ.為替手形

運用の指図範囲等(約款第16条第1項)

委託会社は、信託金を、主としてケイマン籍外国投資信託である()の投資信託証券およびアセットマネジメントOne株式会社を委託会社とし、みずほ信託銀行株式会社を受託会社として締結された証券投資信託であるDIAMマネーマザーファンド受益証券のほか、次の有価証券(金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。)に投資することを指図します。

1.コマーシャル・ペーパーおよび短期社債等

2.外国または外国の者の発行する証券または証書で、1.の証券の性質を有するもの

3.指定金銭信託の受益証券(金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。)

上記()は、下記の表より各々あてはめてご覧ください。

円コース	DIAMケイマン・ファンド・ジャパニーズ・エクイティ・ファンド・カレンシー・セレクション(円クラス)
米ドルコース	DIAMケイマン・ファンド・ジャパニーズ・エクイティ・ファンド・カレンシー・セレクション(米ドルクラス)
豪ドルコース	DIAMケイマン・ファンド・ジャパニーズ・エクイティ・ファンド・カレンシー・セレクション(豪ドルクラス)
メキシコペソコース	DIAMケイマン・ファンド・ジャパニーズ・エクイティ・ファンド・カレンシー・セレクション(メキシコペソクラス)
トルコリラコース	DIAMケイマン・ファンド・ジャパニーズ・エクイティ・ファンド・カレンシー・セレクション(トルコリラクラス)
ブラジルリアルコース	DIAMケイマン・ファンド・ジャパニーズ・エクイティ・ファンド・カレンシー・セレクション(ブラジルリアルクラス)

運用の指図範囲等(約款第16条第2項)

委託会社は、信託金を、上記 に掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品(金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。)により運用することを指図することができます。

1.預金

2. 指定金銭信託(金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。)

3. コール・ローン

4. 手形割引市場において売買される手形

(参考) 各ファンドが投資対象とする投資信託証券の概要

ファンド名	D I A Mケイマン・ファンド - ジャパニーズ・エクイティ・ファンド・カレン シー・セレクション 円クラス D I A Mケイマン・ファンド - ジャパニーズ・エクイティ・ファンド・カレン シー・セレクション 米ドルクラス D I A Mケイマン・ファンド - ジャパニーズ・エクイティ・ファンド・カレン シー・セレクション 豪ドルクラス D I A Mケイマン・ファンド - ジャパニーズ・エクイティ・ファンド・カレン シー・セレクション メキシコペソクラス D I A Mケイマン・ファンド - ジャパニーズ・エクイティ・ファンド・カレン シー・セレクション トルコリラクラス D I A Mケイマン・ファンド - ジャパニーズ・エクイティ・ファンド・カレン シー・セレクション ブラジルリアルクラス
形態	ケイマン籍円建て外国投資信託
主要投資対象	日本の金融商品取引所に上場している株式を主要投資対象とします。
投資態度	<p>主として日本の株式に投資し、中長期的な信託財産の成長を目的として積極的な運用を行います。</p> <p>景気動向、金融情勢等の調査に基づいたトップダウンアプローチにより、相場局面の判断を重視した運用を行います。</p> <p>銘柄選定にあたっては、投資対象市場、株式規模および業種等を考慮し、値上がり期待の高い銘柄を選定します。</p> <p>実質的な株式組入比率は高位に保ちますが、株式市場の下落リスクが高いと考えられる場合等には、株式の実質組入比率を50～100%の範囲で弾力的に引き下げることができます。株式の実質組入比率の調整は、株価指数先物取引等のデリバティブ取引を活用することや、保有株式を売却して短期金融資産等を保有することで行います。</p> <p>各クラス(円クラスを除きます。)において、円建て資産について、原則として、円売り/各クラス通貨買いの為替取引を行います。</p> <p>資金動向、市況動向等により、上記のような運用ができない場合があります。</p>

<p>ポートフォリオの構築プロセス</p>	<div style="text-align: center;"> </div> <p>2023年5月末時点。</p> <p>上記は作成時点のものであり今後変更となる場合があります。また、資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。</p>
<p>主な投資制限</p>	<p>有価証券の空売りは行いません。</p> <p>デリバティブの使用はヘッジ目的に限定しません。</p> <p>ファンドの純資産価額の10%を超える借入れは行いません。（ただし、合併等により一時的に10%を超える場合を除きます。）</p> <p>投資信託証券への投資は行いません。</p> <p>流動性に欠ける資産への投資は、価格の透明性を確保する適切な措置が講じられない限り、ファンドの純資産の15%を超えないものとします。</p> <p>金融商品取引法上の有価証券および有価証券関連デリバティブ取引への投資比率は信託財産総額の50%以上とします。</p>
<p>収益分配方針</p>	<p>毎月、投資顧問会社の指図に基づき分配を行うことができます。</p>
<p>主要関係法人</p>	<p>投資顧問会社：アセットマネジメントOne株式会社 為替管理会社：State Street Bank and Trust Company 受託銀行：FirstCaribbean International Bank and Trust Company (Cayman) Limited 管理事務代行会社：State Street Cayman Trust Company, Limited 保管銀行：State Street Bank and Trust Company</p>
<p>申込手数料</p>	<p>ありません。</p>
<p>信託報酬等</p>	<p>純資産総額の年率0.2025%程度</p> <p>（注）当該外国投資信託の信託報酬には、年間最低報酬額が定められている場合があり、純資産総額等によっては年率換算で上記の信託報酬率を上回る場合があります。</p>
<p>その他費用</p>	<p>信託財産に関する租税、組入資産の売買時の売買手数料、為替管理費用、信託事務の処理に要する費用、信託財産の監査に要する費用、法律関係の費用、資産の保管などに要する費用、借入金の利息および立替金の利息などを負担する場合があります。また、ファンドの設立に係る費用はファンドが負担します。</p>

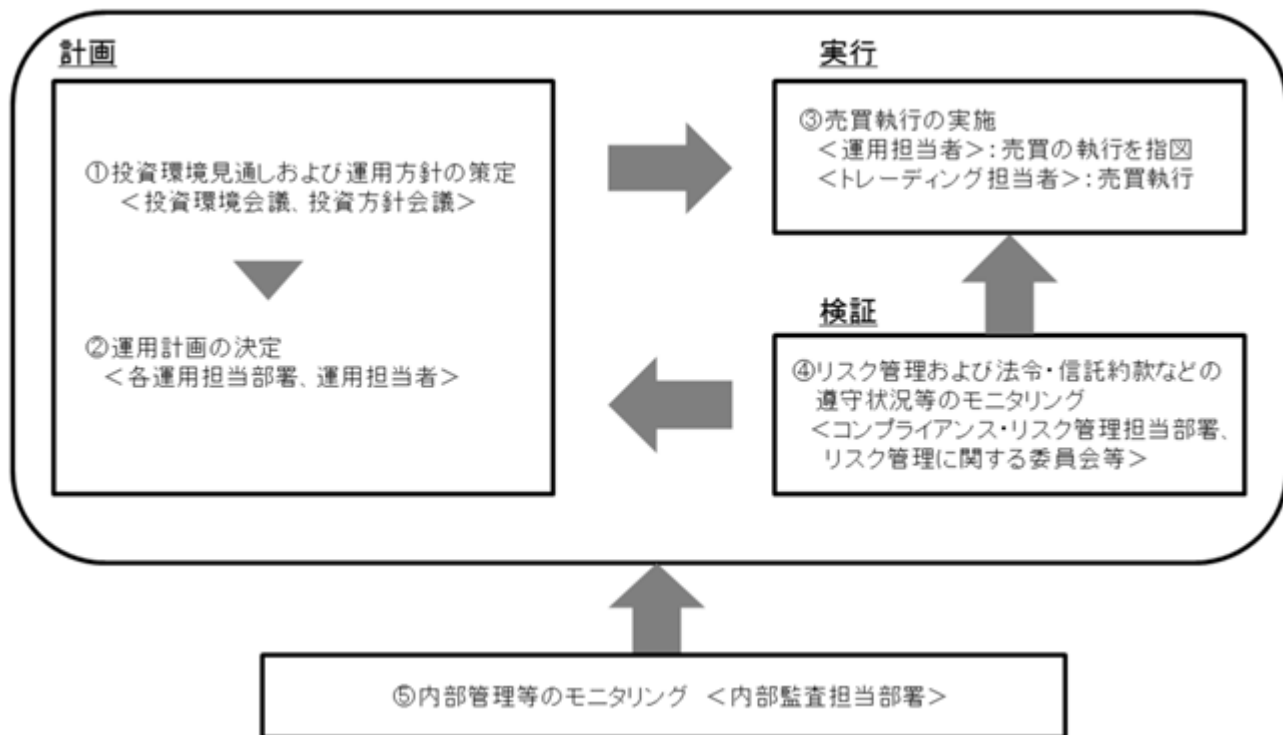
ファンド名	D I A Mマネーマザーファンド
形態	国内籍親投資信託
基本方針	この投資信託は、安定した収益の確保をめざします。
主な投資対象	国内発行体の公社債、転換社債、ユーロ円債、資産担保証券ならびにC D、C P、コールローン等の国内短期金融資産を主要投資対象とします。
投資態度	<p>国内の国債、政府保証債、政府機関債、地方債等のほか、取得時において主要格付機関^(*)の長期発行体格付（複数の格付機関が付与している場合は高い方の格付）がA A -格相当以上の社債、転換社債、ユーロ円債、資産担保証券、さらに、国内格付機関の短期格付がa-1格相当以上のC D、C Pを主要投資対象とします。</p> <p>(*)主要格付機関とは、R & I、J C R、M o o d y ' s、S & Pとします。</p> <p>国債および政府保証債を除き、原則として、ファンドの元本総額に対する1発行体当たりの有価証券の額面総額の割合は5%以内とします。</p> <p>ポートフォリオ全体の修正デュレーションは1年未満を基本として運用します。</p> <p>資金動向、市況動向に急激な変化が生じた場合、残存信託期間、残存元本が運用に支障をきたす水準となった場合等やむを得ない事情が発生した場合には上記のような運用ができない場合があります。</p>
主な投資制限	<p>株式への投資割合は、純資産総額の10%以下とします。</p> <p>同一銘柄の株式への投資は、取得時において信託財産の純資産総額の5%以下とします。</p> <p>同一銘柄の新株引受権証券及び新株予約権証券への投資割合は、取得時において投資信託財産の純資産総額の5%以下とします。</p> <p>新株引受権証券及び新株予約権証券への投資割合は、取得時において、投資信託財産の純資産総額の5%以下とします。</p> <p>投資信託証券への投資割合は、投資信託財産の純資産総額の5%以下とします。</p> <p>外貨建て資産への投資は行いません。</p> <p>デリバティブ取引（法人税法第61条の5に定めるものをいいます。）は、価格変動および金利変動により生じるリスクを減じる目的ならびに投資の対象とする資産を保有した場合と同様の損益を実現する目的以外には利用しません。</p> <p>一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ10%、合計で20%以内とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、委託会社は、一般社団法人投資信託協会規則にしたがい当該比率以内となるよう調整を行うこととします。</p>

運用プロセス	マクロ経済分析を主体としたファンダメンタルズ分析、投資家の需給動向等分析および信用リスク市場の分析等に基づき、短期金利の方向性見通し、セクター別のクレジットスプレッドの拡縮等を予測し、ファンドのデュレーションおよびセクター配分を決定します（トップダウンアプローチ）。
申込手数料	ありません。
信託期間	無期限
信託報酬	信託報酬はかかりません。
信託設定日	2009年10月29日
運用会社 （委託会社）	アセットマネジメントOne株式会社
受託銀行	みずほ信託銀行株式会社

資金動向、市況動向等によっては、上記の運用ができない場合があります。

（３）【運用体制】

a．ファンドの運用体制



投資環境見通しおよび運用方針の策定

経済環境見通し、資産別市場見通し、資産配分方針および資産別運用方針は月次で開催する「投資環境会議」および「投資方針会議」にて協議、策定致します。これらの会議は運用本部長・副本部長、運用グループ長等で構成されます。

運用計画の決定

各ファンドの運用は「投資環境会議」および「投資方針会議」における協議の内容を踏まえて、ファンド毎に個別に任命された運用担当者が行います。運用担当者は月次で運用計画書

を作成し、運用本部長の承認を受けます。運用担当者は承認を受けた運用計画に基づき、運用を行います。

売買執行の実施

運用担当者は、売買計画に基づいて売買の執行を指図します。トレーディング担当者は、最良執行をめざして売買の執行を行います。

モニタリング

運用担当部署から独立したコンプライアンス・リスク管理担当部署(人数60~70人程度)は、運用に関するパフォーマンス測定、リスク管理および法令・信託約款などの遵守状況等のモニタリングを実施し、必要に応じて対応を指示します。

定期的開催されるリスク管理に関する委員会等において運用リスク管理状況、運用実績、法令・信託約款などの遵守状況等について検証・報告を行います。

内部管理等のモニタリング

内部監査担当部署(人数10~20人程度)が運用、管理等に関する業務執行の適正性・妥当性・効率性等の観点からモニタリングを実施します。

b. ファンドの関係法人に関する管理

ファンドの関係法人である受託会社に対して、その業務に関する委託会社の管理担当部署は、内部統制に関する外部監査人による報告書等の定期的な提出を求め、必要に応じて具体的な事項に関するヒアリングを行う等の方法により、適切な業務執行体制にあることを確認します。

c. 運用体制に関する社内規則

運用体制に関する社内規則として運用管理規程および職務責任権限規程等を設けており、運用担当者の任務と権限の範囲を明示するほか、各投資対象の取り扱いに関して基準を設け、ファンドの商品性に則った適切な運用の実現を図ります。

また、売買執行、投資信託財産管理および法令遵守チェック等に関する各々の規程・内規を定めています。

運用体制は2023年5月31日現在のものであり、今後変更となる場合があります。

(4) 【分配方針】

1 収益分配方針

豪ドルコース、メキシコペソコース、トルコリラコース、ブラジルリアルコース

毎決算時(原則として毎月21日。(休業日の場合は翌営業日。))に、以下の方針に基づき収益分配を行います。

(1) 分配対象額の範囲

経費控除後の配当等収益および売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。

(2) 分配対象額についての分配方針

委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して、分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合は分配を行わない場合があります。

(3)留保益の運用方針

留保益の運用については、特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

円コース、米ドルコース

毎決算時（原則として毎年5月21日、11月21日。（休業日の場合は翌営業日。））に、以下の方針に基づき収益分配を行います。

(1)分配対象額の範囲

経費控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。

(2)分配対象額についての分配方針

委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して、分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合は分配を行わない場合があります。

(3)留保益の運用方針

留保益の運用については、特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

2 収益分配方式

各ファンド

(1)信託財産から生ずる毎計算期末における利益は、次の方法により処理します。

1. 信託財産に属する配当等収益（受取配当金、受取利息およびその他収益金の合計額から支払利息を控除した額）とマザーファンドの信託財産に属する配当等収益のうち信託財産に属するとみなした額（以下「みなし配当等収益」といいます。）との合計額から、諸経費、信託報酬および当該信託報酬にかかる消費税および地方消費税（以下「消費税等」といいます。）に相当する金額、監査費用および当該監査費用にかかる消費税等に相当する金額を控除した後、その残金を受益者に分配することができます。なお、次期以降の分配金にあてるため、その一部を分配準備積立金として積み立てることができます。
2. 売買損益に評価損益を加減した額からみなし配当等収益を控除して得た利益金額（以下「売買益」といいます。）は、諸経費、信託報酬および当該信託報酬にかかる消費税等に相当する金額、監査費用および当該監査費用にかかる消費税等に相当する金額を控除し、繰越欠損金のある時はその全額を売買益をもって補填した後、受益者に分配することができます。なお、次期以降の分配にあてるため、分配準備積立金として積み立てることができます。

(2)上記1.および2.におけるみなし配当等収益とは、マザーファンドの信託財産にかかる配当等収益の額に、マザーファンドの信託財産の純資産総額に占める信託財産に属するマザーファンド受益証券の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。

(3)毎計算期末において、信託財産につき生じた損失は、次期に繰り越します。

3 収益分配金の支払い

各ファンド

収益分配金は、決算日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者(当該収益分配金にかかる決算日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きま
す。また、当該収益分配金にかかる決算日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため
販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者としま
す。)に、原則として決算日から起算して5営業日までにお支払いを開始します。

「分配金再投資コース」をお申込みの場合は、収益分配金は税引後無手数料で再投資されま
すが、再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

(5) 【投資制限】

投資信託証券への投資割合には制限を設けません。(約款「運用の基本方針」2.運用方法(3)投
資制限)

外貨建資産への直接投資は行いません。(約款「運用の基本方針」2.運用方法(3)投資制限)

デリバティブ取引の直接利用は行いません。(約款「運用の基本方針」2.運用方法(3)投資制
限)

株式への直接投資は行いません。(約款「運用の基本方針」2.運用方法(3)投資制限)

同一銘柄の投資信託証券への投資割合には制限を設けません。(約款「運用の基本方針」2.運用
方法(3)投資制限)

非株式への実質投資割合には制限を設けません。(約款「運用の基本方針」2.運用方法(3)投資
制限)

一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エク
スポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原
則としてそれぞれ10%、合計で20%以内とすることとし、当該比率を超えることとなった場合
には、委託会社は、一般社団法人投資信託協会規則にしたがい当該比率以内となるよう調整を行
うこととします。(約款「運用の基本方針」2.運用方法(3)投資制限)

資金の借入れ(約款第24条)

1)委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、および運用の安定性を図るため、一部解
約に伴う支払資金の手当て(一部解約に伴う支払資金の手当てのために借入れた資金の返済を
含みます。)を目的として、または再投資にかかる収益分配金の支払資金の手当てを目的とし
て、資金借入れ(コール市場を通じる場合を含みます。)の指図をすることができます。な
お、当該借入金をもって有価証券等の運用は行わないものとします。

2)一部解約に伴う支払資金の手当てにかかる借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から信
託財産で保有する有価証券等の売却代金の受渡日までの間または受益者への解約代金支払開始
日から信託財産で保有する有価証券等の解約代金入金日までの間もしくは受益者への解約代金
支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の償還金の入金日までの期間が5営業日以内で
ある場合の当該期間とし、資金借入額は、借入れ指図を行う日の信託財産の純資産総額の10%以
内における、当該有価証券等の売却代金または解約代金および有価証券等の償還金の合計額を
限度とします。

- 3) 収益分配金の再投資にかかる借入期間は信託財産から収益分配金が支弁される日からその翌営業日までとし、資金借入額は収益分配金の再投資額を限度とします。
- 4) 借入金の利息は信託財産中より支弁します。

3【投資リスク】

各ファンド共通

<基準価額の主な変動要因>

各ファンドは、投資信託証券への投資を通じて値動きのある有価証券等（実質的に投資する外貨建資産には為替変動リスクもあります。）に投資しますので、ファンドの基準価額は変動します。これらの運用による損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。したがって、投資者のみなさまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

また、投資信託は預貯金と異なります。

株価変動リスク

投資する企業の株価の下落は、基準価額の下落要因となります。

ファンドは、実質的に株式に投資をしますので、株式市場の変動により基準価額が上下します。ファンドは実質株式組入比率を変更することで、基準価額の下落リスクの低減をめざして運用を行いますが、当手法が効果的に機能しない場合等により、基準価額の下落リスクを低減できない場合や、市場全体の上昇に追従できない場合があります。ファンドは運用に当たって株価指数先物取引を活用しますが、組入株式と指数先物の価格変動率は一致するものではありません。そのため、実質株式組入比率を引き下げるために指数先物を売り建てる場合、組入株式と指数先物の値動きの差がファンドの収益となる場合がある一方、損失となる場合があります。

為替リスク

為替相場の円高等は、基準価額の下落要因となります。

円コースを除く各通貨コースの主要投資対象である外国投資信託では、原則として保有資産通貨（円）を売り予約し、各通貨コースの取引対象通貨を買い予約する為替取引を行いますので、各通貨コースの取引対象通貨の対円での為替変動の影響を大きく受けます。そのため、各通貨コースの取引対象通貨に対して円高になった場合には基準価額が下がる要因となります。また、為替取引においては、いずれの通貨コースにおいても取引対象通貨の金利が円の金利より低い場合、その金利差相当分のコストがかかることにご留意ください。

ブラジルリアルコースは、為替取引を行うにあたり為替予約取引と類似する直物為替先渡取引（NDF）を利用します（2023年5月末現在）。NDFの取引価格は、需給や当該通貨に対する期待、当該国の資本規制や税制等により、金利差から理論上期待される水準とは大きく異なる場合があります。この結果、ファンドの投資成果は、実際の為替市場や金利市場から想定されるものと大きく乖離する場合があります。

外国為替市場の混乱等により為替予約取引やNDF取引が行えなくなった場合、各通貨コースの取引対象通貨の為替への投資ができなくなる等ファンドの投資方針に沿った運用ができなくなる場合があります。特にNDF取引は為替予約取引に比べ当該国の資本規制や税制等の影響により流動性が乏しくなることがあることから、そのリスクが高くなります。

NDF取引については、後掲 その他の留意点 の「NDF(ノン・デリバブル・フォワード)取引について」をご参照ください。

個別銘柄選択リスク

銘柄選択による投資は、株式市場全体の動きと基準価額の値動きが異なる要因となる場合があります。

ファンドは、実質的に個別銘柄の選択による投資を行いますので、株式市場全体の動向から乖離することがあり、株式市場が上昇する場合でもファンドの基準価額は下がる場合があります。

流動性リスク

投資資産の市場規模が小さいことなどで希望する価格で売買できない場合は、基準価額の下落要因となります。

ファンドにおいて有価証券等を実質的に売却または取得する際に、市場規模、取引量、取引規制等により十分な流動性の下での取引を行えない場合には、市場実勢から期待できる価格どおりに取引できないことや、値動きが大きくなることがあり、基準価額に影響をおよぼす可能性があります。

信用リスク

投資する有価証券の発行者の財政難・経営不安・倒産等の発生は、基準価額の下落要因となります。

ファンドが実質的に投資する株式の発行者が経営不安・倒産に陥った場合、またこうした状況に陥ると予想される場合等には、株式の価格が下落したりその価値がなくなることがあり、基準価額が下がる要因となります。

基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

<その他の留意点>

各ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。

各ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要性が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響をおよぼす可能性や、換金のお申込みの受付が中止となる可能性、すでに受付けた換金のお申込みの受付が取り消しとなる可能性、換金代金のお支払が遅延する可能性があります。

有価証券の貸付等においては、取引相手先の倒産等による決済不履行リスクを伴います。

各ファンドが主要投資対象とする外国投資信託が存続しないこととなった場合は、当該各ファンドを繰上償還させます。

資金動向、市況動向等によっては、投資態度にしたがった運用ができない場合があります。

委託会社は、金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、お申込み(スイッチングのお申込みを含みます。)の受付または解約の受付を中止することおよびすでに受付けたお申込み(スイッチングのお申込みを含みます。)の受付または解約の受付を取り消すことができます。

各ファンドは、受益権口数が10億口を下回ることとなった場合、受益者のため有利であると認める場合、その他やむを得ない事情がある場合は、当初定められていた信託期間の途中でも信託を終了(繰上償還)する場合があります。

「みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー(通貨選択型)」を構成する各ファンド間でスイッチングができます。ただし、販売会社によっては、スイッチングの取扱いを行わない場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

外国投資信託を通じて有価証券等に投資を行う場合、わが国の投資信託から投資を行う場合に比べて税制が不利になる可能性があります。ファンドは外国投資信託を通じて株式等に投資をしますので、上記の影響を受ける場合があります。

NDF(ノン・デリバラブル・フォワード)取引について

為替予約取引とNDF取引

為替取引を行うにあたり、通常は「為替予約取引」を用います。

しかし、一部の新興国通貨では……
(ブラジルレアル、中国元、インドルピー、
インドネシアルピアなど)

「為替予約取引」ができません。

そこで

NDF取引を活用

【理由】
為替市場が未成熟であったり、当局
が国外での自国通貨の流通を制限
しているなどの理由で、本国以外で
多額の当該通貨の保有、調達、決済
などが難しいためです。

ファンドの中でNDF取引を
利用している通貨

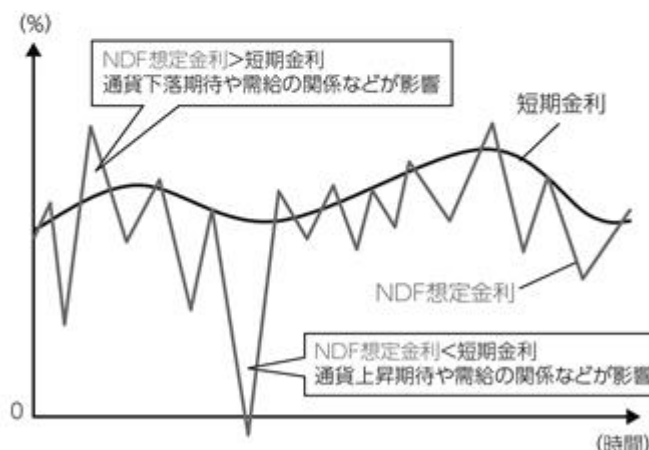


ブラジルレアル

NDF(ノン・デリバラブル・フォワード)取引とは

- 直物為替先渡取引の一種です。主に金融機関との相対取引で、当該通貨の受渡しが発生せず、主に米ドルなど主要通貨で差金決済を行います。
- 通常の為替予約取引と比べ、取引参加者が少ないことや、当局による金融・資本市場における制約などから、金利裁定(割高や割安を是正する市場のメカニズム)が働きにくいだけでなく、取引参加者の為替見通しを反映した需給の影響をより強く受けることがあります。そのため、NDFの取引価格から想定される金利(NDFインプライド金利)が、取引時点における当該通貨の短期金利水準から、大きく乖離する場合があります。

<NDF想定金利と短期金利が乖離する例(イメージ)>



NDFの取引価格から想定される金利(NDFインプライド金利)は、通貨に対する需給や通貨の上昇期待が反映され、マイナスになる程低くなる場合もあります。その場合、為替取引によるプレミアム(金利差相当分の収益)の減少やコスト(金利差相当分の費用)の発生により、ファンドのパフォーマンスに影響を与えることがあります。

※左記は、イメージであり、すべての事象があてはまるものではありません。また、将来の水準を予測、または示唆するものではありません。

- 外国為替市場の混乱等によりNDFが利用できなくなった場合には、選択した通貨への投資ができなくなるなどファンドの運用方針に沿った運用ができなくなるリスクもあります。同様のことが通常の為替予約取引についてもいえますが、特にNDFは為替予約取引に比べて流動性が乏しくなることがあるため、そのリスクが高くなります。

※上記の要因以外でも、投資対象資産の通貨の短期金利が上昇した場合は、為替取引によるプレミアム(金利差相当分の収益)が減少したり、コスト(金利差相当分の費用)が生じる可能性があります。

※上記は、NDF取引や為替市場に関する説明の一部であり、NDF取引および為替市場についてすべてを網羅したものではありません。

(出所:各種情報に基づき委託会社作成)

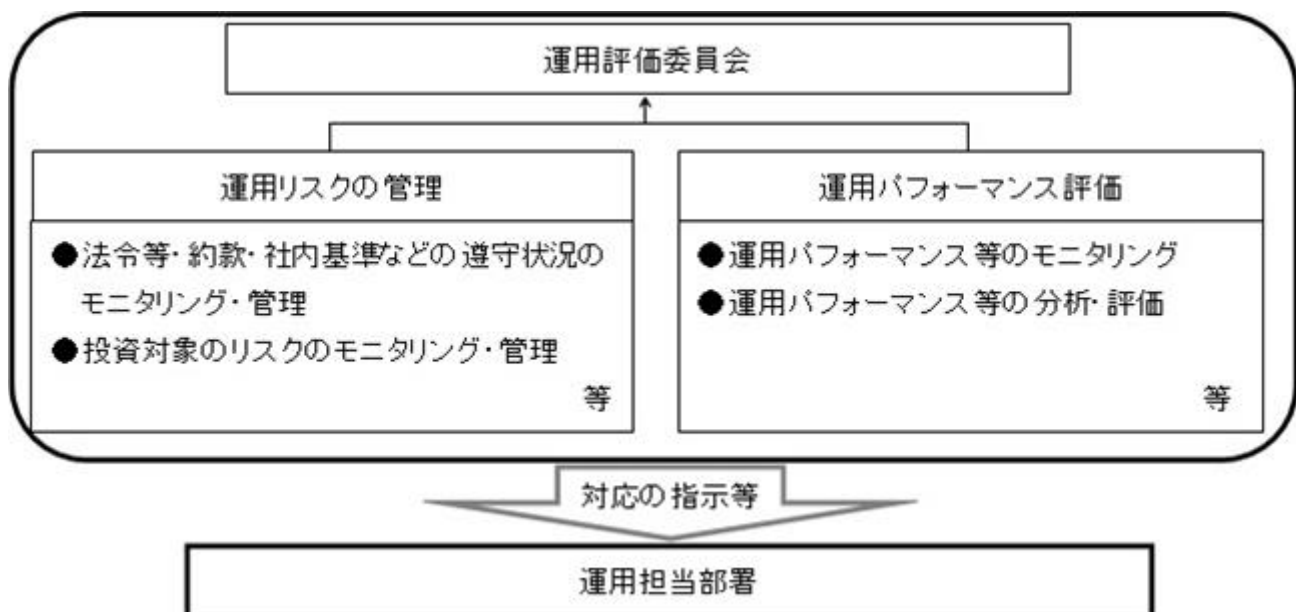
・注意事項

- イ．ファンドは、投資信託証券等の値動きのある有価証券（実質的に外貨建資産に投資する場合には為替リスクもあります。）に投資しますので、基準価額は変動します。
 - ロ．投資信託は、預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象にもなりません。
 - ハ．投資信託は、購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。
- ニ．投資信託は、投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合があり、これによる損失は購入者が負担することとなります。

<リスク管理体制>

委託会社におけるファンドの投資リスクに対する管理体制については、以下のとおりです。

- ・運用リスクの管理：運用担当部署から独立したコンプライアンス・リスク管理担当部署が、運用リスクを把握、管理し、その結果に基づき運用担当部署へ対応の指示等を行うことにより、適切な管理を行います。
- ・運用パフォーマンス評価：運用担当部署から独立したリスク管理担当部署が、ファンドの運用パフォーマンスについて定期的に分析を行い、結果の評価を行います。
- ・運用評価委員会：上記のとおり運用リスクの管理状況、運用パフォーマンス評価等の報告を受け、運用評価委員会は総合的な見地から運用状況全般の管理・評価を行います。



- ・流動性リスク管理：委託会社では、流動性リスク管理に関する規程を定め、ファンドの組入資産の流動性リスクのモニタリング等を実施するとともに、緊急時対応策の策定・検証等を行います。運用評価委員会等は、流動性リスク管理の適切な実施の確保や流動性リスク管理態勢について、監督します。

リスク管理体制は2023年5月31日現在のものであり、今後変更となる場合があります。

4【手数料等及び税金】

(1)【申込手数料】

お申込時に、お申込日の翌営業日の基準価額に、3.3%（税抜3.0%）を上限に各販売会社が定める手数料率を乗じて得た額とします。

償還乗換え等によるお申込みの場合、販売会社によりお申込手数料が優遇される場合があります。

「分配金再投資コース」により収益分配金を再投資する場合には、お申込手数料はかかりません。

詳しくは販売会社にお問い合わせください。

お申込手数料は、商品や投資環境の説明および情報提供等、ならびに購入に関する事務手続き等にかかる費用の対価として、販売会社に支払われます。

(2)【換金（解約）手数料】

ありません。

(3)【信託報酬等】

各ファンド	ファンドの日々の純資産総額に対して年率1.397%（税抜1.27%） $\text{信託報酬} = \text{運用期間中の基準価額} \times \text{信託報酬率}$ 信託報酬は、毎日計上（ファンドの基準価額に反映）され、毎計算期末または信託終了のときに信託報酬にかかる消費税等相当額とともに信託財産から支払われます。		
	支払先	内訳（税抜）	主な役務
	委託会社	年率0.54%	信託財産の運用、目論見書等各種書類の作成、基準価額の算出等の対価
	販売会社	年率0.70%	購入後の情報提供、交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
	受託会社	年率0.03%	運用財産の保管・管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
投資対象とする外国投資信託	外国投資信託の純資産総額に対して年率0.2025%程度 ただし、当該外国投資信託の信託報酬には、年間最低報酬額が定められている場合があり、純資産総額等によっては年率換算で上記の信託報酬率を上回る場合があります。		
実質的な負担	各ファンドの日々の純資産総額に対して年率1.5995%（税抜1.4725%）（概算） 上記は各ファンドが投資対象とする外国投資信託を高位に組み入れた状態を想定しています。		

税法が改正された場合等には、上記内容が変更になることがあります。

(4) 【その他の手数料等】

信託財産留保額

解約時に、解約請求受付日の翌営業日の基準価額に0.3%の率を乗じて得た額とします。

その他の費用

その他費用・手数料として、お客様の保有期間中、以下の費用等を信託財産からご負担いただきます。

信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用ならびに受託会社の立て替えた立替金の利息および借入金の利息等は、受益者の負担とし、信託財産から支払われます。

監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用は、受益者の負担とし、毎日計上(ファンドの基準価額に反映)され、毎計算期末または信託終了のとき、当該監査に要する費用にかかる消費税等相当額とともに信託財産から支払われます。

有価証券の売買時の売買委託手数料および有価証券取引にかかる手数料・税金、当該手数料にかかる消費税等相当額は、受益者の負担とし、信託財産から支払われます。

投資対象とする投資信託証券でかかる費用等は、間接的にファンドで負担します。当該費用は以下の通りです。

各ファンドが投資対象とする 投資信託証券	主な費用
D I A Mケイマン・ファンド - ジャパニーズ・エクイ ティ・ファンド・カレンシー・セレクション 円クラス D I A Mケイマン・ファンド - ジャパニーズ・エクイ ティ・ファンド・カレンシー・セレクション 米ドルクラ ス D I A Mケイマン・ファンド - ジャパニーズ・エクイ ティ・ファンド・カレンシー・セレクション 豪ドルクラ ス D I A Mケイマン・ファンド - ジャパニーズ・エクイ ティ・ファンド・カレンシー・セレクション メキシコペ ソクラス D I A Mケイマン・ファンド - ジャパニーズ・エクイ ティ・ファンド・カレンシー・セレクション トルコリラ クラス D I A Mケイマン・ファンド - ジャパニーズ・エクイ ティ・ファンド・カレンシー・セレクション ブラジルレ アルクラス	信託財産に関する租税、組入資産 の売買時の売買手数料、為替管理 費用、信託事務の処理に要する費 用、信託財産の監査に要する費 用、法律関係の費用、資産の保管 などに要する費用、借入金の利息 および立替金の利息などを負担す る場合があります。また、ファン ドの設立に係る費用はファンドが 負担します。
D I A Mマネーマザーファンド	有価証券の売買時の売買委託手 数料および有価証券取引に係る手 数料・税金、先物・オプション取 引に要する費用、当該手数料にか かる消費税等相当額等

上記の「その他の費用」については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。

税法が改正された場合等には、上記内容が変更になることがあります。

(5) 【課税上の取扱い】

各ファンドは、課税上「株式投資信託」として取扱われます。

個人の受益者に対する課税

収益分配時

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金については、配当所得として、20.315%（所得税15.315%（復興特別所得税を含みます。）および地方税5%）の税率で源泉徴収による申告不要制度が適用されます。なお、確定申告により、申告分離課税または総合課税（配当控除の適用なし）のいずれかを選択することもできます。

詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

解約時および償還時

解約時および償還時の差益（譲渡益）については、譲渡所得として、20.315%（所得税15.315%（復興特別所得税を含みます。）および地方税5%）の税率での申告分離課税が適用されます。

原則として確定申告が必要ですが、特定口座（源泉徴収口座）を利用する場合、20.315%（所得税15.315%（復興特別所得税を含みます。）および地方税5%）の税率による源泉徴収が行われます。

解約価額および償還価額から取得費用（申込手数料および当該手数料にかかる消費税等に相当する金額を含みます。）を控除した利益。

買取請求による換金の際の課税については、販売会社にお問い合わせください。

損益通算について

解約（換金）時および償還時の差損（譲渡損）については、確定申告を行うことにより上場株式等（上場株式、上場投資信託（ETF）、上場不動産投資信託（REIT）、公募株式投資信託および特定公社債等（公募公社債投資信託を含みます。）など。以下同じ。）の譲渡益ならびに上場株式等の配当所得および利子所得の金額（配当所得については申告分離課税を選択したものに限り、）との損益通算ならびに3年間の繰越控除の対象とすることができます。また、特定口座（源泉徴収口座）をご利用の場合、その口座内において損益通算を行います（確定申告不要）。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」および未成年者少額投資非課税制度「愛称：ジュニアNISA（ジュニアニーサ）」をご利用の場合

NISAおよびジュニアNISAは、上場株式や公募株式投資信託などにかかる非課税制度です。毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が一定期間非課税となります。ご利用になれるのは、販売会社で非課税口座を開設するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。なお、同非課税口座内で少額上場株式等にかかる譲渡損失が生じた場合には、課税上譲渡損失はないものとみなされ、他の口座の上場株式等の譲渡益および上場株式等の配当所得等の金額との損益通算を行うことはできませんので、ご注意ください。

法人の受益者に対する課税

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに解約時および償還時の個別元本超過額については、15.315%（所得税15.315%（復興特別所得税を含みます。））の税率による源泉徴収が行われます。なお、地方税の源泉徴収は行われません。

買取請求による換金の際の課税については、販売会社にお問い合わせください。

なお、益金不算入制度の適用はありません。

外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。

上記は、2023年5月末現在のものです。税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になる場合があります。

課税上の取扱いの詳細については税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

個別元本方式について

受益者毎の信託時の受益権の価額等を当該受益者の元本とする個別元本方式は次のとおりです。

< 個別元本について >

受益者毎の信託時の受益権の価額等（申込手数料および当該申込手数料にかかる消費税等に相当する金額は含まれません。）が当該受益者の元本（個別元本）にあたります。

受益者が同一ファンドの受益権を複数回取得した場合、個別元本は、当該受益者が追加信託を行うつど当該受益者の受益権口数で加重平均することにより算出されます。

ただし、同一ファンドの受益権を複数の販売会社で取得する場合については販売会社毎に個別元本の算出が行われます。また、同一販売会社であっても複数支店等で同一ファンドの受益権を取得する場合は当該支店等毎に、「分配金受取コース」と「分配金再投資コース」の両コースで同一ファンドの受益権を取得する場合はコース別に個別元本の算出が行われる場合があります。

収益分配金に元本払戻金（特別分配金）が含まれる場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。（「元本払戻金（特別分配金）」については、下記の< 収益分配金の課税について >を参照。）

< 収益分配金の課税について >

収益分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」（受益者毎の元本の一部払戻しに相当する部分）の区分があります。

収益分配の際、当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本と同額の場合または当該受益者の個別元本を上回っている場合には、当該収益分配金の全額が普通分配金となり、当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本を下回っている場合には、その下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）となり、当該収益分配金から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が普通分配金となります。

なお、収益分配金に元本払戻金（特別分配金）が含まれる場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。

税法が改正された場合等は、上記内容が変更になることがあります。

5【運用状況】

（1）【投資状況】

みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー（通貨選択型）円コース

2023年5月31日現在

資産の種類	時価合計（円）	投資比率（％）
投資信託受益証券	203,519,466	95.63
内 ケイマン諸島	203,519,466	95.63
親投資信託受益証券	9,986	0.00
内 日本	9,986	0.00
コール・ローン、その他の資産（負債控除後）	9,293,007	4.37
純資産総額	212,822,459	100.00

（注1）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

（注2）資産の種類の内書は、当該資産の発行体又は上場金融商品取引所の国/地域別に表示しています。

みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー（通貨選択型）米ドルコース

2023年5月31日現在

資産の種類	時価合計（円）	投資比率（％）
投資信託受益証券	1,304,869,984	95.75
内 ケイマン諸島	1,304,869,984	95.75
親投資信託受益証券	9,986	0.00
内 日本	9,986	0.00
コール・ローン、その他の資産（負債控除後）	57,850,142	4.25
純資産総額	1,362,730,112	100.00

（注1）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

（注2）資産の種類の内書は、当該資産の発行体又は上場金融商品取引所の国/地域別に表示しています。

みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー（通貨選択型）豪ドルコース

2023年5月31日現在

資産の種類	時価合計（円）	投資比率（％）
投資信託受益証券	61,260,750	95.65
内 ケイマン諸島	61,260,750	95.65
親投資信託受益証券	9,986	0.02
内 日本	9,986	0.02
コール・ローン、その他の資産（負債控除後）	2,776,259	4.33
純資産総額	64,046,995	100.00

（注1）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

（注2）資産の種類の内書は、当該資産の発行体又は上場金融商品取引所の国/地域別に表示しています。

みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー（通貨選択型）メキシコペソコース

2023年5月31日現在

資産の種類	時価合計（円）	投資比率（％）
投資信託受益証券	45,504,111	95.83
内 ケイマン諸島	45,504,111	95.83
親投資信託受益証券	9,986	0.02
内 日本	9,986	0.02
コール・ローン、その他の資産（負債控除後）	1,970,643	4.15
純資産総額	47,484,740	100.00

（注1）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

（注2）資産の種類の内書は、当該資産の発行体又は上場金融商品取引所の国/地域別に表示しています。

みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー（通貨選択型）トルコリラコース

2023年5月31日現在

資産の種類	時価合計(円)	投資比率(%)
投資信託受益証券	274,263,368	95.36
内 ケイマン諸島	274,263,368	95.36
親投資信託受益証券	9,986	0.00
内 日本	9,986	0.00
コール・ローン、その他の資産(負債控除後)	13,330,517	4.64
純資産総額	287,603,871	100.00

(注1) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

(注2) 資産の種類の内書は、当該資産の発行体又は上場金融商品取引所の国/地域別に表示しています。

みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー(通貨選択型)ブラジルリアルコース

2023年5月31日現在

資産の種類	時価合計(円)	投資比率(%)
投資信託受益証券	1,228,831,791	95.70
内 ケイマン諸島	1,228,831,791	95.70
親投資信託受益証券	9,986	0.00
内 日本	9,986	0.00
コール・ローン、その他の資産(負債控除後)	55,169,045	4.30
純資産総額	1,284,010,822	100.00

(注1) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

(注2) 資産の種類の内書は、当該資産の発行体又は上場金融商品取引所の国/地域別に表示しています。

(参考)

DIAMマネーマザーファンド

2023年5月31日現在

資産の種類	時価合計(円)	投資比率(%)
国債証券	300,240,000	61.61
内 日本	300,240,000	61.61
コール・ローン、その他の資産(負債控除後)	187,050,717	38.39
純資産総額	487,290,717	100.00

(注1) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

(注2) 資産の種類の内書は、当該資産の発行体又は上場金融商品取引所の国/地域別に表示しています。

(2) 【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー(通貨選択型)円コース

2023年5月31日現在

順位	銘柄名 発行体の国/地域	種類	数量	簿価単価 簿価金額 (円)	評価単価 評価金額 (円)	利率 (%) 償還日	投資 比率 (%)
1	DIAMケイマン・ファンド-ジャパニーズ・エクイティ・ファンド・カレンシー・セレクション 円クラス ケイマン諸島	投資信託受益証券	12,370.5	16,466.9999 203,705,023	16,452.0000 203,519,466	- -	95.63
2	DIAMマネーマザーファンド 日本	親投資信託受益証券	9,925	1.0061 9,986	1.0062 9,986	- -	0.00

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

投資有価証券の種類別投資比率

2023年5月31日現在

種類	投資比率(%)
投資信託受益証券	95.63
親投資信託受益証券	0.00
合計	95.63

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

投資株式の業種別投資比率

該当事項はありません。

みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー(通貨選択型)米ドルコース

2023年5月31日現在

順位	銘柄名 発行体の国/地域	種類	数量	簿価単価 簿価金額 (円)	評価単価 評価金額 (円)	利率 (%) 償還日	投資 比率 (%)
1	D I A Mケイマン・ファン ド・ジャパニーズ・エクイ ティ・ファンド・カレン シー・セレクション 米ド ルクラス ケイマン諸島	投資信 託受益 証券	57,635.6	22,303.9999 1,285,504,422	22,640.0000 1,304,869,984	- -	95.75
2	D I A Mマネーマザーファ ンド 日本	親投資 信託受 益証券	9,925	1.0061 9,986	1.0062 9,986	- -	0.00

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

投資有価証券の種類別投資比率

2023年5月31日現在

種類	投資比率(%)
投資信託受益証券	95.75
親投資信託受益証券	0.00
合計	95.75

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

投資株式の業種別投資比率

該当事項はありません。

みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー(通貨選択型)豪ドルコース

2023年5月31日現在

順位	銘柄名 発行体の国/地域	種類	数量	簿価単価 簿価金額 (円)	評価単価 評価金額 (円)	利率 (%) 償還日	投資 比率 (%)
1	D I A Mケイマン・ファン ド・ジャパニーズ・エクイ ティ・ファンド・カレン シー・セレクション 豪ド ルクラス ケイマン諸島	投資信 託受益 証券	4,025.81	15,246.9999 61,381,525	15,217.0000 61,260,750	- -	95.65

2	D I A Mマナーマザーファンド 日本	親投資 信託受 益証券	9,925	1.0061 9,986	1.0062 9,986	- -	0.02
---	-------------------------	-------------------	-------	-----------------	-----------------	--------	------

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

投資有価証券の種類別投資比率

2023年5月31日現在

種類	投資比率(%)
投資信託受益証券	95.65
親投資信託受益証券	0.02
合計	95.67

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

投資株式の業種別投資比率

該当事項はありません。

みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー(通貨選択型)メキシコペソコース

2023年5月31日現在

順位	銘柄名 発行体の国/地域	種類	数量	簿価単価 簿価金額 (円)	評価単価 評価金額 (円)	利率 (%) 償還日	投資 比率 (%)
1	D I A Mケイマン・ファン ド・ジャパニーズ・エクイ ティ・ファンド・カレン シー・セレクション メキ シコペソクラス ケイマン諸島	投資信 託受益 証券	2,700.06	16,478.9997	16,853.0000	-	95.83
				44,494,288	45,504,111	-	
2	D I A Mマナーマザーファ ンド 日本	親投資 信託受 益証券	9,925	1.0061 9,986	1.0062 9,986	- -	0.02

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

投資有価証券の種類別投資比率

2023年5月31日現在

種類	投資比率(%)
投資信託受益証券	95.83
親投資信託受益証券	0.02
合計	95.85

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

投資株式の業種別投資比率

該当事項はありません。

みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー(通貨選択型)トルコリラコース

2023年5月31日現在

順位	銘柄名 発行体の国/地域	種類	数量	簿価単価 簿価金額 (円)	評価単価 評価金額 (円)	利率 (%) 償還日	投資 比率 (%)
----	-----------------	----	----	---------------------	---------------------	------------------	-----------------

1	D I A Mケイマン・ファンド - ジャパニーズ・エクイティ・ファンド・カレンシー・セレクション トルコリラクラス ケイマン諸島	投資信託受益証券	123,098.46	2,278.8353	2,228.0000	-	95.36
				280,521,120	274,263,368	-	
2	D I A Mマネーマザーファンド 日本	親投資信託受益証券	9,925	1.0061	1.0062	-	0.00
				9,986	9,986	-	

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

投資有価証券の種類別投資比率

2023年5月31日現在

種類	投資比率(%)
投資信託受益証券	95.36
親投資信託受益証券	0.00
合計	95.36

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

投資株式の業種別投資比率

該当事項はありません。

みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー(通貨選択型)ブラジルリアルコース

2023年5月31日現在

順位	銘柄名 発行体の国/地域	種類	数量	簿価単価 簿価金額 (円)	評価単価 評価金額 (円)	利率 (%) 償還日	投資 比率 (%)
1	D I A Mケイマン・ファンド - ジャパニーズ・エクイティ・ファンド・カレンシー・セレクション ブラジルリアルクラス ケイマン諸島	投資信託受益証券	169,051.01	7,199.0000	7,269.0000	-	95.70
				1,216,998,221	1,228,831,791	-	
2	D I A Mマネーマザーファンド 日本	親投資信託受益証券	9,925	1.0061	1.0062	-	0.00
				9,986	9,986	-	

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

投資有価証券の種類別投資比率

2023年5月31日現在

種類	投資比率(%)
投資信託受益証券	95.70
親投資信託受益証券	0.00
合計	95.70

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

投資株式の業種別投資比率

該当事項はありません。

(参考)

D I A Mマネーマザーファンド

2023年5月31日現在

順位	銘柄名 発行体の国/地域	種類	数量	簿価単価 簿価金額 (円)	評価単価 評価金額 (円)	利率 (%) 償還日	投資 比率 (%)
1	435回 利付国庫債券 (2年) 日本	国債証券	100,000,000	100.13 100,130,000	100.12 100,125,000	0.005 2024/4/1	20.55
2	430回 利付国庫債券 (2年) 日本	国債証券	100,000,000	100.07 100,074,000	100.06 100,062,000	0.005 2023/11/1	20.53
3	429回 利付国庫債券 (2年) 日本	国債証券	100,000,000	100.07 100,070,000	100.05 100,053,000	0.005 2023/10/1	20.53

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

投資有価証券の種類別投資比率

2023年5月31日現在

種類	投資比率(%)
国債証券	61.61
合計	61.61

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

投資株式の業種別投資比率

該当事項はありません。

【投資不動産物件】

みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー(通貨選択型)円コース

該当事項はありません。

みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー(通貨選択型)米ドルコース

該当事項はありません。

みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー(通貨選択型)豪ドルコース

該当事項はありません。

みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー(通貨選択型)メキシコペソコース

該当事項はありません。

みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー(通貨選択型)トルコリラコース

該当事項はありません。

みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー(通貨選択型)ブラジルリアルコース

該当事項はありません。

(参考)

DIAMマネーマザーファンド

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー(通貨選択型)円コース

該当事項はありません。

みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー(通貨選択型)米ドルコース

該当事項はありません。

みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー（通貨選択型）豪ドルコース

該当事項はありません。

みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー（通貨選択型）メキシコペソコース

該当事項はありません。

みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー（通貨選択型）トルコリラコース

該当事項はありません。

みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー（通貨選択型）ブラジルリアルコース

該当事項はありません。

（参考）

D I A Mマネーマザーファンド

該当事項はありません。

（ 3 ） 【運用実績】

【純資産の推移】

みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー（通貨選択型）円コース

直近日（2023年5月末）、同日前1年以内における各月末及び下記計算期間末における純資産の推移は次の通りです。

	純資産総額 （分配落） （百万円）	純資産総額 （分配付） （百万円）	1口当たりの 純資産額 （分配落）（円）	1口当たりの 純資産額 （分配付）（円）
第1計算期間末 (2013年11月21日)	1,660	1,662	1.0563	1.0573
第2計算期間末 (2014年5月21日)	3,504	3,507	0.9811	0.9821
第3計算期間末 (2014年11月21日)	3,234	3,320	1.1370	1.1670
第4計算期間末 (2015年5月21日)	2,665	2,778	1.1878	1.2378
第5計算期間末 (2015年11月24日)	2,054	2,204	1.0991	1.1791
第6計算期間末 (2016年5月23日)	1,696	1,696	1.0059	1.0059
第7計算期間末 (2016年11月21日)	1,509	1,509	0.9818	0.9818
第8計算期間末 (2017年5月22日)	1,318	1,318	1.0759	1.0759
第9計算期間末 (2017年11月21日)	930	999	1.0808	1.1608
第10計算期間末 (2018年5月21日)	862	904	1.0904	1.1434
第11計算期間末 (2018年11月21日)	729	729	0.9785	0.9785
第12計算期間末 (2019年5月21日)	643	643	0.9515	0.9515

第13計算期間末 (2019年11月21日)	637	637	1.0048	1.0048
第14計算期間末 (2020年5月21日)	304	304	0.9499	0.9499
第15計算期間末 (2020年11月24日)	294	312	1.0731	1.1381
第16計算期間末 (2021年5月21日)	273	296	1.1194	1.2114
第17計算期間末 (2021年11月22日)	258	283	1.1150	1.2230
第18計算期間末 (2022年5月23日)	216	216	0.9710	0.9710
第19計算期間末 (2022年11月21日)	214	214	1.0006	1.0006
第20計算期間末 (2023年5月22日)	215	218	1.0540	1.0690
2022年5月末日	217	-	0.9745	-
6月末日	214	-	0.9684	-
7月末日	218	-	0.9859	-
8月末日	217	-	1.0001	-
9月末日	207	-	0.9609	-
10月末日	208	-	0.9732	-
11月末日	216	-	1.0121	-
12月末日	198	-	0.9567	-
2023年1月末日	207	-	0.9994	-
2月末日	202	-	0.9805	-
3月末日	205	-	0.9942	-
4月末日	207	-	1.0066	-
5月末日	212	-	1.0526	-

みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー(通貨選択型)米ドルコース

直近日(2023年5月末)、同日前1年以内における各月末及び下記計算期間末における純資産の推移は次の通りです。

	純資産総額 (分配落) (百万円)	純資産総額 (分配付) (百万円)	1口当たりの 純資産額 (分配落)(円)	1口当たりの 純資産額 (分配付)(円)
第1計算期間末 (2013年11月21日)	4,752	4,757	1.0793	1.0803
第2計算期間末 (2014年5月21日)	12,398	12,410	1.0107	1.0117
第3計算期間末 (2014年11月21日)	12,634	13,106	1.3392	1.3892
第4計算期間末 (2015年5月21日)	11,199	12,455	1.3371	1.4871
第5計算期間末 (2015年11月24日)	11,986	13,611	1.1802	1.3402
第6計算期間末 (2016年5月23日)	11,688	11,688	0.9684	0.9684
第7計算期間末 (2016年11月21日)	10,009	10,009	0.9457	0.9457

第8計算期間末 (2017年5月22日)	6,755	6,755	1.0507	1.0507
第9計算期間末 (2017年11月21日)	4,570	4,912	1.0687	1.1487
第10計算期間末 (2018年5月21日)	3,778	3,916	1.0905	1.1305
第11計算期間末 (2018年11月21日)	2,854	2,854	1.0010	1.0010
第12計算期間末 (2019年5月21日)	2,618	2,640	0.9579	0.9659
第13計算期間末 (2019年11月21日)	2,442	2,442	1.0092	1.0092
第14計算期間末 (2020年5月21日)	1,892	1,892	0.9535	0.9535
第15計算期間末 (2020年11月24日)	1,751	1,837	1.0538	1.1058
第16計算期間末 (2021年5月21日)	1,690	1,861	1.1365	1.2515
第17計算期間末 (2021年11月22日)	1,557	1,754	1.1531	1.2991
第18計算期間末 (2022年5月23日)	1,408	1,480	1.0707	1.1257
第19計算期間末 (2022年11月21日)	1,411	1,551	1.1077	1.2177
第20計算期間末 (2023年5月22日)	1,349	1,426	1.1354	1.2004
2022年5月末日	1,403	-	1.0665	-
6月末日	1,490	-	1.1347	-
7月末日	1,503	-	1.1489	-
8月末日	1,556	-	1.1918	-
9月末日	1,549	-	1.2001	-
10月末日	1,598	-	1.2437	-
11月末日	1,413	-	1.1078	-
12月末日	1,291	-	1.0210	-
2023年1月末日	1,312	-	1.0420	-
2月末日	1,350	-	1.0743	-
3月末日	1,335	-	1.0668	-
4月末日	1,362	-	1.0922	-
5月末日	1,362	-	1.1514	-

みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー(通貨選択型)豪ドルコース

直近日(2023年5月末)、同日前1年以内における各月末及び下記計算期間末における純資産の推移は次の通りです。

	純資産総額 (分配落) (百万円)	純資産総額 (分配付) (百万円)	1口当たりの 純資産額 (分配落)(円)	1口当たりの 純資産額 (分配付)(円)
第1特定期間末 (2013年11月21日)	690	692	1.1220	1.1240
第2特定期間末 (2014年5月21日)	946	947	1.0390	1.0410

第3特定期間末 (2014年11月21日)	896	899	1.3309	1.3349
第4特定期間末 (2015年5月21日)	691	693	1.3553	1.3593
第5特定期間末 (2015年11月24日)	651	653	1.2413	1.2453
第6特定期間末 (2016年5月23日)	470	472	1.0043	1.0083
第7特定期間末 (2016年11月21日)	567	569	0.9746	0.9786
第8特定期間末 (2017年5月22日)	498	500	1.0693	1.0733
第9特定期間末 (2017年11月21日)	313	314	1.1630	1.1670
第10特定期間末 (2018年5月21日)	239	240	1.1998	1.2038
第11特定期間末 (2018年11月21日)	179	180	1.0395	1.0435
第12特定期間末 (2019年5月21日)	149	149	0.9274	0.9314
第13特定期間末 (2019年11月21日)	141	142	0.9301	0.9341
第14特定期間末 (2020年5月21日)	110	110	0.8102	0.8122
第15特定期間末 (2020年11月24日)	124	124	1.0190	1.0210
第16特定期間末 (2021年5月21日)	136	136	1.2586	1.2606
第17特定期間末 (2021年11月22日)	130	131	1.3322	1.3342
第18特定期間末 (2022年5月23日)	114	115	1.2439	1.2459
第19特定期間末 (2022年11月21日)	67	67	1.3266	1.3286
第20特定期間末 (2023年5月22日)	64	64	1.3890	1.3910
2022年5月末日	115	-	1.2517	-
6月末日	87	-	1.2777	-
7月末日	90	-	1.3112	-
8月末日	85	-	1.3495	-
9月末日	80	-	1.2642	-
10月末日	67	-	1.3001	-
11月末日	67	-	1.3289	-
12月末日	56	-	1.2137	-
2023年1月末日	60	-	1.2991	-
2月末日	59	-	1.2678	-
3月末日	58	-	1.2516	-
4月末日	58	-	1.2614	-
5月末日	64	-	1.3859	-

みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー（通貨選択型）メキシコペソコース

直近日（2023年5月末）、同日前1年以内における各月末及び下記計算期間末における純資産の推移は次の通りです。

	純資産総額 （分配落） （百万円）	純資産総額 （分配付） （百万円）	1口当たりの 純資産額 （分配落）（円）	1口当たりの 純資産額 （分配付）（円）
第1特定期間末 (2013年11月21日)	907	909	1.0814	1.0844
第2特定期間末 (2014年5月21日)	953	956	1.0155	1.0185
第3特定期間末 (2014年11月21日)	608	610	1.3237	1.3287
第4特定期間末 (2015年5月21日)	286	287	1.3121	1.3171
第5特定期間末 (2015年11月24日)	141	141	1.2001	1.2051
第6特定期間末 (2016年5月23日)	70	71	0.8573	0.8623
第7特定期間末 (2016年11月21日)	56	56	0.7441	0.7491
第8特定期間末 (2017年5月22日)	116	117	0.8726	0.8776
第9特定期間末 (2017年11月21日)	219	220	0.9428	0.9478
第10特定期間末 (2018年5月21日)	183	184	0.9574	0.9624
第11特定期間末 (2018年11月21日)	111	112	0.8411	0.8461
第12特定期間末 (2019年5月21日)	97	97	0.8564	0.8614
第13特定期間末 (2019年11月21日)	90	91	0.8760	0.8810
第14特定期間末 (2020年5月21日)	70	70	0.6641	0.6691
第15特定期間末 (2020年11月24日)	85	86	0.8697	0.8747
第16特定期間末 (2021年5月21日)	60	60	1.0346	1.0396
第17特定期間末 (2021年11月22日)	58	58	1.1173	1.1223
第18特定期間末 (2022年5月23日)	51	51	1.1336	1.1386
第19特定期間末 (2022年11月21日)	47	47	1.3178	1.3228
第20特定期間末 (2023年5月22日)	46	46	1.5609	1.5659
2022年5月末日	52	-	1.1416	-
6月末日	44	-	1.1875	-
7月末日	45	-	1.1884	-

8月末日	45	-	1.2615	-
9月末日	45	-	1.2549	-
10月末日	47	-	1.3179	-
11月末日	48	-	1.3421	-
12月末日	43	-	1.2170	-
2023年1月末日	45	-	1.2793	-
2月末日	45	-	1.3480	-
3月末日	45	-	1.3581	-
4月末日	44	-	1.3850	-
5月末日	47	-	1.5943	-

みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー(通貨選択型)トルコリラコース

直近日(2023年5月末)、同日前1年以内における各月末及び下記計算期間末における純資産の推移は次の通りです。

	純資産総額 (分配落) (百万円)	純資産総額 (分配付) (百万円)	1口当たりの 純資産額 (分配落)(円)	1口当たりの 純資産額 (分配付)(円)
第1特定期間末 (2013年11月21日)	120	120	1.0381	1.0441
第2特定期間末 (2014年5月21日)	245	247	0.9298	0.9358
第3特定期間末 (2014年11月21日)	321	324	1.2132	1.2232
第4特定期間末 (2015年5月21日)	417	421	1.1518	1.1618
第5特定期間末 (2015年11月24日)	284	287	1.0628	1.0728
第6特定期間末 (2016年5月23日)	146	147	0.8061	0.8161
第7特定期間末 (2016年11月21日)	92	93	0.6731	0.6831
第8特定期間末 (2017年5月22日)	195	198	0.6675	0.6775
第9特定期間末 (2017年11月21日)	1,260	1,280	0.6519	0.6619
第10特定期間末 (2018年5月21日)	1,858	1,891	0.5746	0.5846
第11特定期間末 (2018年11月21日)	1,520	1,543	0.4335	0.4400
第12特定期間末 (2019年5月21日)	1,326	1,349	0.3740	0.3805
第13特定期間末 (2019年11月21日)	1,138	1,156	0.4071	0.4136
第14特定期間末 (2020年5月21日)	685	692	0.3094	0.3124
第15特定期間末 (2020年11月24日)	519	524	0.3220	0.3250
第16特定期間末 (2021年5月21日)	531	535	0.3551	0.3581

第17特定期間末 (2021年11月22日)	430	434	0.3221	0.3251
第18特定期間末 (2022年5月23日)	278	282	0.2216	0.2246
第19特定期間末 (2022年11月21日)	295	299	0.2366	0.2396
第20特定期間末 (2023年5月22日)	293	297	0.2439	0.2469
2022年5月末日	275	-	0.2187	-
6月末日	295	-	0.2343	-
7月末日	272	-	0.2191	-
8月末日	290	-	0.2327	-
9月末日	288	-	0.2307	-
10月末日	302	-	0.2417	-
11月末日	298	-	0.2391	-
12月末日	273	-	0.2187	-
2023年1月末日	267	-	0.2200	-
2月末日	271	-	0.2264	-
3月末日	262	-	0.2185	-
4月末日	269	-	0.2235	-
5月末日	287	-	0.2386	-

みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー(通貨選択型)ブラジルリアルコース

直近日(2023年5月末)、同日前1年以内における各月末及び下記計算期間末における純資産の推移は次の通りです。

	純資産総額 (分配落) (百万円)	純資産総額 (分配付) (百万円)	1口当たりの 純資産額 (分配落)(円)	1口当たりの 純資産額 (分配付)(円)
第1特定期間末 (2013年11月21日)	490	493	1.0971	1.1041
第2特定期間末 (2014年5月21日)	979	985	1.0585	1.0655
第3特定期間末 (2014年11月21日)	1,278	1,289	1.2643	1.2753
第4特定期間末 (2015年5月21日)	1,232	1,244	1.1791	1.1901
第5特定期間末 (2015年11月24日)	1,863	1,884	0.9705	0.9815
第6特定期間末 (2016年5月23日)	4,613	4,676	0.7974	0.8084
第7特定期間末 (2016年11月21日)	9,137	9,267	0.7718	0.7828
第8特定期間末 (2017年5月22日)	8,261	8,369	0.8482	0.8592
第9特定期間末 (2017年11月21日)	5,192	5,255	0.9102	0.9212
第10特定期間末 (2018年5月21日)	3,741	3,792	0.8016	0.8126
第11特定期間末 (2018年11月21日)	3,207	3,240	0.6752	0.6822

第12特定期間末 (2019年5月21日)	3,095	3,133	0.5668	0.5738
第13特定期間末 (2019年11月21日)	2,654	2,688	0.5494	0.5564
第14特定期間末 (2020年5月21日)	1,507	1,522	0.3529	0.3564
第15特定期間末 (2020年11月24日)	1,461	1,473	0.4209	0.4244
第16特定期間末 (2021年5月21日)	1,378	1,388	0.4793	0.4828
第17特定期間末 (2021年11月22日)	1,318	1,327	0.5117	0.5152
第18特定期間末 (2022年5月23日)	1,280	1,288	0.5558	0.5593
第19特定期間末 (2022年11月21日)	1,149	1,156	0.5760	0.5795
第20特定期間末 (2023年5月22日)	1,278	1,284	0.6703	0.6738
2022年5月末日	1,304	-	0.5720	-
6月末日	1,236	-	0.5535	-
7月末日	1,204	-	0.5629	-
8月末日	1,278	-	0.6095	-
9月末日	1,157	-	0.5746	-
10月末日	1,195	-	0.5984	-
11月末日	1,158	-	0.5820	-
12月末日	1,078	-	0.5472	-
2023年1月末日	1,125	-	0.5714	-
2月末日	1,138	-	0.5786	-
3月末日	1,141	-	0.5804	-
4月末日	1,152	-	0.6032	-
5月末日	1,284	-	0.6763	-

【分配の推移】

みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー(通貨選択型)円コース

	1口当たりの分配金(円)
第1計算期間	0.0010
第2計算期間	0.0010
第3計算期間	0.0300
第4計算期間	0.0500
第5計算期間	0.0800
第6計算期間	0.0000
第7計算期間	0.0000
第8計算期間	0.0000
第9計算期間	0.0800
第10計算期間	0.0530
第11計算期間	0.0000
第12計算期間	0.0000
第13計算期間	0.0000
第14計算期間	0.0000

第15計算期間	0.0650
第16計算期間	0.0920
第17計算期間	0.1080
第18計算期間	0.0000
第19計算期間	0.0000
第20計算期間	0.0150

みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー（通貨選択型）米ドルコース

	1口当たりの分配金（円）
第1計算期間	0.0010
第2計算期間	0.0010
第3計算期間	0.0500
第4計算期間	0.1500
第5計算期間	0.1600
第6計算期間	0.0000
第7計算期間	0.0000
第8計算期間	0.0000
第9計算期間	0.0800
第10計算期間	0.0400
第11計算期間	0.0000
第12計算期間	0.0080
第13計算期間	0.0000
第14計算期間	0.0000
第15計算期間	0.0520
第16計算期間	0.1150
第17計算期間	0.1460
第18計算期間	0.0550
第19計算期間	0.1100
第20計算期間	0.0650

みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー（通貨選択型）豪ドルコース

	1口当たりの分配金（円）
第1特定期間	0.0020
第2特定期間	0.0120
第3特定期間	0.0140
第4特定期間	0.0240
第5特定期間	0.0240
第6特定期間	0.0240
第7特定期間	0.0240
第8特定期間	0.0240
第9特定期間	0.0240
第10特定期間	0.0240
第11特定期間	0.0240
第12特定期間	0.0240
第13特定期間	0.0240
第14特定期間	0.0220
第15特定期間	0.0120
第16特定期間	0.0120
第17特定期間	0.0120
第18特定期間	0.0120

第19特定期間	0.0120
第20特定期間	0.0120

みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー（通貨選択型）メキシコペソコース

	1口当たりの分配金（円）
第1特定期間	0.0030
第2特定期間	0.0180
第3特定期間	0.0200
第4特定期間	0.0300
第5特定期間	0.0300
第6特定期間	0.0300
第7特定期間	0.0300
第8特定期間	0.0300
第9特定期間	0.0300
第10特定期間	0.0300
第11特定期間	0.0300
第12特定期間	0.0300
第13特定期間	0.0300
第14特定期間	0.0300
第15特定期間	0.0300
第16特定期間	0.0300
第17特定期間	0.0300
第18特定期間	0.0300
第19特定期間	0.0300
第20特定期間	0.0300

みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー（通貨選択型）トルコリラコース

	1口当たりの分配金（円）
第1特定期間	0.0060
第2特定期間	0.0360
第3特定期間	0.0400
第4特定期間	0.0600
第5特定期間	0.0600
第6特定期間	0.0600
第7特定期間	0.0600
第8特定期間	0.0600
第9特定期間	0.0600
第10特定期間	0.0600
第11特定期間	0.0565
第12特定期間	0.0390
第13特定期間	0.0390
第14特定期間	0.0355
第15特定期間	0.0180
第16特定期間	0.0180
第17特定期間	0.0180
第18特定期間	0.0180
第19特定期間	0.0180
第20特定期間	0.0180

みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー（通貨選択型）ブラジルリアルコース

	1口当たりの分配金（円）
第1特定期間	0.0070
第2特定期間	0.0420
第3特定期間	0.0460
第4特定期間	0.0660
第5特定期間	0.0660
第6特定期間	0.0660
第7特定期間	0.0660
第8特定期間	0.0660
第9特定期間	0.0660
第10特定期間	0.0660
第11特定期間	0.0620
第12特定期間	0.0420
第13特定期間	0.0420
第14特定期間	0.0385
第15特定期間	0.0210
第16特定期間	0.0210
第17特定期間	0.0210
第18特定期間	0.0210
第19特定期間	0.0210
第20特定期間	0.0210

【収益率の推移】

みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー（通貨選択型）円コース

	収益率（％）
第1計算期間	5.7
第2計算期間	7.0
第3計算期間	18.9
第4計算期間	8.9
第5計算期間	0.7
第6計算期間	8.5
第7計算期間	2.4
第8計算期間	9.6
第9計算期間	7.9
第10計算期間	5.8
第11計算期間	10.3
第12計算期間	2.8
第13計算期間	5.6
第14計算期間	5.5
第15計算期間	19.8
第16計算期間	12.9
第17計算期間	9.3
第18計算期間	12.9
第19計算期間	3.0
第20計算期間	6.8

（注）収益率は期間騰落率です。

みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー（通貨選択型）米ドルコース

	収益率（％）
第1計算期間	8.0

第2計算期間	6.3
第3計算期間	37.4
第4計算期間	11.0
第5計算期間	0.2
第6計算期間	17.9
第7計算期間	2.3
第8計算期間	11.1
第9計算期間	9.3
第10計算期間	5.8
第11計算期間	8.2
第12計算期間	3.5
第13計算期間	5.4
第14計算期間	5.5
第15計算期間	16.0
第16計算期間	18.8
第17計算期間	14.3
第18計算期間	2.4
第19計算期間	13.7
第20計算期間	8.4

(注) 収益率は期間騰落率です。

みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー(通貨選択型)豪ドルコース

	収益率(%)
第1特定期間	12.4
第2特定期間	6.3
第3特定期間	29.4
第4特定期間	3.6
第5特定期間	6.6
第6特定期間	17.2
第7特定期間	0.6
第8特定期間	12.2
第9特定期間	11.0
第10特定期間	5.2
第11特定期間	11.4
第12特定期間	8.5
第13特定期間	2.9
第14特定期間	10.5
第15特定期間	27.3
第16特定期間	24.7
第17特定期間	6.8
第18特定期間	5.7
第19特定期間	7.6
第20特定期間	5.6

(注1) 収益率は期間騰落率です。

(注2) 各特定期間中の分配金累計額を加算して算出しています。

みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー(通貨選択型)メキシコペソコース

	収益率(%)
第1特定期間	8.4
第2特定期間	4.4

第3特定期間	32.3
第4特定期間	1.4
第5特定期間	6.2
第6特定期間	26.1
第7特定期間	9.7
第8特定期間	21.3
第9特定期間	11.5
第10特定期間	4.7
第11特定期間	9.0
第12特定期間	5.4
第13特定期間	5.8
第14特定期間	20.8
第15特定期間	35.5
第16特定期間	22.4
第17特定期間	10.9
第18特定期間	4.1
第19特定期間	18.9
第20特定期間	20.7

（注1）収益率は期間騰落率です。

（注2）各特定期間中の分配金累計額を加算して算出しています。

みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー（通貨選択型）トルコリラコース

	収益率（％）
第1特定期間	4.4
第2特定期間	7.0
第3特定期間	34.8
第4特定期間	0.1
第5特定期間	2.5
第6特定期間	18.5
第7特定期間	9.1
第8特定期間	8.1
第9特定期間	6.7
第10特定期間	2.7
第11特定期間	14.7
第12特定期間	4.7
第13特定期間	19.3
第14特定期間	15.3
第15特定期間	9.9
第16特定期間	15.9
第17特定期間	4.2
第18特定期間	25.6
第19特定期間	14.9
第20特定期間	10.7

（注1）収益率は期間騰落率です。

（注2）各特定期間中の分配金累計額を加算して算出しています。

みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー（通貨選択型）ブラジルリアルコース

	収益率（％）
第1特定期間	10.4
第2特定期間	0.3

第3特定期間	23.8
第4特定期間	1.5
第5特定期間	12.1
第6特定期間	11.0
第7特定期間	5.1
第8特定期間	18.5
第9特定期間	15.1
第10特定期間	4.7
第11特定期間	8.0
第12特定期間	9.8
第13特定期間	4.3
第14特定期間	28.8
第15特定期間	25.2
第16特定期間	18.9
第17特定期間	11.1
第18特定期間	12.7
第19特定期間	7.4
第20特定期間	20.0

(注1) 収益率は期間騰落率です。

(注2) 各特定期間中の分配金累計額を加算して算出しています。

(4) 【設定及び解約の実績】

みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー(通貨選択型)円コース

	設定口数	解約口数
第1計算期間	1,572,382,708	0
第2計算期間	2,360,617,046	361,054,273
第3計算期間	587,457,858	1,314,167,252
第4計算期間	200,564,532	801,444,903
第5計算期間	284,786,402	659,702,323
第6計算期間	130,008,619	312,796,339
第7計算期間	55,621,355	204,841,924
第8計算期間	5,580,174	317,483,468
第9計算期間	3,081,612	367,271,016
第10計算期間	6,295,539	76,464,113
第11計算期間	3,750,324	49,004,330
第12計算期間	1,452,308	71,485,861
第13計算期間	213,005	41,985,923
第14計算期間	1,224,302	314,977,384
第15計算期間	205,129	46,214,386
第16計算期間	11,866	29,927,851
第17計算期間	1,829	12,888,962
第18計算期間	2,294	8,598,004
第19計算期間	0	8,524,674
第20計算期間	0	10,245,403

(注1) 本邦外における設定及び解約はありません。

(注2) 第1計算期間の設定口数には、当初設定口数を含みます。

みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー(通貨選択型)米ドルコース

	設定口数	解約口数
第1計算期間	4,507,171,918	103,847,600

第2計算期間	9,731,346,413	1,867,670,088
第3計算期間	1,827,998,236	4,660,794,300
第4計算期間	3,094,463,857	4,152,761,839
第5計算期間	4,566,161,087	2,785,724,548
第6計算期間	3,893,571,650	1,980,038,250
第7計算期間	679,612,112	2,164,864,340
第8計算期間	140,350,600	4,295,807,877
第9計算期間	2,706,643	2,155,447,280
第10計算期間	92,285,121	904,336,837
第11計算期間	113,592,667	726,477,526
第12計算期間	101,387,850	218,770,873
第13計算期間	6,300,687	320,194,669
第14計算期間	0	435,355,897
第15計算期間	0	322,863,611
第16計算期間	1,875,210	176,752,449
第17計算期間	3,421,024	139,611,445
第18計算期間	2,635,527	38,123,256
第19計算期間	1,130,136	42,506,217
第20計算期間	2,143,558	87,500,313

(注1) 本邦外における設定及び解約はありません。

(注2) 第1計算期間の設定口数には、当初設定口数を含みます。

みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー(通貨選択型)豪ドルコース

	設定口数	解約口数
第1特定期間	678,681,426	62,963,948
第2特定期間	546,432,433	251,507,914
第3特定期間	168,434,006	405,474,040
第4特定期間	179,826,197	343,172,439
第5特定期間	197,840,874	183,105,834
第6特定期間	114,714,561	171,564,997
第7特定期間	206,463,515	92,451,630
第8特定期間	106,676,602	222,878,718
第9特定期間	5,506,593	201,707,046
第10特定期間	2,268,971	72,220,600
第11特定期間	22,130,069	49,352,394
第12特定期間	706,285	12,578,362
第13特定期間	1,860,559	10,102,527
第14特定期間	536,021	16,514,287
第15特定期間	106,524	14,276,367
第16特定期間	35,640	13,926,578
第17特定期間	22,483	10,154,348
第18特定期間	21,966	5,942,538
第19特定期間	11,341	41,567,192
第20特定期間	11,818	4,615,021

(注1) 本邦外における設定及び解約はありません。

(注2) 第1特定期間の設定口数には、当初設定口数を含みます。

みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー(通貨選択型)メキシコペソコース

	設定口数	解約口数
第1特定期間	841,532,640	2,587,372

第2特定期間	362,794,355	262,526,955
第3特定期間	42,753,564	522,134,859
第4特定期間	10,085,240	251,790,342
第5特定期間	324,641	100,651,654
第6特定期間	7,186,000	42,611,871
第7特定期間	210,432	7,104,283
第8特定期間	71,668,590	13,518,006
第9特定期間	113,237,434	14,475,904
第10特定期間	1,007,480	41,924,478
第11特定期間	22,415,813	81,285,222
第12特定期間	565,450	19,578,398
第13特定期間	580,972	10,718,668
第14特定期間	2,217,327	0
第15特定期間	519,198	7,716,791
第16特定期間	231,929	40,383,383
第17特定期間	176,016	6,189,140
第18特定期間	179,420	6,896,827
第19特定期間	34,146	9,739,001
第20特定期間	6,835	6,110,479

(注1) 本邦外における設定及び解約はありません。

(注2) 第1特定期間の設定口数には、当初設定口数を含みます。

みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー(通貨選択型)トルコリラコース

	設定口数	解約口数
第1特定期間	115,890,497	0
第2特定期間	174,693,607	26,291,032
第3特定期間	130,457,883	129,591,880
第4特定期間	166,398,246	68,825,116
第5特定期間	35,953,299	130,680,369
第6特定期間	10,341,862	97,153,075
第7特定期間	4,201,660	48,182,139
第8特定期間	193,712,416	38,335,909
第9特定期間	1,676,943,619	35,185,360
第10特定期間	1,324,657,849	24,229,910
第11特定期間	643,369,961	370,815,046
第12特定期間	377,387,787	338,239,327
第13特定期間	194,916,488	944,917,766
第14特定期間	130,111,866	709,938,087
第15特定期間	9,503,034	612,567,936
第16特定期間	5,971,525	124,154,556
第17特定期間	5,413,104	163,178,913
第18特定期間	8,225,314	87,829,202
第19特定期間	9,231,904	17,723,917
第20特定期間	10,368,644	56,245,800

(注1) 本邦外における設定及び解約はありません。

(注2) 第1特定期間の設定口数には、当初設定口数を含みます。

みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー(通貨選択型)ブラジルリアルコース

	設定口数	解約口数
第1特定期間	547,193,505	100,343,206

第2特定期間	607,198,955	129,107,917
第3特定期間	419,174,948	333,254,936
第4特定期間	346,352,878	311,551,537
第5特定期間	1,134,147,281	259,958,713
第6特定期間	4,272,982,808	407,873,005
第7特定期間	6,485,337,408	431,233,333
第8特定期間	2,469,004,775	4,567,059,190
第9特定期間	384,054,124	4,420,560,245
第10特定期間	1,077,047,539	2,114,173,442
第11特定期間	933,414,786	850,524,999
第12特定期間	1,154,765,950	443,206,411
第13特定期間	181,462,139	811,739,139
第14特定期間	64,608,848	623,926,055
第15特定期間	6,211,536	805,606,249
第16特定期間	2,684,029	599,663,214
第17特定期間	1,386,650	300,657,306
第18特定期間	964,727	273,872,869
第19特定期間	893,936	308,913,371
第20特定期間	902,953	89,522,281

(注1) 本邦外における設定及び解約はありません。

(注2) 第1特定期間の設定口数には、当初設定口数を含みます。

第2【管理及び運営】

1【申込（販売）手続等】

お申込みに際しては、販売会社所定の方法でお申込みください。

ファンドは、収益の分配が行われた場合に収益分配金を受領する「分配金受取コース」と、収益分配金を無手数料で再投資する「分配金再投資コース」があり、「分配金再投資コース」を取得申込者が選択した場合には、取得申込者は販売会社との間で「自動けいぞく投資約款」にしたがい分配金再投資に関する契約を締結します。なお、販売会社によっては、当該契約または規定について同様の権利義務関係を規定する名称の異なる契約または規定を使用することがあり、この場合、当該別の名称に読み替えるものとします。

また、受益者と販売会社との間であらかじめ決められた一定の金額を一定期間毎に定時定額購入（積立）をすることができる場合があります。販売会社までお問い合わせください。

ファンドのお申込みは、原則として販売会社の毎営業日に行われます。お申込みの受付は、原則として午後3時までにお申込みが行われ、かつ、お申込みの受付にかかる販売会社の所定の事務手続が完了したものを当日のお申込みとします。

ただし、ニューヨークの銀行、またはロンドンの銀行の休業日に該当する日（以下、「海外休業日」という場合があります。）には、取得またはスイッチングのお申込みの受付を行いません。

委託会社は、金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、取得のお申込み（スイッチングのお申込みを含みます。）の受付を中止することおよびすでに受付けた取得のお申込み（スイッチングのお申込みを含みます。）の受付を取り消すことができるものとします。

受益権の取得申込者は販売会社に、取得申込みと同時にまたはあらかじめ、自己のために開設されたファンドの受益権の振替を行うための振替機関等の口座を示すものとし、当該口座に当該取得申込者にかかる口数の増加の記載または記録が行われます。

なお、販売会社は、当該取得申込みの代金の支払いと引き換えに、当該口座に当該取得申込者にかかる口数の増加の記載または記録を行うことができます。委託会社は、分割された受益権について、振替機関等の振替口座簿への新たな記載または記録をするため社振法に定める事項の振替機関への通知を行うものとします。振替機関等は、委託会社から振替機関への通知があった場合、社振法の規定にしたがい、その備える振替口座簿への新たな記載または記録を行います。受託会社は、追加信託により生じた受益権については追加信託のつど、振替機関の定める方法により、振替機関へ当該受益権にかかる信託を設定した旨の通知を行います。

・お申込価額

お申込日の翌営業日の基準価額 とします。

「分配金再投資コース」により収益分配金を再投資する場合は、各計算期間終了日の基準価額とします。

「基準価額」とは、純資産総額（ファンドの資産総額から負債総額を控除した金額）を計算日の受益権総口数で除した価額をいいます。（ただし、便宜上1万口あたりに換算した基準価額で表示することがあります。）

< 基準価額の照会方法等 >

基準価額は、委託会社の毎営業日において、委託会社により計算され、公表されます。

各ファンドの基準価額は、以下の方法でご確認ください。

- ・販売会社へのお問い合わせ
- ・委託会社への照会

ホームページ URL <http://www.am-one.co.jp/>

コールセンター：0120-104-694（受付時間：営業日の午前9時から午後5時まで）

・お申込単位

各販売会社が定める単位とします。

「分配金受取コース」および「分配金再投資コース」によるお申込みが可能です。お申込みになる販売会社によっては、どちらか一方のコースのみの取扱いとなる場合があります。

取扱コースおよびお申込単位は、販売会社にお問い合わせください。

「分配金再投資コース」により、収益分配金を再投資する場合は、1口単位となります。

当初元本は1口当たり1円です。

・お申込手数料

お申込日の翌営業日の基準価額に、3.3%（税抜3.0%）を上限に各販売会社が定める手数料率を乗じて得た額とします。

償還乗換え等によるお申込みの場合、販売会社によりお申込手数料が優遇される場合があります。

「分配金再投資コース」により収益分配金を再投資する場合には、お申込手数料はかかりません。

詳しくは販売会社にお問い合わせください。

・払込期日

取得申込者は、お申込みをされた販売会社が定める所定の日までに、買付代金を販売会社に支払うものとします。各取得申込日の発行価額の総額は、販売会社によって、追加信託が行われる日に、委託会社の指定する口座を経由して受託会社の指定するファンド口座（受託会社が信託事務の一部について委託を行っている場合は当該委託先の口座）に払込まれます。

2【換金（解約）手続等】

受益者は、自己に帰属する受益権につき、委託会社に対し、解約の請求をすることができます。受益者が解約の請求をするときは、販売会社に対し、振替受益権をもって行うものとします。委託会社は、解約の請求を受付けた場合には、この信託契約の一部を解約します。

解約の請求の受付は、原則として販売会社の毎営業日の午後3時までに行われ、かつ、解約の受付にかかる販売会社の所定の事務手続きが完了したものを当日のお申込みとします。

なお、信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口の解約請求に制限を設ける場合があります。

海外休業日には、解約の受付を行いません。

解約の請求を行う受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して当該受益者の請求にかかるこの信託契約の一部解約を委託会社が行うのと引き換えに、当該一部解約にかかる受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。

委託会社は、金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、解約の受付を中止することおよびすでに受付けた解約の請求の受付を取り消すこ

とができます。解約の受付が中止された場合には、受益者は当該受付中止以前に行った当日の解約の請求を撤回できます。ただし、受益者がその解約の請求を撤回しない場合には、当該受益権の解約価額は、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日に解約の請求を受付けたものとして、下記に準じて計算した価額とします。

・解約価額

解約価額は、解約請求受付日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額として当該基準価額に0.3%の率を乗じて得た額を控除した額とします。

解約価額は、委託会社の毎営業日において、委託会社により計算され、公表されます。

各ファンドの解約価額は、以下の方法でご確認ください。

- ・販売会社へのお問い合わせ
- ・委託会社への照会

コールセンター:0120-104-694(受付時間:営業日の午前9時から午後5時まで)

・解約単位

各販売会社が定める単位とします。

解約単位は販売会社にお問い合わせください。

・解約代金の受渡日

解約代金は、原則として解約請求受付日より起算して6営業日目から販売会社の営業所等において支払います。

3【資産管理等の概要】

(1)【資産の評価】

基準価額とは、純資産総額(信託財産に属する資産を法令および一般社団法人投資信託協会規則に従って時価評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額)を、計算日における受益権総口数で除した金額をいいます。

<主な投資対象の時価評価方法の原則>

投資対象	評価方法
外国投資信託証券	計算日に入手し得る直近の純資産価格(基準価額)
マザーファンド 受益証券	計算日の基準価額

基準価額(1万口当たり)は、委託会社の毎営業日において、委託会社により計算され、公表されます。

各ファンドの基準価額は、以下の方法でご確認ください。

- ・販売会社へのお問い合わせ
- ・委託会社への照会

ホームページ URL <http://www.am-one.co.jp/>

コールセンター:0120-104-694(受付時間:営業日の午前9時から午後5時まで)

(2)【保管】

該当事項はありません。

(3)【信託期間】

信託期間は、2013年7月31日から原則として2023年7月14日までです。

下記(5)イ.の場合には信託終了前に信託契約を解約し、信託を終了させることがあります。また、委託会社は、信託期間満了前に、信託期間の延長が受益者に有利であると認めたときは、受託会社と協議のうえ、信託期間を延長することができます。

(4)【計算期間】

豪ドルコース、メキシコペソコース、トルコリラコース、ブラジルリアルコース

原則として毎月22日から翌月21日までとします。

円コース、米ドルコース

原則として毎年5月22日から11月21日まで、および11月22日から翌年5月21日までとします。

上記にかかわらず、上記の原則により各計算期間終了日に該当する日(以下「該当日」といいます。)が休業日のとき、各計算期間終了日は、該当日の翌営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。ただし、最終計算期間の終了日は、信託期間の終了日とします。

(5)【その他】

イ.償還規定

- a. 委託会社は、信託期間中において、信託契約を解約することが受益者のため有利であると認める場合、各ファンドについて受益権口数が10億口を下回ることとなった場合、またはやむを得ない事情が発生した場合は、受託会社と合意のうえ、信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において、委託会社は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。
- b. 委託会社は、各ファンドが主要投資対象とする外国投資信託が存続しないこととなった場合には、信託契約を解約し、信託を終了させます。この場合において、委託会社は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。
- c. 委託会社は、上記a.の事項について、書面による決議(以下「書面決議」といいます。)を行います。この場合において、あらかじめ、書面決議の日および信託契約の解約の理由などの事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、信託契約にかかる知れている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を發します。
- d. 上記c.の書面決議において、受益者(委託会社およびこの信託の信託財産にこの信託の受益権が属するときの当該受益権にかかる受益者としての受託会社を除きます。以下イ.償還規定d.において同じ。)は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行使することができます。なお、知れている受益者が議決権を行使しないときは、当該知れている受益者は書面決議について賛成するものとみなします。
- e. 上記c.の書面決議は議決権を行使することができる受益者の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行います。
- f. 上記c.からe.までの規定は、委託会社が信託契約の解約について提案をした場合において、当該提案につき、信託契約にかかるすべての受益者が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときには適用しません。また、上記b.により信託契約を解約する場合または信託財産の状態

に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であって、上記c.からe.までの手続きを行うことが困難な場合も同様とします。

- g. 委託会社は、監督官庁より信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令にしたがい、信託契約を解約し信託を終了させます。
- h. 委託会社が監督官庁より登録の取消を受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、委託会社は、信託契約を解約し、信託を終了させます。ただし、監督官庁が、信託契約に関する委託会社の業務を他の投資信託委託会社に引継ぐことを命じたときは、下記「ロ．信託約款の変更等 b.」の書面決議が否決された場合を除き、その投資信託委託会社と受託会社との間において存続します。
- i. 受託会社は委託会社の承諾を受けてその任務を辞任することができます。受託会社はその任務に違反して信託財産に著しい損害を与えたこと、その他重要な事由があるときは、委託会社または受益者は、裁判所に受託会社の解任を請求することができます。受託会社が辞任した場合または裁判所が受託会社を解任した場合、委託会社は下記「ロ．信託約款の変更等」の規定にしたがい、新受託会社を選任します。なお、受益者は、上記によって行う場合を除き、受託会社を解任することはできないものとし、委託会社が新受託会社を選任できないときは、委託会社は信託契約を解約し、信託を終了させます。
- j. この信託は、受益者が一部解約請求を行ったときは、委託会社が信託契約の一部の解約をすることにより当該請求に応じ、当該受益権の公正な価格が当該受益者に一部解約金として支払われることとなる委託者指図型投資信託に該当するため、信託契約の解約を行う場合において、投資信託及び投資法人に関する法律第18条第1項に定める反対受益者による受益権買取請求の規定の適用を受けません。

ロ．信託約款の変更等

- a. 委託会社は、受益者の利益のため必要と認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、約款を変更することまたはこの信託と他の投資信託との併合（投資信託及び投資法人に関する法律第16条第2号に規定する「委託者指図型投資信託の併合」をいいます。以下同じ。）を行うことができるものとし、あらかじめ、変更または併合しようとする旨およびその内容を監督官庁に届出ます。なお、約款はa.からg.に定める以外の方法によって変更することができないものとし、
- b. 委託会社は、上記a.の事項（上記a.の変更事項にあつては、その内容が重大なものに該当する場合に限り、上記a.の併合事項にあつては、その併合が受益者の利益におよぼす影響が軽微なものに該当する場合を除きます。以下、「重大な約款の変更等」といいます。）について、書面決議を行います。この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびに重大な約款の変更等の内容およびその理由などの事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、約款にかかる知れている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を發します。
- c. 上記b.の書面決議において、受益者（委託会社およびこの信託の信託財産にこの信託の受益権が属するときの当該受益権にかかる受益者としての受託会社を除きます。以下同じ。）は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行使することができます。なお、知れている受益者が議決権を行使しないときは、当該知れている受益者は書面決議について賛成するものとみなします。
- d. 上記b.の書面決議は議決権を行使することができる受益者の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行います。
- e. 書面決議の効力は、この信託のすべての受益者に対してその効力を生じます。

- f. 上記b. からe. までの規定は、委託会社が重大な約款の変更等について提案をした場合において、当該提案につき、約款にかかるすべての受益者が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときには適用しません。
- g. 上記a. からf. の規定にかかわらず、この信託において併合の書面決議が可決された場合であっても、当該併合にかかる一または複数の他の投資信託において当該併合の書面決議が否決された場合は、当該他の投資信託との併合を行うことはできません。
- h. 委託会社は、監督官庁の命令に基づいて約款を変更しようとするときは、上記a. からg. の規定にしたがい約款を変更します。
- i. この信託は、受益者が一部解約請求を行ったときは、委託会社が信託契約の一部の解約をすることにより当該請求に応じ、当該受益権の公正な価格が当該受益者に一部解約金として支払われることとなる委託者指図型投資信託に該当するため、重大な約款の変更等を行う場合において、投資信託及び投資法人に関する法律第18条第1項に定める反対受益者による受益権買取請求の規定の適用を受けません。

八．関係法人との契約の更改

証券投資信託の募集・販売の取扱い等に関する契約について、委託会社と販売会社との間の当該契約は、原則として期間満了の3ヵ月前までに当事者間の別段の意思表示がない限り、1年毎に自動的に更新されます。当該契約は、当事者間の合意により変更することができます。

二．公告

委託会社が受益者に対してする公告は、電子公告の方法により行い、委託会社のホームページに掲載します。

(URL <http://www.am-one.co.jp/>)

なお、電子公告による公告をすることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合の公告は、日本経済新聞に掲載して行います。

ホ．運用報告書

- ・委託会社は、毎年5月21日、11月21日(休業日の場合は翌営業日。)および償還時に交付運用報告書を作成し、販売会社を通じて受益者に対して交付します。
- ・運用報告書(全体版)は、委託会社のホームページにおいて開示します。ただし、受益者から運用報告書(全体版)の請求があった場合には、これを交付します。

(URL <http://www.am-one.co.jp/>)

4【受益者の権利等】

(1) 収益分配金請求権

受益者は、委託会社の決定した収益分配金を、持ち分に応じて請求する権利を有します。

受益者が収益分配金支払開始日から5年間支払いを請求しないときは、その権利を失い、委託会社が受託会社から交付を受けた金銭は、委託会社に帰属します。

収益分配金は、決算日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者(当該収益分配金にかかる決算日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該収益分配金にかかる計算期間の末日以前に設定された受益権で取得申込代金支払

前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とします。)に、原則として決算日から起算して5営業日までにお支払いを開始します。

なお、「分配金再投資コース」により収益分配金を再投資する受益者に対しては、委託会社は受託会社から受けた収益分配金を、原則として毎計算期間終了日の翌営業日に販売会社に交付します。販売会社は、受益者に対し遅滞なく収益分配金の再投資にかかる受益権の売付を行います。再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

(2)償還金請求権

受益者は、持ち分に応じて償還金を請求する権利を有します。

受益者が信託終了による償還金について支払開始日から10年間支払いを請求しないときは、その権利を失い、委託会社が受託会社から交付を受けた金銭は、委託会社に帰属します。

償還金は、償還日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者(償還日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該償還日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため、販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者としします。)に、原則として償還日(休業日の場合は翌営業日)から起算して5営業日までにお支払いを開始します。

(3)一部解約請求権

受益者は、自己に帰属する受益権について、一部解約の実行の請求をすることができます。

(4)帳簿書類の閲覧・謄写の請求権

受益者は、委託会社に対し、その営業時間内に当該受益者にかかる信託財産に関する帳簿書類の閲覧または謄写を請求することができます。

第3【ファンドの経理状況】

みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー(通貨選択型)円コース

みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー(通貨選択型)米ドルコース

(1) 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」(平成12年総理府令第133号)に基づいて作成しております。

なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

(2) 当ファンドの計算期間は6ヵ月であるため、財務諸表は6ヵ月毎に作成しております。

(3) 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第20期計算期間(2022年11月22日から2023年5月22日まで)の財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による監査を受けております。

みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー(通貨選択型)豪ドルコース

みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー(通貨選択型)メキシコペソコース

みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー(通貨選択型)トルコリラコース

みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー(通貨選択型)ブラジルリアルコース

(1) 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」(平成12年総理府令第133号)に基づいて作成しております。

なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

(2) 当ファンドの計算期間は6ヵ月未満であるため、財務諸表は6ヵ月毎に作成しております。

(3) 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当特定期間(2022年11月22日から2023年5月22日まで)の財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による監査を受けております。

1【財務諸表】

【みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー(通貨選択型)円コース】

(1)【貸借対照表】

(単位:円)

	第19期 2022年11月21日現在	第20期 2023年5月22日現在
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	10,094,102	10,559,527
投資信託受益証券	205,953,509	206,028,681
親投資信託受益証券	9,990	9,986
未収入金	-	3,100,000
流動資産合計	216,057,601	219,698,194
資産合計		
	216,057,601	219,698,194
負債の部		
流動負債		
未払収益分配金	-	3,062,677
未払受託者報酬	35,277	33,837
未払委託者報酬	1,459,936	1,400,488
その他未払費用	3,060	2,921
流動負債合計	1,498,273	4,499,923
負債合計		
	1,498,273	4,499,923
純資産の部		
元本等		
元本	214,423,916	204,178,513
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金()	135,412	11,019,758
(分配準備積立金)	12,231,805	8,584,675
元本等合計	214,559,328	215,198,271
純資産合計		
	214,559,328	215,198,271
負債純資産合計		
	216,057,601	219,698,194

(2) 【損益及び剰余金計算書】

(単位:円)

	第19期 自 2022年5月24日 至 2022年11月21日	第20期 自 2022年11月22日 至 2023年5月22日
営業収益		
受取利息	40	34
有価証券売買等損益	8,017,774	15,375,168
営業収益合計	8,017,814	15,375,202
営業費用		
支払利息	1,905	1,747
受託者報酬	35,277	33,837
委託者報酬	1,459,936	1,400,488
その他費用	3,060	2,921
営業費用合計	1,500,178	1,438,993
営業利益又は営業損失()	6,517,636	13,936,209
経常利益又は経常損失()	6,517,636	13,936,209
当期純利益又は当期純損失()	6,517,636	13,936,209
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額()	167,903	17,282
期首剰余金又は期首欠損金()	6,461,385	135,412
剰余金増加額又は欠損金減少額	247,064	-
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	247,064	-
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	-	-
剰余金減少額又は欠損金増加額	-	6,468
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	-	6,468
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	-	-
分配金	-	3,062,677
期末剰余金又は期末欠損金()	135,412	11,019,758

(3) 【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項目	第20期	
	自 2022年11月22日	至 2023年5月22日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>投資信託受益証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。</p> <p>親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。</p>	
2. その他財務諸表作成のための基礎となる事項	<p>計算期間末日の取扱い 当ファンドは、原則として毎年5月21日及び11月21日を計算期間の末日としておりますが、該当日が休業日のため、当計算期間末日を2023年5月22日としております。</p>	

(貸借対照表に関する注記)

項目	第19期	第20期
	2022年11月21日現在	2023年5月22日現在
1. 期首元本額	222,948,590円	214,423,916円
期中追加設定元本額	- 円	- 円
期中一部解約元本額	8,524,674円	10,245,403円
2. 受益権の総数	214,423,916口	204,178,513口

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

項目	第19期	第20期
	自 2022年5月24日 至 2022年11月21日	自 2022年11月22日 至 2023年5月22日
1. 分配金の計算過程	<p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(0円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(14,482,421円)及び分配準備積立金(12,231,805円)より分配対象収益は26,714,226円(1万口当たり1,245.86円)であります。分配を行っておりません。</p>	<p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(0円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(13,790,430円)及び分配準備積立金(11,647,352円)より分配対象収益は25,437,782円(1万口当たり1,245.85円)であり、うち3,062,677円(1万口当たり150円)を分配金額としております。</p>

(金融商品に関する注記)

1. 金融商品の状況に関する事項

項目	第19期	第20期
	自 2022年5月24日 至 2022年11月21日	自 2022年11月22日 至 2023年5月22日

1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、証券投資信託であり、信託約款に規定する「運用の基本方針」に従い、有価証券等の金融商品に対して投資として運用することを目的としております。	同左
2. 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務であります。当ファンドが保有する有価証券の詳細は「附属明細表」に記載しております。これらは、市場リスク（価格変動リスク、為替変動リスク、金利変動リスク）、信用リスク、及び流動性リスクを有しております。	同左
3. 金融商品に係るリスク管理体制	運用担当部署から独立したコンプライアンス・リスク管理担当部署が、運用リスクを把握、管理し、その結果に基づき運用担当部署へ対応の指示等を行うことにより、適切な管理を行います。運用評価委員会等はこれらの運用リスク管理状況の報告を受け、総合的な見地から運用状況全般の管理を行います。	同左

2. 金融商品の時価等に関する事項

項目	第19期 2022年11月21日現在	第20期 2023年5月22日現在
1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額	貸借対照表上の金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。	同左
2. 時価の算定方法	<p>(1)有価証券 「(重要な会計方針に係る事項に関する注記)」にて記載しております。</p> <p>(2)デリバティブ取引 該当事項はありません。</p> <p>(3)上記以外の金融商品 上記以外の金融商品(コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務)は短期間で決済されるため、帳簿価額は時価と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。</p>	同左

3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	同左
----------------------------	--	----

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

種類	第19期 2022年11月21日現在	第20期 2023年5月22日現在
	当期の 損益に含まれた 評価差額（円）	当期の 損益に含まれた 評価差額（円）
投資信託受益証券	7,743,319	15,013,929
親投資信託受益証券	5	4
合計	7,743,314	15,013,925

（デリバティブ取引等に関する注記）

該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

該当事項はありません。

（1口当たり情報に関する注記）

	第19期 2022年11月21日現在	第20期 2023年5月22日現在
1口当たり純資産額 （1万口当たり純資産額）	1,0006円 (10,006円)	1,0540円 (10,540円)

（4）【附属明細表】

第1 有価証券明細表

（1）株式

該当事項はありません。

（2）株式以外の有価証券

2023年5月22日現在

種類	銘柄	券面総額 （円）	評価額 （円）	備考
投資信託受益証券	D I A Mケイマン・ファンド - ジャパニーズ・エクイティ・ ファンド・カレンシー・セレク ション 円クラス	12,511	206,028,681	
投資信託受益証券 合計		12,511	206,028,681	
親投資信託受益証券	D I A Mマネーマザーファンド	9,925	9,986	
親投資信託受益証券 合計		9,925	9,986	
合計			206,038,667	

（注）投資信託受益証券及び親投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、証券数を表示しております。

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

【みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー(通貨選択型)米ドルコース】

(1) 【貸借対照表】

(単位:円)

	第19期 2022年11月21日現在	第20期 2023年5月22日現在
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	73,014,524	70,378,933
投資信託受益証券	1,329,090,380	1,285,504,422
親投資信託受益証券	9,990	9,986
未収入金	160,000,000	148,000,000
流動資産合計	1,562,114,894	1,503,893,341
資産合計		
	1,562,114,894	1,503,893,341
負債の部		
流動負債		
未払収益分配金	140,146,801	77,265,830
未払解約金	-	67,621,606
未払受託者報酬	251,360	220,736
未払委託者報酬	10,391,276	9,125,197
その他未払費用	22,277	19,557
流動負債合計	150,811,714	154,252,926
負債合計		
	150,811,714	154,252,926
純資産の部		
元本等		
元本	1,274,061,836	1,188,705,081
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金()	137,241,344	160,935,334
(分配準備積立金)	51,271,871	80,643,215
元本等合計	1,411,303,180	1,349,640,415
純資産合計	1,411,303,180	1,349,640,415
負債純資産合計	1,562,114,894	1,503,893,341

(2) 【損益及び剰余金計算書】

(単位:円)

	第19期 自 2022年5月24日 至 2022年11月21日	第20期 自 2022年11月22日 至 2023年5月22日
営業収益		
受取利息	279	228
有価証券売買等損益	203,347,049	121,914,038
営業収益合計	203,347,328	121,914,266
営業費用		
支払利息	14,185	11,758
受託者報酬	251,360	220,736
委託者報酬	10,391,276	9,125,197
その他費用	22,277	19,557
営業費用合計	10,679,098	9,377,248
営業利益又は営業損失()	192,668,230	112,537,018
経常利益又は経常損失()	192,668,230	112,537,018
当期純利益又は当期純損失()	192,668,230	112,537,018
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額()	5,362,252	2,382,700
期首剰余金又は期首欠損金()	93,007,632	137,241,344
剰余金増加額又は欠損金減少額	79,900	230,861
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	-	-
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	79,900	230,861
剰余金減少額又は欠損金増加額	3,005,365	9,425,359
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	3,005,365	9,425,359
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	-	-
分配金	140,146,801	77,265,830
期末剰余金又は期末欠損金()	137,241,344	160,935,334

(3) 【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項目	第20期	
	自 2022年11月22日	至 2023年5月22日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>投資信託受益証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。</p> <p>親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。</p>	
2. その他財務諸表作成のための基礎となる事項	<p>計算期間末日の取扱い 当ファンドは、原則として毎年5月21日及び11月21日を計算期間の末日としておりますが、該当日が休業日のため、当計算期間末日を2023年5月22日としております。</p>	

(貸借対照表に関する注記)

項目	第19期	第20期
	2022年11月21日現在	2023年5月22日現在
1. 期首元本額	1,315,437,917円	1,274,061,836円
期中追加設定元本額	1,130,136円	2,143,558円
期中一部解約元本額	42,506,217円	87,500,313円
2. 受益権の総数	1,274,061,836口	1,188,705,081口

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

項目	第19期	第20期
	自 2022年5月24日 至 2022年11月21日	自 2022年11月22日 至 2023年5月22日
1. 分配金の計算過程	<p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(0円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(152,466,885円)、信託約款に規定される収益調整金(203,035,271円)及び分配準備積立金(38,951,787円)より分配対象収益は394,453,943円(1万口当たり3,096.03円)であり、うち140,146,801円(1万口当たり1,100円)を分配金額としております。</p>	<p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(0円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(110,152,472円)、信託約款に規定される収益調整金(189,513,305円)及び分配準備積立金(47,756,573円)より分配対象収益は347,422,350円(1万口当たり2,922.69円)であり、うち77,265,830円(1万口当たり650円)を分配金額としております。</p>

(金融商品に関する注記)

1. 金融商品の状況に関する事項

項目	第19期	第20期
	自 2022年5月24日 至 2022年11月21日	自 2022年11月22日 至 2023年5月22日

1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、証券投資信託であり、信託約款に規定する「運用の基本方針」に従い、有価証券等の金融商品に対して投資として運用することを目的としております。	同左
2. 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務であります。当ファンドが保有する有価証券の詳細は「附属明細表」に記載しております。これらは、市場リスク（価格変動リスク、為替変動リスク、金利変動リスク）、信用リスク、及び流動性リスクを有しております。	同左
3. 金融商品に係るリスク管理体制	運用担当部署から独立したコンプライアンス・リスク管理担当部署が、運用リスクを把握、管理し、その結果に基づき運用担当部署へ対応の指示等を行うことにより、適切な管理を行います。運用評価委員会等はこれらの運用リスク管理状況の報告を受け、総合的な見地から運用状況全般の管理を行います。	同左

2. 金融商品の時価等に関する事項

項目	第19期 2022年11月21日現在	第20期 2023年5月22日現在
1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額	貸借対照表上の金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。	同左
2. 時価の算定方法	<p>(1)有価証券 「(重要な会計方針に係る事項に関する注記)」にて記載しております。</p> <p>(2)デリバティブ取引 該当事項はありません。</p> <p>(3)上記以外の金融商品 上記以外の金融商品(コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務)は短期間で決済されるため、帳簿価額は時価と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。</p>	同左

3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	同左
----------------------------	--	----

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

種類	第19期 2022年11月21日現在	第20期 2023年5月22日現在
	当期の 損益に含まれた 評価差額（円）	当期の 損益に含まれた 評価差額（円）
投資信託受益証券	174,604,068	110,241,538
親投資信託受益証券	5	4
合計	174,604,063	110,241,534

（デリバティブ取引等に関する注記）

該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

該当事項はありません。

（1口当たり情報に関する注記）

	第19期 2022年11月21日現在	第20期 2023年5月22日現在
1口当たり純資産額 （1万口当たり純資産額）	1,1077円 (11,077円)	1,1354円 (11,354円)

（4）【附属明細表】

第1 有価証券明細表

（1）株式

該当事項はありません。

（2）株式以外の有価証券

2023年5月22日現在

種類	銘柄	券面総額 （円）	評価額 （円）	備考
投資信託受益証券	D I A Mケイマン・ファンド - ジャパニーズ・エクイティ・ ファンド・カレンシー・セレク ション 米ドルクラス	57,635	1,285,504,422	
投資信託受益証券 合計		57,635	1,285,504,422	
親投資信託受益証券	D I A Mマネーマザーファンド	9,925	9,986	
親投資信託受益証券 合計		9,925	9,986	
合計			1,285,514,408	

（注）投資信託受益証券及び親投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、証券数を表示しております。

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

【みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー(通貨選択型)豪ドルコース】

(1) 【貸借対照表】

(単位:円)

	前期 2022年11月21日現在	当期 2023年5月22日現在
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	2,844,774	2,759,894
投資信託受益証券	64,606,296	61,381,525
親投資信託受益証券	9,990	9,986
未収入金	90,000	200,000
未収配当金	134,458	-
流動資産合計	67,685,518	64,351,405
資産合計	67,685,518	64,351,405
負債の部		
流動負債		
未払収益分配金	101,628	92,422
未払解約金	89,862	-
未払受託者報酬	1,951	1,685
未払委託者報酬	80,930	70,067
その他未払費用	160	129
流動負債合計	274,531	164,303
負債合計	274,531	164,303
純資産の部		
元本等		
元本	50,814,307	46,211,104
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金()	16,596,680	17,975,998
(分配準備積立金)	14,114,258	14,770,139
元本等合計	67,410,987	64,187,102
純資産合計	67,410,987	64,187,102
負債純資産合計	67,685,518	64,351,405

(2) 【損益及び剰余金計算書】

(単位:円)

	前期 自 2022年5月24日 至 2022年11月21日	当期 自 2022年11月22日 至 2023年5月22日
営業収益		
受取配当金	1,077,584	733,296
受取利息	15	9
有価証券売買等損益	5,866,582	3,075,225
営業収益合計	6,944,181	3,808,530
営業費用		
支払利息	815	449
受託者報酬	14,391	9,739
委託者報酬	596,635	404,712
その他費用	1,191	747
営業費用合計	613,032	415,647
営業利益又は営業損失()	6,331,149	3,392,883
経常利益又は経常損失()	6,331,149	3,392,883
当期純利益又は当期純損失()	6,331,149	3,392,883
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額()	355,246	12,930
期首剰余金又は期首欠損金()	22,531,207	16,596,680
剰余金増加額又は欠損金減少額	3,343	2,977
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	-	-
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	3,343	2,977
剰余金減少額又は欠損金増加額	11,145,367	1,445,540
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	11,145,367	1,445,540
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	-	-
分配金	768,406	558,072
期末剰余金又は期末欠損金()	16,596,680	17,975,998

(3) 【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項目	当期
	自 2022年11月22日 至 2023年5月22日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>投資信託受益証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。</p> <p>親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。</p>
2. 収益及び費用の計上基準	<p>受取配当金 原則として、配当落ち日において、確定配当金額又は予想配当金額を計上しております。</p>
3. その他財務諸表作成のための基礎となる事項	<p>特定期間末日の取扱い 当ファンドは、原則として毎年5月21日及び11月21日を特定期間の末日としておりますが、該当日が休業日のため、当特定期間末日を2023年5月22日としております。</p>

(貸借対照表に関する注記)

項目	前期	当期
	2022年11月21日現在	2023年5月22日現在
1. 期首元本額	92,370,158円	50,814,307円
期中追加設定元本額	11,341円	11,818円
期中一部解約元本額	41,567,192円	4,615,021円
2. 受益権の総数	50,814,307口	46,211,104口

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

項目	前期	当期
	自 2022年5月24日 至 2022年11月21日	自 2022年11月22日 至 2023年5月22日
1. 分配金の計算過程	<p>(自2022年5月24日 至2022年6月21日)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(177,083円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(25,427,180円)及び分配準備積立金(19,008,909円)より分配対象収益は44,613,172円(1万口当たり6,495.86円)であり、うち137,358円(1万口当たり20円)を分配金額としております。</p>	<p>(自2022年11月22日 至2022年12月21日)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(49,454円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(17,273,969円)及び分配準備積立金(12,957,453円)より分配対象収益は30,280,876円(1万口当たり6,490.91円)であり、うち93,302円(1万口当たり20円)を分配金額としております。</p>

(自2022年6月22日 至2022年7月21日)

計算期間末における費用控除後の配当等収益(177,607円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(25,428,441円)及び分配準備積立金(19,048,634円)より分配対象収益は44,654,682円(1万口当たり6,501.72円)であり、うち137,362円(1万口当たり20円)を分配金額としております。

(自2022年7月22日 至2022年8月22日)

計算期間末における費用控除後の配当等収益(168,270円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(25,426,534円)及び分配準備積立金(19,086,544円)より分配対象収益は44,681,348円(1万口当たり6,506.22円)であり、うち137,349円(1万口当たり20円)を分配金額としております。

(自2022年8月23日 至2022年9月21日)

計算期間末における費用控除後の配当等収益(108,470円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(23,576,405円)及び分配準備積立金(17,725,579円)より分配対象収益は41,410,454円(1万口当たり6,503.24円)であり、うち127,353円(1万口当たり20円)を分配金額としております。

(自2022年9月22日 至2022年10月21日)

計算期間末における費用控除後の配当等収益(74,143円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(23,577,494円)及び分配準備積立金(17,706,622円)より分配対象収益は41,358,259円(1万口当たり6,494.89円)であり、うち127,356円(1万口当たり20円)を分配金額としております。

(自2022年12月22日 至2023年1月23日)

計算期間末における費用控除後の配当等収益(118,462円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(17,275,299円)及び分配準備積立金(12,913,605円)より分配対象収益は30,307,366円(1万口当たり6,496.31円)であり、うち93,306円(1万口当たり20円)を分配金額としております。

(自2023年1月24日 至2023年2月21日)

計算期間末における費用控除後の配当等収益(119,206円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(17,276,590円)及び分配準備積立金(12,938,761円)より分配対象収益は30,334,557円(1万口当たり6,501.86円)であり、うち93,310円(1万口当たり20円)を分配金額としております。

(自2023年2月22日 至2023年3月22日)

計算期間末における費用控除後の配当等収益(56,598円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(17,277,839円)及び分配準備積立金(12,964,657円)より分配対象収益は30,299,094円(1万口当たり6,493.99円)であり、うち93,314円(1万口当たり20円)を分配金額としております。

(自2023年3月23日 至2023年4月21日)

計算期間末における費用控除後の配当等収益(119,561円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(17,112,538円)及び分配準備積立金(12,803,260円)より分配対象収益は30,035,359円(1万口当たり6,499.86円)であり、うち92,418円(1万口当たり20円)を分配金額としております。

	(自2022年10月22日 至2022年11月21日) 計算期間末における費用控除後の配当等収益(129,129円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(18,814,939円)及び分配準備積立金(14,086,757円)より分配対象収益は33,030,825円(1万口当たり6,500.30円)であり、うち101,628円(1万口当たり20円)を分配金額としております。	(自2023年4月22日 至2023年5月22日) 計算期間末における費用控除後の配当等収益(119,137円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(1,913,021円)、信託約款に規定される収益調整金(17,113,775円)及び分配準備積立金(12,830,403円)より分配対象収益は31,976,336円(1万口当たり6,919.62円)であり、うち92,422円(1万口当たり20円)を分配金額としております。
--	---	--

(金融商品に関する注記)

1. 金融商品の状況に関する事項

項目	前期	当期
	自 2022年5月24日 至 2022年11月21日	自 2022年11月22日 至 2023年5月22日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、証券投資信託であり、信託約款に規定する「運用の基本方針」に従い、有価証券等の金融商品に対して投資として運用することを目的としております。	同左
2. 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務であります。当ファンドが保有する有価証券の詳細は「附属明細表」に記載しております。これらは、市場リスク(価格変動リスク、為替変動リスク、金利変動リスク)、信用リスク、及び流動性リスクを有しております。	同左
3. 金融商品に係るリスク管理体制	運用担当部署から独立したコンプライアンス・リスク管理担当部署が、運用リスクを把握、管理し、その結果に基づき運用担当部署へ対応の指示等を行うことにより、適切な管理を行います。運用評価委員会等はこれらの運用リスク管理状況の報告を受け、総合的な見地から運用状況全般の管理を行います。	同左

2. 金融商品の時価等に関する事項

項目	前期	当期
	2022年11月21日現在	2023年5月22日現在

1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額	貸借対照表上の金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。	同左
2. 時価の算定方法	(1)有価証券 「（重要な会計方針に係る事項に関する注記）」にて記載しております。 (2)デリバティブ取引 該当事項はありません。 (3)上記以外の金融商品 上記以外の金融商品（コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務）は短期間で決済されるため、帳簿価額は時価と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。	同左
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等による場合、当該価額が異なることもあります。	同左

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

種類	前期 2022年11月21日現在	当期 2023年5月22日現在
	最終計算期間の 損益に含まれた 評価差額（円）	最終計算期間の 損益に含まれた 評価差額（円）
投資信託受益証券	1,942,439	4,392,158
親投資信託受益証券	1	1
合計	1,942,438	4,392,157

（デリバティブ取引等に関する注記）

該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

該当事項はありません。

（1口当たり情報に関する注記）

	前期 2022年11月21日現在	当期 2023年5月22日現在
1口当たり純資産額	1,326円	1,389円
（1万口当たり純資産額）	（13,266円）	（13,890円）

（4）【附属明細表】

第1 有価証券明細表

（1）株式

該当事項はありません。

(2) 株式以外の有価証券

2023年5月22日現在

種類	銘柄	券面総額 (円)	評価額 (円)	備考
投資信託受益証券	D I A Mケイマン・ファンド - ジャパニーズ・エクイティ・ ファンド・カレンシー・セレク ション 豪ドルクラス	4,025	61,381,525	
投資信託受益証券 合計		4,025	61,381,525	
親投資信託受益証券	D I A Mマネーマザーファンド	9,925	9,986	
親投資信託受益証券 合計		9,925	9,986	
合計			61,391,511	

(注) 投資信託受益証券及び親投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、証券数を表示しております。

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

【みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー(通貨選択型)メキシコペソコース】

(1) 【貸借対照表】

(単位:円)

	前期 2022年11月21日現在	当期 2023年5月22日現在
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	2,002,158	2,088,130
投資信託受益証券	45,320,605	44,494,288
親投資信託受益証券	9,990	9,986
未収入金	-	100,000
未収配当金	197,590	-
流動資産合計	47,530,343	46,692,404
資産合計	47,530,343	46,692,404
負債の部		
流動負債		
未払収益分配金	179,437	148,919
未払受託者報酬	1,338	1,273
未払委託者報酬	55,487	52,782
その他未払費用	93	93
流動負債合計	236,355	203,067
負債合計	236,355	203,067
純資産の部		
元本等		
元本	35,887,493	29,783,849
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金()	11,406,495	16,705,488
(分配準備積立金)	13,092,345	18,102,704
元本等合計	47,293,988	46,489,337
純資産合計	47,293,988	46,489,337
負債純資産合計	47,530,343	46,692,404

(2) 【損益及び剰余金計算書】

(単位:円)

	前期 自 2022年5月24日 至 2022年11月21日	当期 自 2022年11月22日 至 2023年5月22日
営業収益		
受取配当金	1,268,033	1,122,121
受取利息	8	6
有価証券売買等損益	7,301,861	7,823,679
営業収益合計	8,569,902	8,945,806
営業費用		
支払利息	384	301
受託者報酬	7,637	7,356
委託者報酬	317,383	305,915
その他費用	569	546
営業費用合計	325,973	314,118
営業利益又は営業損失()	8,243,929	8,631,688
経常利益又は経常損失()	8,243,929	8,631,688
当期純利益又は当期純損失()	8,243,929	8,631,688
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額()	405,529	588,971
期首剰余金又は期首欠損金()	6,092,246	11,406,495
剰余金増加額又は欠損金減少額	5,129	1,876
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	-	-
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	5,129	1,876
剰余金減少額又は欠損金増加額	1,432,734	1,741,619
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	1,432,734	1,741,619
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	-	-
分配金	1,096,546	1,003,981
期末剰余金又は期末欠損金()	11,406,495	16,705,488

(3) 【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項目	当期
	自 2022年11月22日 至 2023年5月22日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>投資信託受益証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。</p> <p>親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。</p>
2. 収益及び費用の計上基準	<p>受取配当金 原則として、配当落ち日において、確定配当金額又は予想配当金額を計上しております。</p>
3. その他財務諸表作成のための基礎となる事項	<p>特定期間末日の取扱い 当ファンドは、原則として毎年5月21日及び11月21日を特定期間の末日としておりますが、該当日が休業日のため、当特定期間末日を2023年5月22日としております。</p>

(貸借対照表に関する注記)

項目	前期	当期
	2022年11月21日現在	2023年5月22日現在
1. 期首元本額	45,592,348円	35,887,493円
期中追加設定元本額	34,146円	6,835円
期中一部解約元本額	9,739,001円	6,110,479円
2. 受益権の総数	35,887,493口	29,783,849口

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

項目	前期	当期
	自 2022年5月24日 至 2022年11月21日	自 2022年11月22日 至 2023年5月22日
1. 分配金の計算過程	<p>(自2022年5月24日 至2022年6月21日)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(196,013円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(11,719,273円)及び分配準備積立金(7,606,411円)より分配対象収益は19,521,697円(1万口当たり5,153.21円)であり、うち189,412円(1万口当たり50円)を分配金額としております。</p>	<p>(自2022年11月22日 至2022年12月21日)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(143,945円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(11,104,409円)及び分配準備積立金(13,092,345円)より分配対象収益は24,340,699円(1万口当たり6,782.29円)であり、うち179,442円(1万口当たり50円)を分配金額としております。</p>

(自2022年6月22日 至2022年7月21日)

計算期間末における費用控除後の配当等収益(206,322円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(1,700,303円)、信託約款に規定される収益調整金

(11,719,913円)及び分配準備積立金(7,613,012円)より分配対象収益は21,239,550円(1万口当たり5,606.49円)であり、うち189,419円(1万口当たり50円)を分配金額としております。

(自2022年7月22日 至2022年8月22日)

計算期間末における費用控除後の配当等収益(194,713円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(1,369,092円)、信託約款に規定される収益調整金

(11,101,538円)及び分配準備積立金(8,837,433円)より分配対象収益は21,502,776円(1万口当たり5,992.27円)であり、うち179,420円(1万口当たり50円)を分配金額としております。

(自2022年8月23日 至2022年9月21日)

計算期間末における費用控除後の配当等収益(193,622円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(1,930,154円)、信託約款に規定される収益調整金

(11,102,224円)及び分配準備積立金(10,221,818円)より分配対象収益は23,447,818円(1万口当たり6,534.10円)であり、うち179,426円(1万口当たり50円)を分配金額としております。

(自2022年12月22日 至2023年1月23日)

計算期間末における費用控除後の配当等収益(191,886円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(11,071,052円)

及び分配準備積立金(13,016,657円)より分配対象収益は24,279,595円(1万口当たり6,785.92円)であり、うち178,896円(1万口当たり50円)を分配金額としております。

(自2023年1月24日 至2023年2月21日)

計算期間末における費用控除後の配当等収益(183,257円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(65,783円)、信託約款に規定される収益調整金

(10,452,970円)及び分配準備積立金(12,301,335円)より分配対象収益は23,003,345円(1万口当たり6,809.64円)であり、うち168,902円(1万口当たり50円)を分配金額としております。

(自2023年2月22日 至2023年3月22日)

計算期間末における費用控除後の配当等収益(133,489円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(10,453,715円)

及び分配準備積立金(12,381,473円)より分配対象収益は22,968,677円(1万口当たり6,799.16円)であり、うち168,908円(1万口当たり50円)を分配金額としております。

	<p>(自2022年9月22日 至2022年10月21日)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(188,272円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(838,132円)、信託約款に規定される収益調整金(11,102,941円)及び分配準備積立金(12,166,168円)より分配対象収益は24,295,513円(1万口当たり6,770.11円)であり、うち179,432円(1万口当たり50円)を分配金額としております。</p> <p>(自2022年10月22日 至2022年11月21日)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(161,868円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(96,774円)、信託約款に規定される収益調整金(11,103,673円)及び分配準備積立金(13,013,140円)より分配対象収益は24,375,455円(1万口当たり6,792.18円)であり、うち179,437円(1万口当たり50円)を分配金額としております。</p>	<p>(自2023年3月23日 至2023年4月21日)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(173,715円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(2,607,427円)、信託約款に規定される収益調整金(9,835,586円)及び分配準備積立金(11,615,142円)より分配対象収益は24,231,870円(1万口当たり7,624.20円)であり、うち158,914円(1万口当たり50円)を分配金額としております。</p> <p>(自2023年4月22日 至2023年5月22日)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(163,471円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(4,746,641円)、信託約款に規定される収益調整金(9,217,441円)及び分配準備積立金(13,341,511円)より分配対象収益は27,469,064円(1万口当たり9,222.80円)であり、うち148,919円(1万口当たり50円)を分配金額としております。</p>
--	---	---

(金融商品に関する注記)

1. 金融商品の状況に関する事項

項目	前期 自 2022年5月24日 至 2022年11月21日	当期 自 2022年11月22日 至 2023年5月22日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、証券投資信託であり、信託約款に規定する「運用の基本方針」に従い、有価証券等の金融商品に対して投資として運用することを目的としております。	同左
2. 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務であります。当ファンドが保有する有価証券の詳細は「附属明細表」に記載しております。これらは、市場リスク(価格変動リスク、為替変動リスク、金利変動リスク)、信用リスク、及び流動性リスクを有しております。	同左

3. 金融商品に係るリスク管理体制	運用担当部署から独立したコンプライアンス・リスク管理担当部署が、運用リスクを把握、管理し、その結果に基づき運用担当部署へ対応の指示等を行うことにより、適切な管理を行います。運用評価委員会等はこれらの運用リスク管理状況の報告を受け、総合的な見地から運用状況全般の管理を行います。	同左
-------------------	--	----

2. 金融商品の時価等に関する事項

項目	前期 2022年11月21日現在	当期 2023年5月22日現在
1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額	貸借対照表上の金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。	同左
2. 時価の算定方法	(1)有価証券 「(重要な会計方針に係る事項に関する注記)」にて記載しております。 (2)デリバティブ取引 該当事項はありません。 (3)上記以外の金融商品 上記以外の金融商品(コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務)は短期間で決済されるため、帳簿価額は時価と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。	同左
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	同左

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

種類	前期 2022年11月21日現在	当期 2023年5月22日現在
	最終計算期間の 損益に含まれた 評価差額(円)	最終計算期間の 損益に含まれた 評価差額(円)
投資信託受益証券	115,261	4,738,604
親投資信託受益証券	1	1
合計	115,260	4,738,603

(デリバティブ取引等に関する注記)

該当事項はありません。

(関連当事者との取引に関する注記)

該当事項はありません。

(1口当たり情報に関する注記)

	前期 2022年11月21日現在	当期 2023年5月22日現在
1口当たり純資産額 (1万口当たり純資産額)	1.3178円 (13,178円)	1.5609円 (15,609円)

(4) 【附属明細表】

第1 有価証券明細表

(1) 株式

該当事項はありません。

(2) 株式以外の有価証券

2023年5月22日現在

種類	銘柄	券面総額 (円)	評価額 (円)	備考
投資信託受益証券	D I A Mケイマン・ファンド - ジャパニーズ・エクイティ・ ファンド・カレンシー・セレク ション メキシコベソクラス	2,700	44,494,288	
投資信託受益証券 合計		2,700	44,494,288	
親投資信託受益証券	D I A Mマネーマザーファンド	9,925	9,986	
親投資信託受益証券 合計		9,925	9,986	
合計			44,504,274	

(注) 投資信託受益証券及び親投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、証券数を表示しております。

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

【みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー(通貨選択型)トルコリラコース】

(1) 【貸借対照表】

(単位:円)

	前期 2022年11月21日現在	当期 2023年5月22日現在
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	12,974,373	16,972,855
投資信託受益証券	281,790,247	279,221,120
親投資信託受益証券	9,990	9,986
未収入金	-	1,300,000
未収配当金	4,987,438	-
流動資産合計	299,762,048	297,503,961
資産合計	299,762,048	297,503,961
負債の部		
流動負債		
未払収益分配金	3,748,627	3,610,995
未払受託者報酬	8,556	7,772
未払委託者報酬	353,948	321,357
その他未払費用	745	677
流動負債合計	4,111,876	3,940,801
負債合計	4,111,876	3,940,801
純資産の部		
元本等		
元本	1,249,542,381	1,203,665,225
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金()	953,892,209	910,102,065
(分配準備積立金)	33,580,747	38,437,751
元本等合計	295,650,172	293,563,160
純資産合計	295,650,172	293,563,160
負債純資産合計	299,762,048	297,503,961

(2) 【損益及び剰余金計算書】

(単位:円)

	前期 自 2022年5月24日 至 2022年11月21日	当期 自 2022年11月22日 至 2023年5月22日
営業収益		
受取配当金	29,804,878	29,628,921
受取利息	51	49
有価証券売買等損益	13,449,187	2,030,869
営業収益合計	43,254,116	31,659,839
営業費用		
支払利息	2,738	2,476
受託者報酬	47,503	45,027
委託者報酬	1,965,450	1,862,774
その他費用	4,139	3,925
営業費用合計	2,019,830	1,914,202
営業利益又は営業損失()	41,234,286	29,745,637
経常利益又は経常損失()	41,234,286	29,745,637
当期純利益又は当期純損失()	41,234,286	29,745,637
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額()	205,381	13,330
期首剰余金又は期首欠損金()	979,245,436	953,892,209
剰余金増加額又は欠損金減少額	13,926,716	43,968,690
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	13,926,716	43,968,690
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	-	-
剰余金減少額又は欠損金増加額	7,125,274	8,090,309
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	-	-
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	7,125,274	8,090,309
分配金	22,477,120	21,847,204
期末剰余金又は期末欠損金()	953,892,209	910,102,065

(3) 【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項目	当期	
	自 2022年11月22日	至 2023年5月22日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>投資信託受益証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。</p> <p>親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。</p>	
2. 収益及び費用の計上基準	<p>受取配当金 原則として、配当落ち日において、確定配当金額又は予想配当金額を計上しております。</p>	
3. その他財務諸表作成のための基礎となる事項	<p>特定期間末日の取扱い 当ファンドは、原則として毎年5月21日及び11月21日を特定期間の末日としておりますが、該当日が休業日のため、当特定期間末日を2023年5月22日としております。</p>	

(貸借対照表に関する注記)

項目	前期	当期
	2022年11月21日現在	2023年5月22日現在
1. 期首元本額	1,258,034,394円	1,249,542,381円
期中追加設定元本額	9,231,904円	10,368,644円
期中一部解約元本額	17,723,917円	56,245,800円
2. 受益権の総数	1,249,542,381口	1,203,665,225口
3. 元本の欠損	純資産額が元本総額を下回っており、その差額は953,892,209円であります。	純資産額が元本総額を下回っており、その差額は910,102,065円であります。

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

項目	前期	当期
	自 2022年5月24日 至 2022年11月21日	自 2022年11月22日 至 2023年5月22日
1. 分配金の計算過程	<p>(自2022年5月24日 至2022年6月21日)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(4,646,877円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(339,384,760円)及び分配準備積立金(27,916,777円)より分配対象収益は371,948,414円(1万口当たり2,956.85円)であり、うち3,773,753円(1万口当たり30円)を分配金額としております。</p>	<p>(自2022年11月22日 至2022年12月21日)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(4,663,669円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(337,328,442円)及び分配準備積立金(33,536,442円)より分配対象収益は375,528,553円(1万口当たり3,005.56円)であり、うち3,748,329円(1万口当たり30円)を分配金額としております。</p>

(自2022年6月22日 至2022年7月21日)

計算期間末における費用控除後の配当等収益(4,847,774円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(335,686,146円)及び分配準備積立金(28,436,451円)より分配対象収益は368,970,371円(1万口当たり2,965.82円)であり、うち3,732,221円(1万口当たり30円)を分配金額としております。

(自2022年7月22日 至2022年8月22日)

計算期間末における費用控除後の配当等収益(4,714,944円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(336,139,958円)及び分配準備積立金(29,552,004円)より分配対象収益は370,406,906円(1万口当たり2,973.67円)であり、うち3,736,859円(1万口当たり30円)を分配金額としております。

(自2022年8月23日 至2022年9月21日)

計算期間末における費用控除後の配当等収益(4,852,133円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(336,594,886円)及び分配準備積立金(30,530,089円)より分配対象収益は371,977,108円(1万口当たり2,982.58円)であり、うち3,741,496円(1万口当たり30円)を分配金額としております。

(自2022年9月22日 至2022年10月21日)

計算期間末における費用控除後の配当等収益(4,824,983円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(336,873,025円)及び分配準備積立金(31,625,196円)より分配対象収益は373,323,204円(1万口当たり2,991.24円)であり、うち3,744,164円(1万口当たり30円)を分配金額としております。

(自2022年12月22日 至2023年1月23日)

計算期間末における費用控除後の配当等収益(4,555,394円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(328,111,526円)及び分配準備積立金(33,459,759円)より分配対象収益は366,126,679円(1万口当たり3,013.03円)であり、うち3,645,424円(1万口当たり30円)を分配金額としております。

(自2023年1月24日 至2023年2月21日)

計算期間末における費用控除後の配当等収益(4,823,384円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(327,368,079円)及び分配準備積立金(34,237,015円)より分配対象収益は366,428,478円(1万口当たり3,022.82円)であり、うち3,636,613円(1万口当たり30円)を分配金額としております。

(自2023年2月22日 至2023年3月22日)

計算期間末における費用控除後の配当等収益(4,552,492円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(324,134,279円)及び分配準備積立金(35,018,879円)より分配対象収益は363,705,650円(1万口当たり3,030.76円)であり、うち3,600,136円(1万口当たり30円)を分配金額としております。

(自2023年3月23日 至2023年4月21日)

計算期間末における費用控除後の配当等収益(4,815,935円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(324,691,430円)及び分配準備積立金(35,971,235円)より分配対象収益は365,478,600円(1万口当たり3,040.83円)であり、うち3,605,707円(1万口当たり30円)を分配金額としております。

	(自2022年10月22日 至2022年11月21日) 計算期間末における費用控除後の配当等収益(4,623,359円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(337,313,541円)及び分配準備積立金(32,706,015円)より分配対象収益は374,642,915円(1万口当たり2,998.24円)であり、うち3,748,627円(1万口当たり30円)を分配金額としております。	(自2023年4月22日 至2023年5月22日) 計算期間末における費用控除後の配当等収益(4,867,283円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(325,222,108円)及び分配準備積立金(37,181,463円)より分配対象収益は367,270,854円(1万口当たり3,051.27円)であり、うち3,610,995円(1万口当たり30円)を分配金額としております。
--	---	---

(金融商品に関する注記)

1. 金融商品の状況に関する事項

項目	前期 自 2022年5月24日 至 2022年11月21日	当期 自 2022年11月22日 至 2023年5月22日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、証券投資信託であり、信託約款に規定する「運用の基本方針」に従い、有価証券等の金融商品に対して投資として運用することを目的としております。	同左
2. 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務であります。当ファンドが保有する有価証券の詳細は「附属明細表」に記載しております。これらは、市場リスク(価格変動リスク、為替変動リスク、金利変動リスク)、信用リスク、及び流動性リスクを有しております。	同左
3. 金融商品に係るリスク管理体制	運用担当部署から独立したコンプライアンス・リスク管理担当部署が、運用リスクを把握、管理し、その結果に基づき運用担当部署へ対応の指示等を行うことにより、適切な管理を行います。運用評価委員会等はこれらの運用リスク管理状況の報告を受け、総合的な見地から運用状況全般の管理を行います。	同左

2. 金融商品の時価等に関する事項

項目	前期 2022年11月21日現在	当期 2023年5月22日現在
----	---------------------	--------------------

1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額	貸借対照表上の金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。	同左
2. 時価の算定方法	(1)有価証券 「(重要な会計方針に係る事項に関する注記)」にて記載しております。 (2)デリバティブ取引 該当事項はありません。 (3)上記以外の金融商品 上記以外の金融商品(コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務)は短期間で決済されるため、帳簿価額は時価と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。	同左
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等による場合、当該価額が異なることもあります。	同左

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

種類	前期 2022年11月21日現在	当期 2023年5月22日現在
	最終計算期間の 損益に含まれた 評価差額(円)	最終計算期間の 損益に含まれた 評価差額(円)
投資信託受益証券	9,845,028	24,128,508
親投資信託受益証券	1	1
合計	9,845,029	24,128,507

(デリバティブ取引等に関する注記)

該当事項はありません。

(関連当事者との取引に関する注記)

該当事項はありません。

(1口当たり情報に関する注記)

	前期 2022年11月21日現在	当期 2023年5月22日現在
1口当たり純資産額	0.2366円	0.2439円
(1万口当たり純資産額)	(2,366円)	(2,439円)

(4)【附属明細表】

第1 有価証券明細表

(1)株式

該当事項はありません。

(2) 株式以外の有価証券

2023年5月22日現在

種類	銘柄	券面総額 (円)	評価額 (円)	備考
投資信託受益証券	D I A Mケイマン・ファンド - ジャパニーズ・エクイティ・ ファンド・カレンシー・セレク ション トルコリラクラス	122,519	279,221,120	
投資信託受益証券 合計		122,519	279,221,120	
親投資信託受益証券	D I A Mマネーマザーファンド	9,925	9,986	
親投資信託受益証券 合計		9,925	9,986	
合計			279,231,106	

(注) 投資信託受益証券及び親投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、証券数を表示しております。

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

【みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー(通貨選択型)ブラジルリアルコース】

(1) 【貸借対照表】

(単位:円)

	前期 2022年11月21日現在	当期 2023年5月22日現在
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	50,437,221	63,479,709
投資信託受益証券	1,100,933,358	1,224,043,234
親投資信託受益証券	9,990	9,986
未収配当金	8,077,939	-
流動資産合計	1,159,458,508	1,287,532,929
資産合計	1,159,458,508	1,287,532,929
負債の部		
流動負債		
未払収益分配金	6,984,815	6,674,648
未払解約金	1,464,899	1,188,550
未払受託者報酬	34,230	33,725
未払委託者報酬	1,414,953	1,394,450
その他未払費用	3,031	2,987
流動負債合計	9,901,928	9,294,360
負債合計	9,901,928	9,294,360
純資産の部		
元本等		
元本	1,995,661,685	1,907,042,357
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金()	846,105,105	628,803,788
(分配準備積立金)	153,495,441	149,547,387
元本等合計	1,149,556,580	1,278,238,569
純資産合計	1,149,556,580	1,278,238,569
負債純資産合計	1,159,458,508	1,287,532,929

(2) 【損益及び剰余金計算書】

(単位:円)

	前期 自 2022年5月24日 至 2022年11月21日	当期 自 2022年11月22日 至 2023年5月22日
営業収益		
受取配当金	51,240,994	47,271,548
受取利息	233	194
有価証券売買等損益	46,328,543	182,609,872
営業収益合計	97,569,770	229,881,614
営業費用		
支払利息	11,408	9,793
受託者報酬	202,211	186,843
委託者報酬	8,359,638	7,724,425
その他費用	17,922	16,543
営業費用合計	8,591,179	7,937,604
営業利益又は営業損失()	88,978,591	221,944,010
経常利益又は経常損失()	88,978,591	221,944,010
当期純利益又は当期純損失()	88,978,591	221,944,010
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額()	1,499,136	2,226,560
期首剰余金又は期首欠損金()	1,023,182,261	846,105,105
剰余金増加額又は欠損金減少額	133,817,184	38,967,396
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	133,817,184	38,967,396
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	-	-
剰余金減少額又は欠損金増加額	379,678	397,548
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	-	-
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	379,678	397,548
分配金	43,839,805	40,985,981
期末剰余金又は期末欠損金()	846,105,105	628,803,788

(3)【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項目	当期	
	自 2022年11月22日	至 2023年5月22日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>投資信託受益証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。</p> <p>親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。</p>	
2. 収益及び費用の計上基準	<p>受取配当金 原則として、配当落ち日において、確定配当金額又は予想配当金額を計上しております。</p>	
3. その他財務諸表作成のための基礎となる事項	<p>特定期間末日の取扱い 当ファンドは、原則として毎年5月21日及び11月21日を特定期間の末日としておりますが、該当日が休業日のため、当特定期間末日を2023年5月22日としております。</p>	

(貸借対照表に関する注記)

項目	前期	当期
	2022年11月21日現在	2023年5月22日現在
1. 期首元本額	2,303,681,120円	1,995,661,685円
期中追加設定元本額	893,936円	902,953円
期中一部解約元本額	308,913,371円	89,522,281円
2. 受益権の総数	1,995,661,685口	1,907,042,357口
3. 元本の欠損	純資産額が元本総額を下回っており、その差額は846,105,105円であります。	純資産額が元本総額を下回っており、その差額は628,803,788円であります。

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

項目	前期	当期
	自 2022年5月24日 至 2022年11月21日	自 2022年11月22日 至 2023年5月22日

<p>1. 分配金の計算過程</p>	<p>(自2022年5月24日 至2022年6月21日)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(7,604,310円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(851,780,709円)及び分配準備積立金(170,010,810円)より分配対象収益は1,029,395,829円(1万口当たり4,608.66円)であり、うち7,817,639円(1万口当たり35円)を分配金額としております。</p> <p>(自2022年6月22日 至2022年7月21日)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(7,755,832円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(831,508,804円)及び分配準備積立金(165,741,694円)より分配対象収益は1,005,006,330円(1万口当たり4,609.22円)であり、うち7,631,481円(1万口当たり35円)を分配金額としております。</p> <p>(自2022年7月22日 至2022年8月22日)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(8,369,873円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(799,759,462円)及び分配準備積立金(159,520,528円)より分配対象収益は967,649,863円(1万口当たり4,614.14円)であり、うち7,339,987円(1万口当たり35円)を分配金額としております。</p>	<p>(自2022年11月22日 至2022年12月21日)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(6,641,851円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(751,500,481円)及び分配準備積立金(151,549,500円)より分配対象収益は909,691,832円(1万口当たり4,616.56円)であり、うち6,896,726円(1万口当たり35円)を分配金額としております。</p> <p>(自2022年12月22日 至2023年1月23日)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(7,629,858円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(751,575,872円)及び分配準備積立金(151,293,858円)より分配対象収益は910,499,588円(1万口当たり4,620.28円)であり、うち6,897,296円(1万口当たり35円)を分配金額としております。</p> <p>(自2023年1月24日 至2023年2月21日)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(7,804,239円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(751,036,899円)及び分配準備積立金(151,902,994円)より分配対象収益は910,744,132円(1万口当たり4,624.91円)であり、うち6,892,240円(1万口当たり35円)を分配金額としております。</p>
--------------------	---	--

<p>(自2022年8月23日 至2022年9月21日)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(7,917,316円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(768,457,449円)及び分配準備積立金(154,254,935円)より分配対象収益は930,629,700円(1万口当たり4,618.42円)であり、うち7,052,624円(1万口当たり35円)を分配金額としております。</p>	<p>(自2023年2月22日 至2023年3月22日)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(6,637,988円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(749,709,981円)及び分配準備積立金(152,532,204円)より分配対象収益は908,880,173円(1万口当たり4,623.68円)であり、うち6,879,965円(1万口当たり35円)を分配金額としております。</p>
<p>(自2022年9月22日 至2022年10月21日)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(7,272,097円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(764,177,803円)及び分配準備積立金(154,243,940円)より分配対象収益は925,693,840円(1万口当たり4,619.71円)であり、うち7,013,259円(1万口当たり35円)を分配金額としております。</p>	<p>(自2023年3月23日 至2023年4月21日)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(7,670,199円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(735,027,719円)及び分配準備積立金(149,291,927円)より分配対象収益は891,989,845円(1万口当たり4,628.48円)であり、うち6,745,106円(1万口当たり35円)を分配金額としております。</p>
<p>(自2022年10月22日 至2022年11月21日)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(6,613,963円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(761,088,340円)及び分配準備積立金(153,866,293円)より分配対象収益は921,568,596円(1万口当たり4,617.85円)であり、うち6,984,815円(1万口当たり35円)を分配金額としております。</p>	<p>(自2023年4月22日 至2023年5月22日)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(7,584,023円)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(727,360,250円)及び分配準備積立金(148,638,012円)より分配対象収益は883,582,285円(1万口当たり4,633.25円)であり、うち6,674,648円(1万口当たり35円)を分配金額としております。</p>

(金融商品に関する注記)

1. 金融商品の状況に関する事項

項目	前期 自 2022年5月24日 至 2022年11月21日	当期 自 2022年11月22日 至 2023年5月22日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、証券投資信託であり、信託約款に規定する「運用の基本方針」に従い、有価証券等の金融商品に対して投資として運用することを目的としております。	同左

2. 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務であります。当ファンドが保有する有価証券の詳細は「附属明細表」に記載しております。これらは、市場リスク（価格変動リスク、為替変動リスク、金利変動リスク）、信用リスク、及び流動性リスクを有しております。	同左
3. 金融商品に係るリスク管理体制	運用担当部署から独立したコンプライアンス・リスク管理担当部署が、運用リスクを把握、管理し、その結果に基づき運用担当部署へ対応の指示等を行うことにより、適切な管理を行います。運用評価委員会等はこれらの運用リスク管理状況の報告を受け、総合的な見地から運用状況全般の管理を行います。	同左

2. 金融商品の時価等に関する事項

項目	前期 2022年11月21日現在	当期 2023年5月22日現在
1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額	貸借対照表上の金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。	同左
2. 時価の算定方法	(1)有価証券 「(重要な会計方針に係る事項に関する注記)」にて記載しております。 (2)デリバティブ取引 該当事項はありません。 (3)上記以外の金融商品 上記以外の金融商品(コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務)は短期間で決済されるため、帳簿価額は時価と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。	同左
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	同左

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

種類	前期 2022年11月21日現在	当期 2023年5月22日現在
	最終計算期間の 損益に含まれた 評価差額(円)	最終計算期間の 損益に含まれた 評価差額(円)
投資信託受益証券	70,547,336	123,951,592
親投資信託受益証券	1	1
合計	70,547,337	123,951,591

(デリバティブ取引等に関する注記)
 該当事項はありません。

(関連当事者との取引に関する注記)
 該当事項はありません。

(1口当たり情報に関する注記)

	前期 2022年11月21日現在	当期 2023年5月22日現在
1口当たり純資産額 (1万口当たり純資産額)	0.5760円 (5,760円)	0.6703円 (6,703円)

(4) 【附属明細表】

第1 有価証券明細表

(1) 株式

該当事項はありません。

(2) 株式以外の有価証券

2023年5月22日現在

種類	銘柄	券面総額 (円)	評価額 (円)	備考
投資信託受益証券	D I A Mケイマン・ファンド - ジャパニーズ・エクイティ・ ファンド・カレンシー・セレク ション ブラジルリアルクラス	170,029	1,224,043,234	
投資信託受益証券 合計		170,029	1,224,043,234	
親投資信託受益証券	D I A Mマネーマザーファンド	9,925	9,986	
親投資信託受益証券 合計		9,925	9,986	
合計			1,224,053,220	

(注) 投資信託受益証券及び親投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、証券数を表示しております。

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

(参考)

「みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー(通貨選択型)円コース」、「みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー(通貨選択型)米ドルコース」、「みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー(通貨選択型)豪ドルコース」、「みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー(通貨選択型)メキシコペソコース」、「みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー(通貨選択型)トルコリラコース」、「みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー(通貨選択型)ブラジルリアルコース」は、「D I A Mケイマン・ファンド - ジャパニーズ・エクイティ・ファンド・カレンシー・セレクシ

ン 円クラス」投資信託証券、「DIAMケイマン・ファンド - ジャパニーズ・エクイティ・ファンド・カレンシー・セ
レクション 米ドルクラス」投資信託証券、「DIAMケイマン・ファンド - ジャパニーズ・エクイティ・ファンド・カ
レンシー・セクション 豪ドルクラス」投資信託証券、「DIAMケイマン・ファンド - ジャパニーズ・エクイティ・
ファンド・カレンシー・セクション メキシコペソクラス」投資信託証券、「DIAMケイマン・ファンド - ジャパ
ニーズ・エクイティ・ファンド・カレンシー・セクション トルコリラクラス」投資信託証券、「DIAMケイマン・
ファンド - ジャパニーズ・エクイティ・ファンド・カレンシー・セクション ブラジルリアルクラス」投資信託証券及
び「DIAMマネーマザーファンド」受益証券を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「投資信
託受益証券」及び「親投資信託受益証券」は、すべてこれらの証券であります。

同投資信託の状況は以下の通りであります。

なお、以下に記載した状況は監査の対象外となっております。

DIAMマネーマザーファンド

貸借対照表

(単位:円)

2023年5月22日現在

資産の部	
流動資産	
コール・ローン	284,971,503
国債証券	900,540,000
未収利息	8,967
前払費用	849
流動資産合計	1,185,521,319
資産合計	1,185,521,319
負債の部	
流動負債	
流動負債合計	-
負債合計	-
純資産の部	
元本等	
元本	1,178,246,055
剰余金	
剰余金又は欠損金()	7,275,264
元本等合計	1,185,521,319
純資産合計	1,185,521,319
負債純資産合計	1,185,521,319

注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項目	自 2022年11月22日 至 2023年5月22日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	国債証券 個別法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（但し、売気配相場は使用しない）、価格情報会社の提供する価額又は日本証券業協会発表の売買参考統計値（平均値）等で評価しております。

(貸借対照表に関する注記)

項目	2023年5月22日現在
1. 本報告書における開示対象ファンドの期首における当該親投資信託の元本額	1,178,259,939円
同期中追加設定元本額	67,424,486円
同期中一部解約元本額	67,438,370円
元本の内訳	
ファンド名	
バンクローン・ファンド（ヘッジなし）	15,843,407円
バンクローン・ファンド（ヘッジあり）	13,867,169円
バンクローン・ファンド（ヘッジなし/年1回決算型）	1,088,285円
バンクローン・ファンド（ヘッジあり/年1回決算型）	98,095円
新光ピムコ・ストラテジック・インカム・ファンド10月号	3,959,763円
新光ピムコ・ストラテジック・インカム・ファンド11月号	989,197円
新光ピムコ・ストラテジック・インカム・ファンド12月号	494,102円
新光ピムコ・ストラテジック・インカム・ファンド1月号	494,102円
新光ピムコ・ストラテジック・インカム・ファンド2月号	48,517円
新光ピムコ・ストラテジック・インカム・ファンド3月号	395,083円
新光ピムコ・ストラテジック・インカム・ファンド4月号	11,377円
新光ピムコ・ストラテジック・インカム・ファンド5月号	98,027円
新光ピムコ・ストラテジック・インカム・ファンド6月号	989,197円
新光ピムコ・ストラテジック・インカム・ファンド7月号	395,083円
新光ピムコ・ストラテジック・インカム・ファンド8月号	494,102円
新光ピムコ・ストラテジック・インカム・ファンド9月号	494,102円
ダブルライン・シラー・ケープ米国株式プラス<為替ヘッジあり>	791,316円
ダブルライン・シラー・ケープ米国株式プラス<為替ヘッジなし>	2,474,972円
クルーズコントロール	990,000,991円
D I A M新興国ソブリンオープン通貨選択シリーズ<円コース>	870,000円
D I A M新興国ソブリンオープン通貨選択シリーズ<豪ドルコース>	530,000円
D I A M新興国ソブリンオープン通貨選択シリーズ<南アフリカランドコース>	70,000円
D I A M新興国ソブリンオープン通貨選択シリーズ<ブラジルリアルコース>	10,530,000円
D I A M新興国ソブリンオープン通貨選択シリーズ<中国元コース>	149,716円
D I A M新興国ソブリンオープン通貨選択シリーズ<米ドルコース>	5,972円
USストラテジック・インカム・ファンド Aコース（為替ヘッジあり）	993,740円
USストラテジック・インカム・ファンド Bコース（為替ヘッジなし）	1,987,479円
D I A M - ジャナス グローバル債券コアプラス・ファンド<DC年金>	9,935円
みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー（通貨選択型）円コース	9,925円

みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー(通貨選択型)米ドルコース	9,925円
みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー(通貨選択型)豪ドルコース	9,925円
みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー(通貨選択型)メキシコペソコース	9,925円
みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー(通貨選択型)トルコリラコース	9,925円
みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー(通貨選択型)ブラジルレアルコース	9,925円
マシューズ・アジア株式ファンド	29,641,137円
One世界分散セレクト(Aコース)	99,040円
One世界分散セレクト(Bコース)	99,040円
One世界分散セレクト(Cコース)	99,040円
世界8資産リスク分散バランスファンド(目標払出し型)	99,109円
モルガン・スタンレーUSハイイールド債券ファンド(毎月決算型) (為替ヘッジあり)	188,380円
モルガン・スタンレーUSハイイールド債券ファンド(毎月決算型) (為替ヘッジなし)	109,063円
モルガン・スタンレーUSハイイールド債券ファンド(年1回決算型) (為替ヘッジあり)	297,442円
モルガン・スタンレーUSハイイールド債券ファンド(年1回決算型) (為替ヘッジなし)	118,977円
ファンドスミス・グローバル・エクイティ・ファンド	99,255,584円
PIMCOストラテジック・インカム・ファンド(為替ヘッジあり)	2,982円
PIMCOストラテジック・インカム・ファンド(為替ヘッジなし)	2,982円
計	1,178,246,055円
2. 受益権の総数	1,178,246,055口

(金融商品に関する注記)

1. 金融商品の状況に関する事項

項目	自 2022年11月22日 至 2023年5月22日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、証券投資信託であり、信託約款に規定する「運用の基本方針」に従い、有価証券等の金融商品に対して投資として運用することを目的としております。
2. 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務であります。当ファンドが保有する有価証券の詳細は「附属明細表」に記載しております。これらは、市場リスク(価格変動リスク、為替変動リスク、金利変動リスク)、信用リスク、及び流動性リスクを有しております。
3. 金融商品に係るリスク管理体制	運用担当部署から独立したコンプライアンス・リスク管理担当部署が、運用リスクを把握、管理し、その結果に基づき運用担当部署へ対応の指示等を行うことにより、適切な管理を行います。運用評価委員会等はこれらの運用リスク管理状況の報告を受け、総合的な見地から運用状況全般の管理を行います。

2. 金融商品の時価等に関する事項

項目	2023年5月22日現在
----	--------------

1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額	貸借対照表上の金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 時価の算定方法	(1)有価証券 「(重要な会計方針に係る事項に関する注記)」にて記載しております。 (2)デリバティブ取引 該当事項はありません。 (3)上記以外の金融商品 上記以外の金融商品(コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務)は短期間で決済されるため、帳簿価額は時価と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

種類	2023年5月22日現在	
	当期の損益に含まれた評価差額(円)	
国債証券	132,000	
合計	132,000	

(注)「当期の損益に含まれた評価差額」は、当該親投資信託の計算期間開始日から開示対象ファンドの期末日までの期間(2023年4月6日から2023年5月22日まで)に対応する金額であります。

(デリバティブ取引等に関する注記)

該当事項はありません。

(関連当事者との取引に関する注記)

該当事項はありません。

(1口当たり情報に関する注記)

		2023年5月22日現在	
1口当たり純資産額		1.0062円	
(1万口当たり純資産額)		(10,062円)	

附属明細表

第1 有価証券明細表

(1) 株式

該当事項はありません。

(2) 株式以外の有価証券

2023年5月22日現在

種類	銘柄	券面総額 (円)	評価額 (円)	備考
国債証券	426回 利付国庫債券(2年)	200,000,000	200,038,000	
	427回 利付国庫債券(2年)	200,000,000	200,064,000	
	429回 利付国庫債券(2年)	200,000,000	200,114,000	

	430回 利付国庫債券(2年)	100,000,000	100,066,000	
	435回 利付国庫債券(2年)	200,000,000	200,258,000	
国債証券	合計	900,000,000	900,540,000	
合計			900,540,000	

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

ジャパニーズ・エクイティ・ファンド・カレンシー・セレクション

「DIAMケイマン・ファンド - ジャパニーズ・エクイティ・ファンド・カレンシー・セレクション 円クラス」、「DIAMケイマン・ファンド - ジャパニーズ・エクイティ・ファンド・カレンシー・セレクション 米ドルクラス」、「DIAMケイマン・ファンド - ジャパニーズ・エクイティ・ファンド・カレンシー・セレクション 豪ドルクラス」、「DIAMケイマン・ファンド - ジャパニーズ・エクイティ・ファンド・カレンシー・セレクション メキシコペソクラス」、「DIAMケイマン・ファンド - ジャパニーズ・エクイティ・ファンド・カレンシー・セレクション トルコリラクラス」、「DIAMケイマン・ファンド - ジャパニーズ・エクイティ・ファンド・カレンシー・セレクション ブラジルリアルクラス」は、「ジャパニーズ・エクイティ・ファンド・カレンシー・セレクション」を構成する個別クラスとなっております。

「ジャパニーズ・エクイティ・ファンド・カレンシー・セレクション」は、同ファンドの国籍において一般に公正妥当と認められる会計原則に準拠した財務諸表が作成され、現地監査人による監査を受けております。

なお、以下は入手しうる直近の現地監査済み財務諸表の原文の一部を委託会社が和訳したものでありますが、あくまで参考和訳であり正確性を保証するものではありません。

貸借対照表
2021年12月31日現在
(日本円建て)

資産の部	(円)
投資有価証券の公正価値(取得原価2,259,599,590円)	2,697,894,120
現金	456,696,552
使途制限付現金	186,302,060
為替先渡契約に係る未実現利益	253,926,204
先物契約に係る未実現利益	5,095,000
投資有価証券売却に係る未収入金	25,970,926
未収配当金(源泉徴収税317,694円控除後)	1,756,706
未収申込金	500,000
資産合計	3,628,141,568
負債の部	
為替先渡契約に係る未実現損失	287,495,379
投資有価証券購入に係る未払金	21,959,911
未払専門家報酬	3,478,883
未払投資運用報酬	2,649,022
未払管理事務代行報酬	1,742,037
未払保管報酬	1,674,973
未払償還金	1,300,000
未払受託者報酬	571,034
その他の未払費用	204,978
負債合計	321,076,217
2021年12月31日現在の純資産総額	3,307,065,351
発行済受益権口数	
クラス JPY	14,428.07
クラス USD	82,780.30
クラス AUD	8,314.82
クラス MXN	4,878.04
クラス TRY	124,043.11
クラス BRL	223,451.28
1口当たり純資産価額(日本円)	
クラス JPY	16,018.38
クラス USD	17,312.18
クラス AUD	13,797.44
クラス MXN	11,258.23
クラス TRY	2,547.04

クラス BRL

投資有価証券明細書

2021年12月31日現在

(日本円建て)

	株数	取得原価 (円)	時価 (円)	対純資産 %
投資有価証券				
普通株式				
日本				
素材				
ADEKA Corp	12,400	28,323,980	31,830,800	0.96%
KeePer Technical Laboratory Co Ltd	1,200	3,432,733	2,668,800	0.08%
Keiwa Inc	2,700	16,766,786	16,308,000	0.49%
Mitsubishi Gas Chemical Co Inc	7,000	18,063,011	13,636,000	0.41%
Nippon Steel Corp	5,800	6,178,449	10,895,300	0.33%
Osaka Organic Chemical Industry Ltd	3,900	10,282,080	12,948,000	0.39%
Shin-Etsu Chemical Co Ltd	2,500	34,600,673	49,800,000	1.51%
素材合計		117,647,712	138,086,900	4.17%
通信				
CyberAgent Inc	3,700	8,137,784	7,081,800	0.22%
IPS Inc	7,700	16,475,495	17,017,000	0.52%
KDDI Corp	8,400	28,265,457	28,240,800	0.85%
Minkabu The Infonoid Inc	5,100	19,597,671	14,014,800	0.42%
Nippon Telegraph & Telephone Corp	10,900	34,635,782	34,335,000	1.04%
SoftBank Corp.	5,500	28,609,259	29,887,000	0.90%
Trend Micro Inc/Japan	3,200	18,618,596	20,448,000	0.62%
Z Holdings Corp	30,900	19,320,731	20,622,660	0.62%
通信合計		173,660,775	171,647,060	5.19%
一般消費財、景気循環型				
Airtrip Corp	3,000	9,005,567	9,210,000	0.28%
Denso Corp	7,900	43,360,923	75,279,100	2.28%
Food & Life Cos Ltd	3,000	15,002,965	13,050,000	0.39%
H2O Retailing Corp	6,000	5,711,651	4,860,000	0.15%
Honda Motor Co Ltd	4,900	14,175,143	15,827,000	0.48%
Isuzu Motors Ltd	3,300	4,651,356	4,722,300	0.14%
ITOCHU Corp	8,500	26,632,615	29,903,000	0.90%
Iwatani Corp	1,000	4,730,345	5,800,000	0.18%
Japan Airlines Co Ltd	4,500	9,572,273	9,882,000	0.30%
Mitsubishi Corp	9,700	30,875,913	35,424,400	1.07%
Nintendo Co Ltd	800	35,042,851	42,920,000	1.30%
Round One Corp	22,000	32,468,980	30,008,000	0.91%
Sony Corp.	8,100	58,116,150	117,247,500	3.55%
Toray Industries Inc	43,200	27,398,057	29,453,760	0.89%
Toyota Motor Corp	46,500	71,540,908	97,905,750	2.96%
Welcia Holdings Co Ltd	1,300	5,048,234	4,667,000	0.14%
一般消費財、景気循環型合計		393,333,931	526,159,810	15.92%

	株数	取得原価 (円)	時価 (円)	対純資産 %
投資有価証券(つづき)				
普通株式(つづき)				
日本(つづき)				
一般消費財、生活必需品				
Ajinomoto Co Inc	6,000	20,649,537	20,982,000	0.63%
Asahi Group Holdings Ltd	3,500	18,663,168	15,659,000	0.47%
Asahi Intecc Co Ltd	3,500	11,335,566	8,648,500	0.26%
AZOOM Co Ltd	1,500	11,071,430	9,150,000	0.28%
Chugai Pharmaceutical Co Ltd	3,300	12,379,680	12,325,500	0.37%
Daiichi Sankyo Co Ltd	11,200	22,697,198	32,760,000	0.99%
GMO Payment Gateway Inc	1,200	13,408,891	17,220,000	0.52%
Hyuga Primary Care Co Ltd	3,000	14,712,377	18,000,000	0.54%
Life Corp	2,700	12,901,135	9,193,500	0.28%
Morinaga Milk Industry Co Ltd	1,700	10,520,776	9,282,000	0.28%
Nihon M&A Center Inc	4,000	9,440,825	11,284,000	0.34%
Riso Kyoiku Co Ltd	18,600	7,128,642	7,309,800	0.22%
Seven & i Holdings Co Ltd	4,500	21,438,424	22,752,000	0.69%
Shionogi & Co Ltd	3,700	26,578,806	30,062,500	0.91%
Sysmex Corp	2,400	30,232,613	37,320,000	1.13%
Takara Bio Inc	3,500	8,763,152	9,254,000	0.28%
一般消費財、生活必需品合計		251,922,220	271,202,800	8.19%
エネルギー				
Inpex Corp.	46,700	43,178,966	46,793,400	1.41%
エネルギー合計		43,178,966	46,793,400	1.41%
金融				
Dai-ichi Life Holdings Inc	15,700	25,091,752	36,510,350	1.10%
JAFCO Group Co Ltd	2,100	15,676,691	13,902,000	0.42%
Mitsubishi UFJ Financial Group Inc.	76,500	43,668,860	47,804,850	1.46%
Mitsui Fudosan Co Ltd	8,700	21,863,137	19,822,950	0.60%
MS&AD Insurance Group Holdings Inc	6,000	19,556,040	21,294,000	0.65%
ORIX Corp	12,700	24,396,890	29,813,250	0.90%
Sumitomo Mitsui Financial Group Inc.	10,600	39,394,544	41,795,800	1.26%
Tokyo Tatemono Co Ltd	15,600	26,296,209	26,208,000	0.79%
金融合計		215,944,123	237,151,200	7.18%

	株数	取得原価 (円)	時価 (円)	対純資産 %
投資有価証券(つづき)				
普通株式(つづき)				
日本(つづき)				
資本財・サービス				
Central Japan Railway Co	2,300	34,524,498	35,293,500	1.07%
CKD Corp	5,900	13,771,661	13,788,300	0.42%
Daikin Industries Ltd	1,400	35,171,467	36,526,000	1.10%
Daiseki Co Ltd	5,200	27,606,048	26,572,000	0.80%
EXEO Group Inc	10,600	28,186,826	25,694,400	0.78%
FANUC Corp	1,300	30,571,069	31,694,000	0.96%
Fuji Electric Co Ltd	9,500	32,800,741	59,660,000	1.80%
Fujikura Ltd	29,200	18,337,795	16,498,000	0.50%
Hioki EE Corp	2,500	21,280,432	21,950,000	0.66%
Hitachi Ltd	7,600	31,880,442	47,348,000	1.43%
Hoya Corp	1,400	14,246,705	23,954,000	0.72%
Ibiden Co Ltd	8,200	27,862,123	56,088,000	1.70%
JMDC Inc	3,200	20,945,450	27,456,000	0.83%
JSR Corp	1,800	7,899,118	7,875,000	0.24%
Katitas Co Ltd	3,500	9,998,279	15,487,500	0.47%
Keyence Corp	700	46,624,671	50,596,000	1.53%
Lixil Corp	5,000	15,580,615	15,325,000	0.46%
Misumi Group Inc	8,700	31,763,614	41,064,000	1.24%
Mitsui OSK Lines Ltd	2,500	12,891,839	21,350,000	0.65%
Murata Manufacturing Co Ltd	2,500	17,393,261	22,892,500	0.69%
Nidec Corp.	2,800	22,979,121	37,856,000	1.14%
Nippon Pillar Packing Co Ltd	3,000	11,081,493	11,160,000	0.34%
Olympus Corp	13,100	32,087,688	34,708,450	1.05%
Raito Kogyo Co Ltd	13,900	27,554,340	27,535,900	0.83%
River Eletec Corp	3,000	4,114,668	3,861,000	0.12%
Seibu Holdings Inc	3,800	4,699,748	4,088,800	0.12%
SMC Corp	400	18,028,545	31,036,000	0.94%
TDK Corp	7,700	29,619,358	34,573,000	1.05%
Toyota Industries Corp	3,400	28,708,897	31,246,000	0.94%
Towa Corp	8,800	28,494,548	28,556,000	0.86%
Yaskawa Electric Corp	3,000	13,206,868	16,920,000	0.52%
資本財・サービス合計		699,911,928	858,653,350	25.96%
テクノロジー				
BayCurrent Consulting Inc	200	9,974,748	8,900,000	0.27%
Fujifilm Holdings Corp	7,100	54,019,326	60,534,600	1.83%
Hamamatsu Photonics KK	4,000	29,323,613	29,360,000	0.89%
Lasertec Corp	800	5,713,971	28,232,000	0.85%
Livero Inc	2,800	8,564,961	7,893,200	0.24%
NEC Corp	2,000	11,758,256	10,620,000	0.32%
Nomura Research Institute Ltd	10,400	34,605,561	51,324,000	1.55%
Recruit Holdings Co Ltd	8,100	56,636,906	56,473,200	1.71%
Rohm Co Ltd	2,300	23,607,109	24,081,000	0.73%
Simplex Holdings Inc	11,900	32,234,224	33,855,500	1.02%
Square Enix Holdings Co Ltd	1,500	9,632,653	8,850,000	0.27%
Tokyo Electron Ltd	900	18,495,184	59,652,000	1.81%
テクノロジー合計		294,566,512	379,775,500	11.49%
公共事業				
eRex Co Ltd	9,100	25,884,751	18,573,100	0.56%
West Holdings Corp	8,700	43,548,672	49,851,000	1.51%
公共事業合計		69,433,423	68,424,100	2.07%

	株数	取得原価 (円)	時価 (円)	対純資産 %
投資有価証券(つづき)				
普通株式(つづき)				
日本(つづき)				
日本合計		2,259,599,590	2,697,894,120	81.58%
普通株式合計		2,259,599,590	2,697,894,120	81.58%
投資有価証券合計		2,259,599,590	2,697,894,120	81.58%

2【ファンドの現況】

【純資産額計算書】

みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー(通貨選択型)円コース

2023年5月31日現在

資産総額	212,895,386円
負債総額	72,927円
純資産総額(-)	212,822,459円
発行済数量	202,178,969口
1口当たり純資産額(/)	1.0526円

みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー(通貨選択型)米ドルコース

2023年5月31日現在

資産総額	1,364,025,102円
負債総額	1,294,990円
純資産総額(-)	1,362,730,112円
発行済数量	1,183,540,208口
1口当たり純資産額(/)	1.1514円

みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー(通貨選択型)豪ドルコース

2023年5月31日現在

資産総額	64,068,762円
負債総額	21,767円
純資産総額(-)	64,046,995円
発行済数量	46,212,888口
1口当たり純資産額(/)	1.3859円

みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー(通貨選択型)メキシコペソコース

2023年5月31日現在

資産総額	47,500,597円
負債総額	15,857円
純資産総額(-)	47,484,740円
発行済数量	29,784,789口
1口当たり純資産額(/)	1.5943円

みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー(通貨選択型)トルコリラコース

2023年5月31日現在

資産総額	287,703,410円
負債総額	99,539円
純資産総額(-)	287,603,871円
発行済数量	1,205,297,960口
1口当たり純資産額(/)	0.2386円

みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー(通貨選択型)ブラジルリアルコース

2023年5月31日現在

資産総額	1,284,447,496円
負債総額	436,674円
純資産総額(-)	1,284,010,822円
発行済数量	1,898,690,591口
1口当たり純資産額(/)	0.6763円

(参考)

DIAMマネーマザーファンド

2023年5月31日現在

資産総額	1,187,290,717円
負債総額	700,000,000円
純資産総額(-)	487,290,717円
発行済数量	484,279,075口
1口当たり純資産額(/)	1.0062円

第4【内国投資信託受益証券事務の概要】

(1)受益証券の名義書換

該当事項はありません。

ファンドの受益権の帰属は、振替機関等の振替口座簿に記載または記録されることにより定まります。委託会社は、この信託の受益権を取り扱う振替機関が社振法の規定により主務大臣の指定を取り消された場合または当該指定が効力を失った場合であって、当該振替機関の振替業を承継する者が存在しない場合その他やむを得ない事情がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。

なお、受益者は、委託会社がやむを得ない事情等により受益証券を発行する場合を除き、無記名式受益証券から記名式受益証券への変更の請求、記名式受益証券から無記名式受益証券への変更の請求、受益証券の再発行の請求を行わないものとします。

(2)受益者等名簿

該当事項はありません。

(3)受益者に対する特典

該当事項はありません。

(4)受益権の譲渡制限

譲渡制限はありません。

受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿にかかる振替機関等に振替の申請をするものとします。

上記の申請のある場合には、上記の振替機関等は、当該譲渡にかかる譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、上記の振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等（当該他の振替機関等の上位機関を含みます。）に社振法の規定にしたがい、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行われるよう通知するものとします。

上記の振替について、委託会社は、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿にかかる振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託会社が必要と認めるときまたはやむを得ない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

(5)受益権の譲渡の対抗要件

受益権の譲渡は、振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託会社および受託会社に対抗することができません。

(6)受益権の再分割

委託会社は、社振法に定めるところにしたがい、受託会社と協議のうえ、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとします。

(7)質権口記載又は記録の受益権の取り扱いについて

振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権にかかる収益分配金の支払い、一部解約の実行の請求の受付、一部解約金および償還金の支払い等については、約款の規定によるほか、民法その他の法令等にしたがって取り扱われます。

第二部【委託会社等の情報】

第1【委託会社等の概況】

1【委託会社等の概況】

(1) 資本金の額(2023年5月31日現在)

資本金の額	20億円
発行する株式総数	100,000株 (普通株式 上限100,000株、A種種類株式 上限30,000株)
発行済株式総数	40,000株 (普通株式24,490株、A種種類株式15,510株)
種類株式の発行が可能	

直近5カ年の資本金の増減：該当事項はありません。

(2) 会社の機構(2023年5月31日現在)

会社の意思決定機構

業務執行上重要な事項は、取締役会の決議をもって決定します。

取締役は株主総会で選任されます。取締役(監査等委員である取締役を除く。)の任期は、その選任後1年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までとし、任期の満了前に退任した取締役(監査等委員である取締役を除く。)の補欠として選任された取締役(監査等委員である取締役を除く。)の任期は、現任取締役(監査等委員である取締役を除く。)の任期の満了の時までとします。

また、監査等委員である取締役の任期は、その選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までとし、任期の満了前に退任した監査等委員である取締役の補欠として選任された監査等委員である取締役の任期は、退任した監査等委員である取締役の任期の満了の時までとします。

取締役会は、決議によって代表取締役を選定します。代表取締役は、会社を代表し、取締役会の決議にしたがい業務を執行します。

また、取締役会の決議によって、取締役社長を定めることができます。

取締役会は、法令に別段の定めがある場合を除き、原則として取締役社長が招集します。取締役会の議長は、原則として取締役社長があたります。

取締役会の決議は、法令に別段の定めがある場合を除き、議決に加わることができる取締役の過半数が出席し、出席取締役の過半数をもって行います。

投資運用の意思決定機構

1. 投資環境見直しおよび運用方針の策定

経済環境見直し、資産別市場見直し、資産配分方針および資産別運用方針は月次で開催する「投資環境会議」および「投資方針会議」にて協議、策定致します。これらの会議は運用本部長・副本部長、運用グループ長等で構成されます。

2. 運用計画、売買計画の決定

各ファンドの運用は「投資環境会議」および「投資方針会議」における協議の内容を踏まえて、ファンド毎に個別に任命された運用担当者が行います。運用担当者は月次で運用計画書

を作成し、運用本部長の承認を受けます。運用担当者は承認を受けた運用計画に基づき、運用を行います。

2【事業の内容及び営業の概況】

「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社である委託会社は、投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）ならびにその受益証券（受益権）の募集又は私募（第二種金融商品取引業）を行っています。また、「金融商品取引法」に定める投資助言・代理業を行っています。

2023年5月31日現在、委託会社の運用する投資信託は以下の通りです。（親投資信託を除く）

基本的性格	本数	純資産総額（単位：円）
追加型公社債投資信託	26	1,451,770,775,342
追加型株式投資信託	793	14,811,823,510,932
単位型公社債投資信託	23	39,882,073,259
単位型株式投資信託	211	1,113,561,477,132
合計	1,053	17,417,037,836,665

3【委託会社等の経理状況】

1. 委託会社であるアセットマネジメントOne株式会社(以下「委託会社」という。)の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)ならびに同規則第2条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」(平成19年8月6日内閣府令第52号)により作成しております。
2. 財務諸表の金額は、百万円未満の端数を切り捨てて記載しております。
3. 委託会社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき第38期事業年度(自2022年4月1日至2023年3月31日)の財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人の監査を受けております。

(1) 【貸借対照表】

(単位：百万円)

	第37期 (2022年3月31日現在)	第38期 (2023年3月31日現在)
(資産の部)		
流動資産		
現金・預金	31,421	33,770
金銭の信託	30,332	29,184
未収委託者報酬	17,567	16,279
未収運用受託報酬	4,348	3,307
未収投資助言報酬	309	283
未収収益	5	15
前払費用	1,167	1,129
その他	2,673	2,377
流動資産計	87,826	86,346
固定資産		
有形固定資産		
建物	1,109	1,001
器具備品	158	118
リース資産	-	7
無形固定資産		
ソフトウェア	3,107	3,367
ソフトウェア仮勘定	1,449	1,651
電話加入権	3	2
投資その他の資産		
投資有価証券	241	182
関係会社株式	5,349	5,810
長期差入保証金	1,102	775
繰延税金資産	3,092	2,895
その他	367	104
固定資産計	15,983	15,918
資産合計	103,810	102,265

(単位:百万円)

	第37期 (2022年3月31日現在)	第38期 (2023年3月31日現在)
(負債の部)		
流動負債		
預り金	1,445	1,481
リース債務	-	1
未払金	7,616	7,246
未払収益分配金	0	0
未払償還金	9	-
未払手数料	7,430	7,005
その他未払金	175	240
未払費用	8,501	7,716
未払法人税等	2,683	1,958
未払消費税等	1,330	277
賞与引当金	1,933	1,730
役員賞与引当金	69	48
流動負債計	23,581	20,460
固定負債		
リース債務	-	6
退職給付引当金	2,507	2,654
時効後支払損引当金	147	108
固定負債計	2,655	2,769
負債合計	26,236	23,230
(純資産の部)		
株主資本		
資本金	2,000	2,000
資本剰余金	19,552	19,552
資本準備金	2,428	2,428
その他資本剰余金	17,124	17,124
利益剰余金	56,020	57,481
利益準備金	123	123
その他利益剰余金	55,896	57,358
別途積立金	31,680	31,680
繰越利益剰余金	24,216	25,678
株主資本計	77,573	79,034
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	0	0
評価・換算差額等計	0	0
純資産合計	77,573	79,034
負債・純資産合計	103,810	102,265

(2) 【損益計算書】

(単位：百万円)

	第37期 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)		第38期 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	
	営業収益			
委託者報酬	108,563		95,739	
運用受託報酬	16,716		16,150	
投資助言報酬	1,587		2,048	
その他営業収益	12		23	
営業収益計		126,879		113,962
営業費用				
支払手数料	45,172		41,073	
広告宣伝費	391		216	
公告費	0		0	
調査費	36,488		33,177	
調査費	10,963		12,294	
委託調査費	25,525		20,882	
委託計算費	557		548	
営業雑経費	842		733	
通信費	35		36	
印刷費	606		504	
協会費	66		69	
諸会費	26		29	
支払販売手数料	106		92	
営業費用計		83,453		75,749
一般管理費				
給料	10,377		10,484	
役員報酬	168		168	
給料・手当	8,995		9,199	
賞与	1,213		1,115	
交際費	6		17	
寄付金	15		11	
旅費交通費	40		128	
租税公課	367		330	
不動産賃借料	1,674		1,006	
退職給付費用	495		437	
固定資産減価償却費	1,389		1,388	
福利厚生費	42		47	
修繕費	0		1	
賞与引当金繰入額	1,933		1,730	
役員賞与引当金繰入額	69		48	
機器リース料	0		0	
事務委託費	3,901		4,074	
事務用消耗品費	45		37	
器具備品費	0		1	
諸経費	217		334	
一般管理費計		20,578		20,078
営業利益		22,848		18,135

(単位:百万円)

	第37期 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)		第38期 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	
営業外収益				
受取利息		13		10
受取配当金	1	559	1	2,400
時効成立分配金・償還金		0		0
為替差益		7		-
雑収入		19		10
時効後支払損引当金戻入額		10		24
営業外収益計		610		2,446
営業外費用				
為替差損		-		3
金銭の信託運用損		743		1,003
早期割増退職金		20		24
雑損失		-		47
営業外費用計		764		1,079
経常利益		22,694		19,502
特別利益				
固定資産売却益		0		-
投資有価証券売却益		-		4
特別利益計		0		4
特別損失				
固定資産除却損		5		12
投資有価証券売却損		6		9
ゴルフ会員権売却損		3		-
オフィス再編費用	2	509		-
関係会社株式評価損		-		584
特別損失計		525		606
税引前当期純利益		22,169		18,900
法人税、住民税及び事業税		6,085		4,881
法人税等調整額		584		197
法人税等合計		6,669		5,078
当期純利益		15,499		13,821

（ 3 ） 【株主資本等変動計算書】

第37期（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本								株主資本 合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			利益剰余金 合計	
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余 金合計	利益 準備金	その他利益剰余金			
						別途 積立金	繰越利益 剰余金		
当期首残高	2,000	2,428	17,124	19,552	123	31,680	19,996	51,800	73,353
当期変動額									
剰余金の配当							11,280	11,280	11,280
当期純利益							15,499	15,499	15,499
株主資本以外の 項目の当期変動 額(純額)									-
当期変動額合計	-	-	-	-	-	-	4,219	4,219	4,219
当期末残高	2,000	2,428	17,124	19,552	123	31,680	24,216	56,020	77,573

	評価・換算差額等		純資産 合計
	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	0	0	73,353
当期変動額			
剰余金の配当			11,280
当期純利益			15,499
株主資本以外の 項目の当期変動 額(純額)	0	0	0
当期変動額合計	0	0	4,219
当期末残高	0	0	77,573

第38期(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本								
	資本金	資本剰余金			利益剰余金				株主資本 合計
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余 金合計	利益 準備金	その他利益剰余金		利益剰余金 合計	
						別途 積立金	繰越利益 剰余金		
当期首残高	2,000	2,428	17,124	19,552	123	31,680	24,216	56,020	77,573
当期変動額									
剰余金の配当							12,360	12,360	12,360
当期純利益							13,821	13,821	13,821
株主資本以外の 項目の当期変動 額(純額)									-
当期変動額合計	-	-	-	-	-	-	1,461	1,461	1,461
当期末残高	2,000	2,428	17,124	19,552	123	31,680	25,678	57,481	79,034

	評価・換算差額等		純資産 合計
	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	0	0	77,573
当期変動額			
剰余金の配当			12,360
当期純利益			13,821
株主資本以外の 項目の当期変動 額(純額)	0	0	0
当期変動額合計	0	0	1,461
当期末残高	0	0	79,034

重要な会計方針

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>(1) 子会社株式及び関連会社株式 移動平均法による原価法</p> <p>(2) その他有価証券 市場価格のない株式等以外のもの 決算日の市場価格等に基づく時価法 (評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定) 市場価格のない株式等 移動平均法による原価法</p>
2. 金銭の信託の評価基準及び評価方法	時価法
3. 固定資産の減価償却の方法	<p>(1) 有形固定資産(リース資産を除く) 定率法を採用しております。ただし、2016年4月1日以降に取得した建物附属設備については、定額法を採用しております。 なお、主な耐用年数は次のとおりであります。 建物 ... 8～18年 器具備品 ... 2～20年</p> <p>(2) 無形固定資産(リース資産を除く) 定額法を採用しております。 なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。</p> <p>(3) リース資産 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価格を零とする定額法を採用しております。</p>
4. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準	外貨建金銭債権債務は、期末日の直物等為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。
5. 引当金の計上基準	<p>(1) 賞与引当金 従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、将来の支給見込額に基づき当事業年度に見合う分を計上しております。</p> <p>(2) 役員賞与引当金 役員に対して支給する賞与の支出に充てるため、将来の支給見込額に基づき当事業年度に見合う分を計上しております。</p> <p>(3) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、退職一時金制度について、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。 退職給付見込額の期間帰属方法 退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法 過去勤務費用については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(5年)による定額法により按分した額を費用処理しております。 数理計算上の差異については、各事業年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(5年または10年)による定額法により按分した額を、それぞれ発生翌事業年度から費用処理しております。</p> <p>(4) 時効後支払損引当金 時効成立のため利益計上した収益分配金及び償還金について、受益者からの今後の支払請求に備えるため、過去の支払実績に基づく将来の支払見込額を計上しております。</p>

6. 収益及び費用の計上基準	<p>当社は、資産運用サービスから委託者報酬、運用受託報酬及び投資助言報酬を稼得しております。これらには成功報酬が含まれる場合があります。</p> <p>(1) 委託者報酬 委託者報酬は、投資信託の信託約款に基づき、日々の純資産総額に対する一定割合として認識され、確定した報酬を投資信託によって主に年1回又は2回受取ります。当該報酬は期間の経過とともに履行義務が充足されるという前提に基づき、投資信託の運用期間にわたり収益として認識しております。</p> <p>(2) 運用受託報酬 運用受託報酬は、投資顧問契約で定められた報酬に基づき、確定した報酬を顧問口座によって主に年1回又は2回受取ります。当該報酬は期間の経過とともに履行義務が充足されるという前提に基づき、顧問口座の運用期間にわたり収益として認識しております。</p> <p>(3) 投資助言報酬 投資助言報酬は、投資助言契約で定められた報酬に基づき、確定した報酬を顧問口座によって主に年2回又は4回受取ります。当該報酬は期間の経過とともに履行義務が充足されるという前提に基づき、顧問口座の運用期間にわたり収益として認識しております。</p> <p>(4) 成功報酬 成功報酬は、対象となる投資信託または顧問口座の特定のベンチマークまたはその他のパフォーマンス目標を上回る超過運用益に対する一定割合として認識されます。当該報酬は成功報酬を受領する権利が確定した時点で収益として認識しております。</p>
7. 消費税等の会計処理	消費税及び地方消費税の会計処理は税抜き方式によっております。

（会計方針の変更）

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。）を当事業年度の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27 - 2項に定める経過的な取り扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。なお、当該適用指針の適用に伴う、当事業年度の財務諸表への影響はありません。

また、（金融商品会計）注記の金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項における投資信託に関する注記事項においては、時価算定会計基準適用指針第27 - 3項に従って、前事業年度に係るものについては記載しておりません。

注記事項

（貸借対照表関係）

1. 有形固定資産の減価償却累計額

（百万円）

	第37期 (2022年3月31日現在)	第38期 (2023年3月31日現在)
建物	415	523
器具備品	966	934
リース資産	-	1

（損益計算書関係）

1. 各科目に含まれている関係会社に対する営業外収益は、次のとおりであります。

（百万円）

	第37期 (自 2021年4月 1日 至 2022年3月31日)	第38期 (自 2022年4月 1日 至 2023年3月31日)
受取配当金	543	2,393

2. オフィス再編費用

オフィス再編費用は、主に本社オフィスレイアウトの見直しによるものです。

（株主資本等変動計算書関係）

第37期（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

発行済株式の種類	当事業年度期首 株式数（株）	当事業年度 増加株式数（株）	当事業年度 減少株式数（株）	当事業年度末 株式数（株）
普通株式	24,490	-	-	24,490
A種種類株式	15,510	-	-	15,510
合計	40,000	-	-	40,000

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の 種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日
2021年6月16日 定時株主総会	普通株式	11,280	282,000	2021年3月31日	2021年6月17日
	A種種類 株式				

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2022年6月16日 定時株主総会	普通株式	利益 剰余金	12,360	309,000	2022年3月31日	2022年6月17日
	A種種類株式					

第38期(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

発行済株式の種類	当事業年度期首 株式数(株)	当事業年度 増加株式数(株)	当事業年度 減少株式数(株)	当事業年度末 株式数(株)
普通株式	24,490	-	-	24,490
A種種類株式	15,510	-	-	15,510
合計	40,000	-	-	40,000

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2022年6月16日 定時株主総会	普通株式	12,360	309,000	2022年3月31日	2022年6月17日
	A種種類株式				

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

2023年6月16日開催予定の定時株主総会において、以下のとおり決議を予定しております。

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2023年6月16日 定時株主総会	普通株式	利益 剰余金	11,040	276,000	2023年3月31日	2023年6月19日
	A種種類株式					

（金融商品関係）

1. 金融商品の状況に関する事項

（1）金融商品に対する取組方針

当社は、投資運用業を営んでおります。資金運用については、短期的な預金等に限定しております。

当社が運用を行う投資信託の商品性を適正に維持するため、当該投資信託を特定金外信託を通じて、または直接保有しております。なお、特定金外信託を通じて行っているデリバティブ取引は後述するリスクを低減する目的で行っております。当該デリバティブ取引は、実需の範囲内でのみ利用することとしており、投機的な取引は行わない方針であります。

（2）金融商品の内容及びそのリスク

金銭の信託の主な内容は、当社運用ファンドの安定運用を主な目的として資金投入した投資信託及びデリバティブ取引であります。金銭の信託に含まれる投資信託は為替及び市場価格の変動リスクに晒されておりますが、デリバティブ取引（為替予約取引、株価指数先物取引及び債券先物取引）を利用して一部リスクを低減しております。

営業債権である未収委託者報酬及び未収運用受託報酬は、相手先の信用リスクに晒されております。

投資有価証券は、主にその他有価証券（投資信託）、業務上の関係を有する企業の株式であり、発行体の信用リスクや市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である未払手数料は、1年以内の支払期日であります。

（3）金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

預金の預入先については、余資運用規程に従い、格付けの高い預入先に限定することにより、リスクの軽減を図っております。

営業債権の相手先の信用リスクに関しては、当社の信用リスク管理の基本方針に従い、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、主な相手先の信用状況を把握する体制としています。

投資有価証券の発行体の信用リスクに関しては、信用情報や時価の把握を定期的に行うことで管理しています。

市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

組織規程における分掌業務の定めに基づき、リスク管理担当所管にて、取引残高、損益及びリスク量等の実績管理を行い、定期的に社内委員会での報告を実施しております。

資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

取引実行担当所管からの報告に基づき、資金管理担当所管が資金繰りを確認するとともに、十分な手許流動性を維持することなどにより、流動性リスクを管理しております。

（4）金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

第37期（2022年3月31日現在）

	貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 金銭の信託	30,332	30,332	-
(2) 投資有価証券 其他有価証券	1	1	-
資産計	30,334	30,334	-

第38期（2023年3月31日現在）

	貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 金銭の信託	29,184	29,184	-
(2) 投資有価証券 其他有価証券	1	1	-
資産計	29,186	29,186	-

(注1) 現金・預金、未収委託者報酬、未収運用受託報酬及び未払手数料は、短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、注記を省略しております。

(注2) 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

第37期（2022年3月31日現在）

	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
(1) 現金・預金	31,421	-	-	-
(2) 金銭の信託	30,332	-	-	-
(3) 未収委託者報酬	17,567	-	-	-
(4) 未収運用受託報酬	4,348	-	-	-
(5) 投資有価証券 其他有価証券(投資信託)	-	1	-	-
合計	83,670	1	-	-

第38期（2023年3月31日現在）

	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
(1) 現金・預金	33,770	-	-	-
(2) 金銭の信託	29,184	-	-	-
(3) 未収委託者報酬	16,279	-	-	-
(4) 未収運用受託報酬	3,307	-	-	-
(5) 投資有価証券 其他有価証券(投資信託)	-	1	-	-
合計	82,540	1	-	-

3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

時価で貸借対照表に計上している金融商品

第37期(2022年3月31日現在)

区分	時価(百万円)			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
(1) 金銭の信託	-	6,932	-	6,932
(2) 投資有価証券	-	-	-	-
其他有価証券	-	-	-	-
資産計	-	6,932	-	6,932

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2019年7月4日)第26項に従い、経過措置を適用した投資信託は上表には含めておりません。貸借対照表における当該投資信託の金額は、金銭の信託23,399百万円、投資有価証券1百万円となります。

第38期(2023年3月31日現在)

区分	時価(百万円)			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
(1) 金銭の信託	-	29,184	-	29,184
(2) 投資有価証券	-	-	-	-
其他有価証券	-	1	-	1
資産計	-	29,186	-	29,186

(注1) 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

金銭の信託

信託財産は、主として投資信託、デリバティブ取引、その他の資産(コールローン・委託証拠金等)で構成されております。

信託財産を構成する金融商品の時価について、投資信託は基準価額、デリバティブ取引は、取引相手先金融機関より提示された価格によっております。また、その他の資産については短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

投資有価証券

投資有価証券は市場における取引価格が存在しない投資信託であり、基準価額を時価としております。

(注2) 市場価格のない株式等の貸借対照表計上額は次の通りであります。

これらについては、「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第19号 2020年3月31日)第5項に従い、2. 金融商品の時価等に関する事項及び3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項で開示している表中には含めておりません。

(百万円)

	第37期 (2022年3月31日現在)	第38期 (2023年3月31日現在)
投資有価証券(其他有価証券)		
非上場株式	239	180
関係会社株式		
非上場株式	5,349	5,810

(有価証券関係)

1. 子会社株式及び関連会社株式

子会社株式及び関連会社株式(第37期の貸借対照表計上額5,349百万円、第38期の貸借対照表計上額5,810百万円)については市場価格がないことから、貸借対照表日における時価及び貸借対照表計上額と当該時価との差額の記載は省略しております。

2. その他有価証券

第37期(2022年3月31日現在)

(百万円)

区分	貸借対照表日における 貸借対照表計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの 投資信託	-	-	-
小計	-	-	-
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの 投資信託	1	2	0
小計	1	2	0
合計	1	2	0

(注)非上場株式(貸借対照表計上額239百万円)については、市場価格がないことから、上表に含めておりません。

第38期(2023年3月31日現在)

(百万円)

区分	貸借対照表日における 貸借対照表計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの 投資信託	-	-	-
小計	-	-	-
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの 投資信託	1	2	0
小計	1	2	0
合計	1	2	0

(注)非上場株式(貸借対照表計上額180百万円)については、市場価格がないことから、上表に含めておりません。

3. 事業年度中に売却したその他有価証券

第37期（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

区分	売却額 （百万円）	売却益の合計額 （百万円）	売却損の合計額 （百万円）
株式	13	-	6

第38期（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

区分	売却額 （百万円）	売却益の合計額 （百万円）	売却損の合計額 （百万円）
株式	54	4	9

4. 減損処理を行った有価証券

当事業年度において、有価証券について584百万円（関係会社株式584百万円）減損処理を行っております。

（退職給付関係）

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として退職一時金制度（非積立型制度であります）を採用しております。確定拠出型の制度としては確定拠出年金制度を採用しております。

2. 確定給付制度

（1）退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

（百万円）

	第37期 （自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）	第38期 （自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）
退職給付債務の期首残高	2,479	2,576
勤務費用	295	279
利息費用	2	2
数理計算上の差異の発生額	14	31
退職給付の支払額	185	191
退職給付債務の期末残高	2,576	2,698

（2）退職給付債務の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

（百万円）

	第37期 （2022年3月31日現在）	第38期 （2023年3月31日現在）
非積立型制度の退職給付債務	2,576	2,698
未積立退職給付債務	2,576	2,698
未認識数理計算上の差異	35	44
未認識過去勤務費用	33	0
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	2,507	2,654
退職給付引当金	2,507	2,654
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	2,507	2,654

(3) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

(百万円)

	第37期 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	第38期 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
勤務費用	295	279
利息費用	2	2
数理計算上の差異の費用処理額	34	22
過去勤務費用の費用処理額	69	34
その他	3	4
確定給付制度に係る退職給付費用	398	334

(注) 上記退職給付費用以外に早期割増退職金として、前事業年度において20百万円、当事業年度において24百万円を営業外費用に計上しております。

(4) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎

	第37期 (2022年3月31日現在)	第38期 (2023年3月31日現在)
割引率	0.09%	0.09%
予想昇給率	1.00% ~ 3.76%	1.00% ~ 3.56%

3. 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、前事業年度97百万円、当事業年度103百万円であります。

（税効果会計関係）

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	第37期	第38期
	(2022年3月31日現在)	(2023年3月31日現在)
	(百万円)	(百万円)
繰延税金資産		
未払事業税	156	121
未払事業所税	10	9
賞与引当金	592	529
未払法定福利費	92	94
運用受託報酬	845	390
資産除去債務	13	15
減価償却超過額（一括償却資産）	12	21
減価償却超過額	58	198
繰延資産償却超過額（税法上）	292	297
退職給付引当金	767	812
時効後支払損引当金	45	33
ゴルフ会員権評価損	7	7
関係会社株式評価損	166	345
投資有価証券評価損	28	4
その他	2	13
その他有価証券評価差額金	0	0
繰延税金資産合計	3,092	2,895
繰延税金負債		
繰延税金負債合計	-	-
繰延税金資産の純額	3,092	2,895

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主要な項目別の内訳

	第37期	第38期
	(2022年3月31日現在)	(2023年3月31日現在)
法定実効税率	-	30.62 %
（調整）		
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	-	3.69 %
その他	-	0.06 %
税効果会計適用後の法人税等の負担率	-	26.87 %

（注）前事業年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

(企業結合等関係)

当社(以下「AMOne」という)は、2016年7月13日付で締結した、DIAMアセットマネジメント株式会社(以下「DIAM」という)、みずほ投信投資顧問株式会社(以下「MHAM」という)、みずほ信託銀行株式会社(以下「TB」という)及び新光投信株式会社(以下「新光投信」という)(以下総称して「統合4社」という)間の「統合契約書」に基づき、2016年10月1日付で統合いたしました。

1. 結合当事企業

結合当事企業	DIAM	MHAM	TB	新光投信
事業の内容	投資運用業務、投資助言・代理業務	投資運用業務、投資助言・代理業務	信託業務、銀行業務、投資運用業務	投資運用業務、投資助言・代理業務

2. 企業結合日

2016年10月1日

3. 企業結合の方法

MHAMを吸収合併存続会社、新光投信を吸収合併消滅会社とする吸収合併、TBを吸収分割会社、吸収合併後のMHAMを吸収分割承継会社とし、同社がTB資産運用部門に係る権利義務を承継する吸収分割、DIAMを吸収合併存続会社、MHAMを吸収合併消滅会社とする吸収合併の順に実施しております。

4. 結合後企業の名称

アセットマネジメントOne株式会社

5. 企業結合の主な目的

当社は、株式会社みずほフィナンシャルグループ(以下「MHFG」という)及び第一生命ホールディングス株式会社(以下「第一生命」という)の資産運用ビジネス強化・発展に対する強力なコミットメントのもと、統合4社が長年にわたって培ってきた資産運用に係わる英知を結集し、MHFGと第一生命両社グループとの連携も最大限活用して、お客さまに最高水準のソリューションを提供するグローバルな運用会社としての飛躍を目指してまいります。

6. 合併比率

「3. 企業結合の方法」の吸収合併における合併比率は以下の通りであります。

会社名	DIAM (存続会社)	MHAM (消滅会社)
合併比率(*)	1	0.0154

(*) 普通株式と種類株式を合算して算定しております。

7. 交付した株式数

「3. 企業結合の方法」の吸収合併において、DIAMは、MHAMの親会社であるMHFGに対して、その所有するMHAMの普通株式103万8,408株につき、DIAMの普通株式490株及び議決権を有しないIA種類株式15,510株を交付しました。

8. 経済的持分比率(議決権比率)

MHFGが企業結合直前に所有していた当社に対する経済的持分比率 50.00%

MHFGが企業結合日に追加取得した当社に対する経済的持分比率 20.00%

MHFGの追加取得後の当社に対する経済的持分比率 70.00%

なお、MHFGが所有する議決権比率については50.00%から51.00%に異動しております。

9. 取得企業を決定するに至った主な根拠

「3. 企業結合の方法」の吸収合併において、法的に消滅会社となるMHAMの親会社であるMHFGが、結合後企業の議決権の過半数を保有することになるため、企業結合の会計上はMHAMが取得企業に該当し、DIAMが被取得企業となるものです。

10. 会計処理

「企業結合に関する会計基準」(企業結合会計基準第21号 平成25年9月13日公表分)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成25年9月13日公表分)に基づき、「3. 企業結合の方法」の吸収合併及びの吸収分割については共通支配下の取引として処理し、の吸収合併については逆取得として処理しております。

11. 被取得企業に対してパーチェス法を適用した場合に関する事項

(1) 被取得企業の取得原価及びその内訳

取得の対価	MHAMの普通株式	144,212百万円
取得原価		144,212百万円

(2) 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

a. 発生したのれん	金額	76,224百万円
b. 発生原因		被取得企業から受け入れた資産及び引き受けた負債の純額と取得原価との差額によります。
c. のれんの償却方法及び償却期間		20年間の均等償却

(3) 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

a. 資産の額	資産合計	40,451百万円
	うち現金・預金	11,605百万円
	うち金銭の信託	11,792百万円
b. 負債の額	負債合計	9,256百万円
	うち未払手数料及び未払費用	4,539百万円

(注) 顧客関連資産に配分された金額及びそれに係る繰延税金負債は、資産の額及び負債の額には含まれておりません。

(4) のれん以外の無形固定資産に配分された金額及び主要な種類別の内訳並びに全体及び主要な種類別の加重平均償却期間

a. 無形固定資産に配分された金額	53,030百万円
b. 主要な種類別の内訳	
顧客関連資産	53,030百万円
c. 全体及び主要な種類別の加重平均償却期間	
顧客関連資産	16.9年

12. 被取得企業に対してパーチェス法を適用した場合の差額

(1) 貸借対照表項目

	第37期 (2022年3月31日現在)	第38期 (2023年3月31日現在)
流動資産	- 百万円	- 百万円
固定資産	76,763百万円	68,921百万円
資産合計	76,763百万円	68,921百万円
流動負債	- 百万円	- 百万円
固定負債	4,740百万円	3,643百万円
負債合計	4,740百万円	3,643百万円
純資産	72,022百万円	65,278百万円

(注) 固定資産及び資産合計には、のれん及び顧客関連資産の金額が含まれております。

のれん	55,263百万円	51,451百万円
顧客関連資産	25,175百万円	20,947百万円

(2) 損益計算書項目

	第37期 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	第38期 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
営業収益	- 百万円	- 百万円
営業利益	8,429百万円	8,039百万円
経常利益	8,429百万円	8,039百万円
税引前当期純利益	8,429百万円	8,039百万円
当期純利益	7,015百万円	6,744百万円
1株当たり当期純利益	175,380円68銭	168,617円97銭
(注) 営業利益には、のれん及び顧客関連資産の償却額が含まれております。		
のれんの償却額	3,811百万円	3,811百万円
顧客関連資産の償却額	4,618百万円	4,228百万円

（資産除去債務関係）

当社は建物所有者との間で不動産賃貸借契約を締結しており、賃借期間終了時に原状回復する義務を有しているため、契約及び法令上の資産除去債務を認識しております。

なお、当該賃貸借契約に関連する長期差入保証金（敷金）が計上されているため、資産除去債務の負債計上に代えて、当該敷金の回収が最終的に見込めないと認められる金額を合理的に見積り、そのうち当期の負担に属する金額を費用計上し、直接減額しております。

（収益認識関係）

1. 収益の分解情報

収益の構成は次の通りです。

	第37期 （自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）	第38期 （自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）
委託者報酬	108,259百万円	95,739百万円
運用受託報酬	14,425百万円	14,651百万円
投資助言報酬	1,587百万円	2,048百万円
成功報酬（注）	2,594百万円	1,499百万円
その他営業収益	12百万円	23百万円
合計	126,879百万円	113,962百万円

（注）成功報酬は、前事業年度においては損益計算書の委託者報酬及び運用受託報酬、当事業年度においては損益計算書の運用受託報酬に含めて表示しております。

2. 収益を理解するための基礎となる情報

収益を理解するための基礎となる情報は「重要な会計方針 6. 収益及び費用の計上基準」に記載の通りであります。

（セグメント情報等）

1. セグメント情報

当社は、資産運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

2. 関連情報

第37期（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）及び第38期（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

（1）サービスごとの情報

サービス区分の決定方法は、損益計算書の営業収益の区分と同一であることから、サービスごとの営業収益の記載を省略しております。

（2）地域ごとの情報

営業収益

本邦の外部顧客に対する営業収益に区分した金額が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

（3）主要な顧客ごとの情報

特定の顧客に対する営業収益で損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

（持分法損益等）

当社は2022年8月1日付でPayPayアセットマネジメント株式会社の株式を取得し持分法適用関連会社としておりますが、重要性が乏しいため、関連会社に対する投資の金額等の記載を省略しております。

(関連当事者情報)

1. 関連当事者との取引

(1) 親会社及び法人主要株主等

第37期(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

該当はありません。

第38期(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

該当はありません。

(2) 子会社及び関連会社等

第37期(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

該当はありません。

第38期(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

該当はありません。

(3) 兄弟会社等

第37期(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

属性	会社等の名称	住所	資本金 又は 出資金	事業の 内容又 は職業	議決権 等の所 有(被 所有) 割合	関係内容		取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
						役員の 兼任等	事業上 の関係				
親 会 社 の 子 会 社	株式会社 みずほ銀 行	東京都 千代田 区	14,040 億円	銀行業	-	-	当社設定 投資信託 の販売	投資信託の 販売代行手 数料	7,789	未払 手数料	1,592
	みずほ証 券株式会 社	東京都 千代田 区	1,251 億円	証券業	-	-	当社設定 投資信託 の販売	投資信託の 販売代行手 数料	16,373	未払 手数料	2,651

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注1) 投資信託の販売代行手数料は、一般的取引条件を勘案した個別契約により決定しております。

(注2) 上記の取引金額には消費税等が含まれておりません。期末残高には、消費税等が含まれております。

第38期(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

属性	会社等の名称	住所	資本金 又は 出資金	事業の 内容又 は職業	議決権 等の所 有(被 所有) 割合	関係内容		取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
						役員の 兼任等	事業上 の関係				
親 会 社 の 子 会 社	株式会社 みずほ銀 行	東京都 千代田 区	14,040 億円	銀行業	-	-	当社設定 投資信託 の販売	投資信託の 販売代行手 数料	7,474	未払 手数料	1,579
	みずほ証 券株式会 社	東京都 千代田 区	1,251 億円	証券業	-	-	当社設定 投資信託 の販売	投資信託の 販売代行手 数料	13,932	未払 手数料	2,404

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注1) 投資信託の販売代行手数料は、一般的取引条件を勘案した個別契約により決定しております。

(注2) 上記の取引金額には消費税等が含まれておりません。期末残高には、消費税等が含まれております。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

株式会社みずほフィナンシャルグループ

(東京証券取引所及びニューヨーク証券取引所に上場)

(2) 重要な関連会社の要約財務諸表

該当はありません

(1株当たり情報)

	第37期 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	第38期 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
1株当たり純資産額	1,939,327円79銭	1,975,862円96銭
1株当たり当期純利益金額	387,499円36銭	345,535円19銭

(注1) 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在していないため記載しておりません。

(注2) 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	第37期 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	第38期 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
当期純利益金額	15,499百万円	13,821百万円
普通株主及び普通株主と同等の株主に帰属しない金額	-	-
普通株式及び普通株式と同等の株式に係る当期純利益金額	15,499百万円	13,821百万円
普通株式及び普通株式と同等の株式の期中平均株式数	40,000株	40,000株
(うち普通株式)	(24,490株)	(24,490株)
(うちA種種類株式)	(15,510株)	(15,510株)

(注1) A種種類株式は、剰余金の配当請求権及び残余財産分配請求権について普通株式と同等の権利を有しているため、1株当たり情報の算定上、普通株式に含めて計算しています。

4【利害関係人との取引制限】

委託会社は、「金融商品取引法」の定めるところにより、利害関係人との取引について、次に掲げる行為が禁止されています。

- (1) 自己またはその取締役もしくは執行役との間における取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)。
- (2) 運用財産相互間において取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)。
- (3) 通常の見積りの条件と異なる条件であって取引の公正を害するおそれのある条件で、委託会社の親法人等(委託会社の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下(4)(5)において同じ。)または子法人等(委託会社が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。)と有価証券の売買その他の取引または店頭デリバティブ取引を行うこと。
- (4) 委託会社の親法人等または子法人等の利益を図るため、その行う投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額もしくは市場の状況に照らして不必要な取引を行うことを内容とした運用を行うこと。
- (5) 上記(3)(4)に掲げるもののほか、委託会社の親法人等または子法人等が関与する行為であって、投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為。

5【その他】

(1) 定款の変更、事業譲渡又は事業譲受、出資の状況その他の重要事項

委託会社は、アストマックス株式会社からPayPayアセットマネジメント株式会社(以下「PPAM」といいます。)の発行済株式の49.9%を2022年8月1日付で譲り受けており、同日付でPPAMは委託会社の関連会社となりました。

(2) 訴訟事件その他の重要事項

委託会社およびファンドに重要な影響を与えた事実、または与えると予想される事実はありません。

第2【その他の関係法人の概況】

1【名称、資本金の額及び事業の内容】

(1)受託会社

名称	みずほ信託銀行株式会社
資本金の額	247,369百万円（2022年3月末日現在）
事業の内容	日本において銀行業務および信託業務を営んでいます。

(2)販売会社

販売会社の名称、資本金の額および事業内容は以下の「販売会社一覧表」の通りです。

名 称	資本金の額 (単位:百万円)	事 業 の 内 容
みずほ証券株式会社（ ）	125,167	「金融商品取引法」に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。

（注）資本金の額は2022年3月末日現在

（ ）新規の取得のお申込みのお取扱いを行っておりません。

2【関係業務の概要】

「受託会社」は、以下の業務を行います。

- (1)委託会社の指図に基づく信託財産の管理、保管、処分
- (2)信託財産の計算
- (3)信託財産に関する報告書の作成
- (4)その他上記に付帯する業務

「販売会社」は、以下の業務を行います。

- (1)募集の取扱い
- (2)追加設定の申込事務
- (3)信託契約の一部解約事務
- (4)受益者に対する収益分配金、一部解約金および償還金の支払い
- (5)受益者に対する収益分配金の再投資
- (6)受益者に対する投資信託説明書（目論見書）および運用報告書の交付
- (7)その他上記に付帯する業務

3【資本関係】

該当事項はありません。

持株比率5%以上を記載します。

第3【参考情報】

ファンドについては、当計算期間において以下の書類を提出いたしました。

提出年月日	提出書類
2023年1月11日	臨時報告書
2023年2月21日	有価証券報告書
2023年2月21日	有価証券届出書
2023年4月5日	臨時報告書

独立監査人の監査報告書

2023年5月25日

アセットマネジメントOne株式会社
取締役会 御中EY新日本有限責任監査法人
東京事務所指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 丘本 正彦指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 長谷川 敬指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 稲葉 宏和

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているアセットマネジメントOne株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの第38期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、アセットマネジメントOne株式会社の2023年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、監査した財務諸表を含む開示書類に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。

当監査法人は、その他の記載内容が存在しないと判断したため、その他の記載内容に対するいかなる作業も実施していない。

財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業的前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業的前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注1) 上記の監査報告書の原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

(注2) X B R L データは監査の対象には含まれておりません。

独立監査人の監査報告書

2023年7月28日

アセットマネジメントOne株式会社

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人
東京事務所指定有限責任社員 公認会計士 森重俊寛
業務執行社員

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているみずほジャパン・アクティブ・ストラテジー（通貨選択型）円コースの2022年11月22日から2023年5月22日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー（通貨選択型）円コースの2023年5月22日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、アセットマネジメントOne株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

アセットマネジメントOne株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注1) 上記の監査報告書の原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

(注2) X B R L データは監査の対象には含まれておりません。

独立監査人の監査報告書

2023年7月28日

アセットマネジメントOne株式会社

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人
東京事務所指定有限責任社員 公認会計士 森重俊寛
業務執行社員

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているみずほジャパン・アクティブ・ストラテジー(通貨選択型)米ドルコースの2022年11月22日から2023年5月22日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー(通貨選択型)米ドルコースの2023年5月22日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、アセットマネジメントOne株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

アセットマネジメントOne株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注1) 上記の監査報告書の原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

(注2) XBR Lデータは監査の対象には含まれておりません。

独立監査人の監査報告書

2023年7月28日

アセットマネジメントOne株式会社

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人
東京事務所指定有限責任社員 公認会計士 森重俊寛
業務執行社員

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているみずほジャパン・アクティブ・ストラテジー（通貨選択型）豪ドルコースの2022年11月22日から2023年5月22日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー（通貨選択型）豪ドルコースの2023年5月22日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、アセットマネジメントOne株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

アセットマネジメントOne株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注1) 上記の監査報告書の原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

(注2) X B R L データは監査の対象には含まれておりません。

独立監査人の監査報告書

2023年7月28日

アセットマネジメントOne株式会社

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人
東京事務所指定有限責任社員 公認会計士 森重俊寛
業務執行社員

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているみずほジャパン・アクティブ・ストラテジー(通貨選択型)メキシコペソコースの2022年11月22日から2023年5月22日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー(通貨選択型)メキシコペソコースの2023年5月22日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、アセットマネジメントOne株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業的前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業的前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

アセットマネジメントOne株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注1) 上記の監査報告書の原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

(注2) XBR Lデータは監査の対象には含まれておりません。

独立監査人の監査報告書

2023年7月28日

アセットマネジメントOne株式会社

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人
東京事務所指定有限責任社員 公認会計士 森重俊寛
業務執行社員

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているみずほジャパン・アクティブ・ストラテジー（通貨選択型）トルコリラコースの2022年11月22日から2023年5月22日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー（通貨選択型）トルコリラコースの2023年5月22日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、アセットマネジメントOne株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業的前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業的前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

アセットマネジメントOne株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注1) 上記の監査報告書の原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

(注2) XBR Lデータは監査の対象には含まれておりません。

独立監査人の監査報告書

2023年7月28日

アセットマネジメントOne株式会社

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人
東京事務所指定有限責任社員 公認会計士 森重俊寛
業務執行社員

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているみずほジャパン・アクティブ・ストラテジー（通貨選択型）ブラジルリアルコースの2022年11月22日から2023年5月22日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、みずほジャパン・アクティブ・ストラテジー（通貨選択型）ブラジルリアルコースの2023年5月22日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、アセットマネジメントOne株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業的前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業的前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

アセットマネジメントOne株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注1) 上記の監査報告書の原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

(注2) XBR Lデータは監査の対象には含まれておりません。